
Groupmax Form Version 6 for Active Server Pages 使用の手引

解説・手引書

3020-3-B37-30

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，
巻末の用紙をご利用ください。

HITACHI

対象製品

P-2446-7K44 Groupmax Web Workflow サーバセット for Active Server Pages 06-52(適用 OS: Windows NT 4.0 Server, Windows 2000 Server, Windows 2000 Advanced Server) なお, このマニュアルは, 「Groupmax Form Version 6 for Active Server Pages 06-52」に適用しています。

P-2646-8F44 Groupmax Web Workflow SDK セット for Active Server Pages 06-52 (適用 OS: Windows NT 4.0 Server, Windows NT 4.0 Workstation, Windows 95, Windows 98, Windows 2000 Professional, Windows 2000 Server, Windows 2000 Advanced Server, Windows Me, Windows XP) なお, このマニュアルは, 「Groupmax Form Client Version 6 for Active Server Pages 06-52」に適用しています。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には, 外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上, 必要な手続きをお取りください。

なお, ご不明な場合は, 弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

ActiveX は, 米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の商標です。

Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは, 米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Lotus Notes は, 米国 Lotus Development Corp. の商品名称です。

Microsoft は, 米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Excel は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Exchange Server は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Internet Explorer は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Internet Information Server は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Office は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft SQL Server は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Netscape は, 米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。

Netscape(R) Communicator は, Netscape Communications Corporation の商標です (一部の国では, 登録商標となっています)。

Netscape Navigator は, 米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。

ODBC は, 米国 Microsoft Corp. が提唱するデータベースアクセス機構です。

OLE は, 米国 Microsoft Corp. が開発したソフトウェア名称です。

OLE は, Object Linking and Embedding の略です。

ORACLE は, 米国 Oracle Corporation の登録商標です。

OS/2 は, 米国における米国 International Business Machines Corp. の登録商標です。

OutLook は, 米国 Banyan Systems, Inc. の商品名称です。

UNIX は, X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Visual Basic は, 米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Visual InterDev は, 米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の商標です。

Windows は, 米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows NT は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
XSL は、the World Wide Web Consortium の商標です。

発行

2001 年 1 月 (第 1 版) 3020-3-B37

2004 年 4 月 (第 4 版) 3020-3-B37-30

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2001, 2004, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-B37-30) Groupmax Form Version 6 for Active Server Pages

追加・変更機能	変更箇所
簡易版複数伝票機能を追加しました。	2.3.4(7), 5 (関数及びセッション変数の一覧), 5 (GFormRedirect 関数), 5 (GFormGroupEnd 関数)
次の案件処理の処理コマンドを使用できるようにしました。 <ul style="list-style-type: none">• @ 案件差戻先指定• @ 案件差戻先取得• @ 案件相談先指定• @ 案件複写先指定• @ 案件複写先取得• @ 案件振替先指定	4.2.3(7)
次の関数を使用できるようにしました。 <ul style="list-style-type: none">• @ASP 関数呼出 'GfxGetStampGifFile'• @ASP 関数呼出 'GfxXMLInput'• @ASP 関数呼出 'GfxXMLOutput'	4.2.3(12)
実行中の伝票から Excel ファイルを操作できる JavaScript の直接記述用関数のサンプルを追加しました。	付録 C(6)

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3020-3-B37-20) Groupmax Form Version 6 for Active Server Pages

追加・変更機能
ASP 変換時の「ASP 環境設定ダイアログボックス」の指定内容の「使用するブラウザ」に「IE6 以降」を追加しました。
[ASP 環境設定] ダイアログボックスの画面レイアウトを変更しました。
「文字列項目のエンコード」オプションの対象に XSLT を追加しました。
「XSL ファイル」オプションの記述を追加しました。
ASP 変換時に XSL ファイルの作成規則を追加しました。
WWW サーバへのファイルの格納に XSL ファイルの格納規則を追加しました。
関数 GfxDmGetgfacmd, GfxDmGetDocOid, GfxDmInput, GfxDmUpdate, GfxDmDelete, GfxDmUnlock を追加しました。
文書変換プログラムを追加しました。

変更内容 (3020-3-B37-10) Groupmax Form Version 6 for Active Server Pages

追加・変更機能

ASP 変換時の「ASP 環境設定ダイアログボックス」の指定内容に「ブラウザ標準の囲み罫線」「数値項目の数値チェック」を追加しました。

「Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ」ダイアログボックスの「作業環境タブ」に「ファイルダウンロード時の動作」を追加しました。

添付ファイル操作画面の画面レイアウトを変更しました。

案件処理コマンド「@ 案件宛先」「@ 案件ロール指定」を追加しました。

関数 STRTOUPP, STRTOMBC, GfSTRTOMBB を追加しました。

GFormSetItemValue 関数でのシステム変数 ¥ERRTN, ¥ERCODE, ¥ERMSG への設定を支援しました。

VBScript を直接記述するときを使用できる関数に GFormWFEndProc, GfGetSlipName, GfGetSlipTitle を追加しました。

Session("_GfcLabel") セッション変数を追加しました。

操作画面ラベルのカスタマイズ機能を追加しました。

伝票作成に利用できるサンプルを追加しました。

はじめに

このマニュアルは、Groupmax Version 6i のアプリケーションである Groupmax Form Version 6 for Active Server Pages (以降、Groupmax Form for ASP と表記します) について説明したものです。Groupmax Form for ASP は、Groupmax のアプリケーションで作成した電子帳票を変換して ASP (Active Server Pages) アプリケーションを作成し、イントラネット上で伝票発行業務を実行できるようにするプログラムです。このマニュアルは、Groupmax Form for ASP を使った業務の作成及び実行方法と、Groupmax Form Client で作成した伝票との機能差異を知っていただくことを目的としています。

なお、マニュアル内では Groupmax Version 6i を Groupmax と呼びます。

対象読者

このマニュアルは、WWW (World Wide Web) 上での伝票発行業務を作成するプログラマ、及び WWW 上で伝票発行業務を実行するエンドユーザを対象にしています。また、Groupmax Form Client での伝票発行業務の作成と実行について理解していることを前提としています。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 概要

Groupmax Form for ASP の機能の概要について説明しています。

第 2 章 業務の作成

WWW 上で使用する伝票の作成、ASP ファイルへの変換、及びサーバへの格納方法について説明しています。

第 3 章 業務の実行

WWW 上での伝票の使用方法について説明しています。

第 4 章 Groupmax Form Client との相違

Groupmax Form Client と Groupmax Form for ASP での、業務の作成に関する仕様の相違について説明しています。

第 5 章 関数及びセッション変数の文法

Groupmax Form for ASP で提供している関数及びセッション変数について説明しています。

付録 A インストール方法

Groupmax Form for ASP のインストール方法について説明しています。

付録 B 操作画面ラベルのカスタマイズ

操作画面のラベルをカスタマイズする方法について説明しています。

はじめに

付録 C サンプルファイルの提供

Groupmax Form for ASP で提供しているサンプルファイルの概要について説明しています。

付録 D 文書変換プログラム

一般文書の表示に伝票 .asp を使用する形式の文書を、XSL ファイルを使用する形式に変換するプログラムの使用方法について説明しています。

関連マニュアル

Groupmax Form for ASP と関連するプログラムのマニュアルを次に示します。

Groupmax Form Version 6 概説 (3020-3-B30)

電子帳票システム Groupmax Form の機能の概要を説明しています。

Groupmax Form Version 6 ユーザーズガイド (3020-3-B36)

電子帳票システム Groupmax Form の機能と操作方法を説明しています。

Groupmax Workflow Version 6 概説 (3020-3-B31)

ワークフローシステム Groupmax Workflow の機能概要を説明しています。

Groupmax Workflow Version 6 ビジュアル定義・シミュレータ・運用モニタ ユーザーズガイド (3020-3-B43)

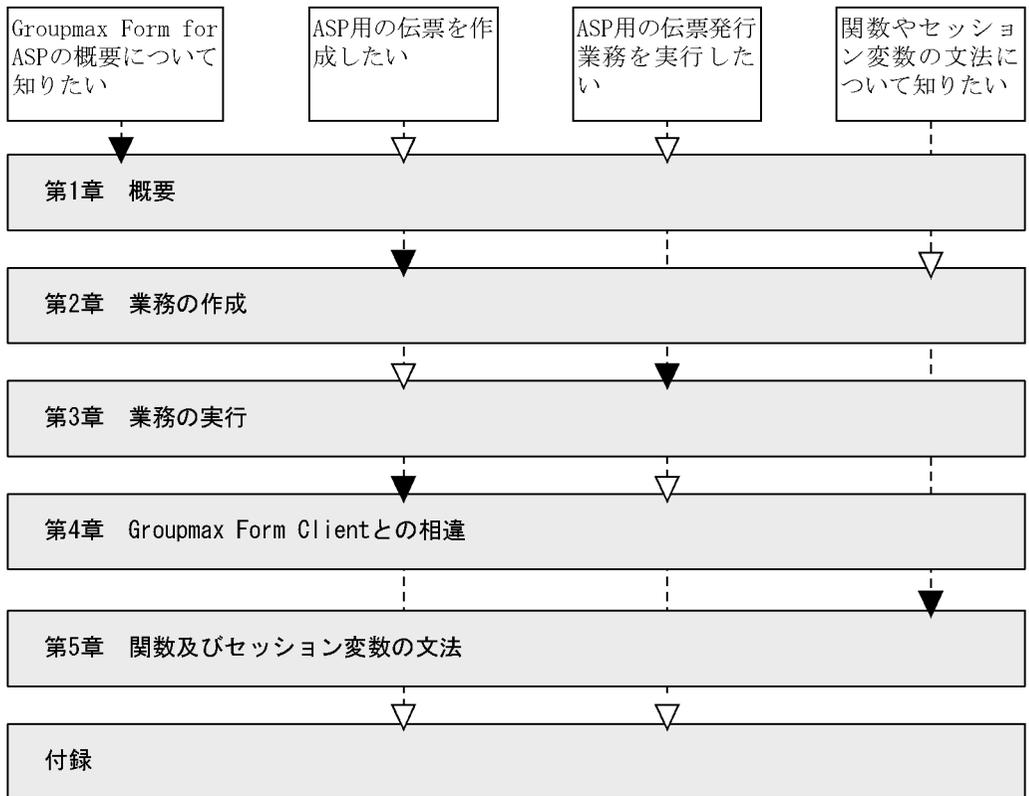
ワークフローシステムでの業務の定義から運用、管理までを支援するツールである Workflow Definer、Workflow Simulator、及び Workflow Monitor の機能や使用方法について説明しています。

Groupmax Workflow Version 6 for Active Server Pages 使用の手引 (3020-3-B67)

インターネット又はイントラネット環境で、WWW ブラウザから Groupmax Workflow の機能を利用するための業務プログラムの開発方法について説明しています。

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて、章を選択してお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)



: 必ず読む項目



: 必要に応じて読む項目

図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を次のように定義します。

● パーソナル
コンピュータ



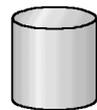
● 入出力の動作



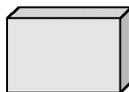
● 画面の表示



● ファイル



● プログラム



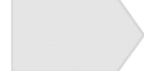
● 制御の流れ



● データの流れ



● 工程、作業項目の
流れ



このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称又は総称を次に示す略称で表記します。

製品名称又は総称	略称
Microsoft(R) Active Server Pages	Active Server Pages
Microsoft(R) Exchange 2000 Server	Exchange
Microsoft(R) Excel	Excel
Groupmax Data Access Library Version 6 for XML	Groupmax Data Access Library for XML
Groupmax Document Manager Version 6	Groupmax Document Manager
Groupmax Document Manager Version 6 for Active Server Pages	Groupmax Document Manager for ASP
Groupmax Form Version 6	Groupmax Form
Groupmax Form Client - Design Version 6	Groupmax Form Client
Groupmax Form Client Version 6	
Groupmax Form Client Version 6 for Active Server Pages	Groupmax Form Client for Active Server Pages
Groupmax Form Version 6 for Active Server Pages (サーバ製品)	Groupmax Form for Active Server Pages
Groupmax Form Version 6 for Active Server Pages (総称)	Groupmax Form for ASP
Groupmax Workflow Version 6	Groupmax Workflow
Groupmax Workflow - Development Kit Version 6 for Active Server Pages	Groupmax Workflow - Development Kit for ASP
Groupmax Workflow Version 6 for Active Server Pages	Groupmax Workflow for ASP
Microsoft(R) Internet Information Server	IIS
Microsoft(R) Internet Information Services	
Microsoft(R) Internet Explorer	Internet Explorer
Netscape(R) Communicator	Netscape
Netscape Navigator	
Microsoft(R) Outlook(TM) 97	Outlook
Microsoft(R) Outlook(TM) 98	
Microsoft(R) Outlook(R) 2000	
Microsoft(R) Visual Basic(R) Scripting Edition	VBScript
Microsoft(R) Visual InterDev(TM)	Visual InterDev
Microsoft(R) Windows(R) 95 Operating System	Windows 95
Microsoft(R) Windows(R) 98 Operating System	Windows 98

製品名称又は総称	略称
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System	Windows 2000 Advanced Server 又は Windows 2000
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System	Windows 2000 Professional 又は Windows 2000
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System	Windows 2000 Server 又は Windows 2000
Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition	Windows Me
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional, Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition	Windows XP
Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version 4.0	Windows NT 4.0 Server 又は Windows NT
Microsoft(R) Windows NT(R) WorkStation Operating System Version 4.0	Windows NT 4.0 Workstation 又は Windows NT

なお、Windows NT と Windows 2000 を総称して Windows と表記することがあります。Groupmax Web Workflow サーバセット for Active Server Pages の適用 OS には、Windows 2000 Professional は含まれません。Groupmax Web Workflow サーバセット for Active Server Pages を使用される方がこのマニュアルをお読みになる場合、Windows 2000 は Windows 2000 Server 及び Windows 2000 Advanced Server を指しているものとしてお読みください。

このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルでは、次に示す正式名称を英略語で表記します。

英略語	正式名称
ADO	<u>A</u> ctive <u>X</u> <u>D</u> ata <u>O</u> bject
ASP	<u>A</u> ctive <u>S</u> erver <u>P</u> ages
CDO	<u>C</u> ollaboration <u>D</u> ata <u>O</u> bjects
CSV	<u>C</u> omma <u>S</u> eparated <u>V</u> alue
DBMS	<u>D</u> ata <u>B</u> ase <u>M</u> anagement <u>S</u> ystem
DHTML	<u>D</u> ynamic <u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage
DLL	<u>D</u> ynamic <u>L</u> inking <u>L</u> ibrary
HTML	<u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage
HTTP	<u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol
IIS	Microsoft(R) <u>I</u> nternet <u>I</u> nformation <u>S</u> erver
INC	<u>I</u> <u>N</u> <u>C</u> lude
MIME	<u>M</u> ulti-purpose <u>I</u> nternet <u>M</u> ail <u>E</u> xtensions

英略語	正式名称
ODBC	<u>O</u> pen <u>D</u> atabase <u>C</u> onnectivity
OLE	<u>O</u> bject <u>L</u> inking and <u>E</u> mbedding
SQL	<u>S</u> tructured <u>Q</u> uery <u>L</u> anguage
URL	<u>U</u> niform <u>R</u> esource <u>L</u> ocator
XML	<u>E</u> xtensible <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage
XSL	<u>E</u> xtensible <u>S</u> tylesheet <u>L</u> anguage
WWW	<u>W</u> orld <u>W</u> ide <u>W</u> eb

メニューコマンドの表記

このマニュアルでは、メニュー名、コマンド名を次のように表記します。

- メニュー名、コマンド名を「[(名称)]」と表記します。
- メニューからコマンドを選択する操作を「[(メニュー名)] - [(コマンド名)]」と表記します。

マニュアルとオンラインヘルプの使い分け

このマニュアルでは、Groupmax Form for ASP で作成できる業務の内容と操作の流れを記述しています。業務を作成するときは、必要に応じて、次に示すオンラインヘルプも参照してください。

処理コマンド文法のヘルプ

処理コマンドの文法を記述しています。Groupmax Form Client の伝票処理ウィンドウで参照できます。

[ASP 環境設定] ダイアログボックスのヘルプ

[ASP 環境設定] ダイアログボックスでの、ASP 変換に関する設定について記述しています。[ASP 環境設定] ダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンから参照できます。

サーバ環境設定のヘルプ

Groupmax Form for ASP を使うときの、WWW サーバの環境設定の方法を記述しています。また、伝票の捺印データを操作する、捺印コンポーネントの使い方を記述しています。次に示すファイルを開くと、参照できます。

X¥help¥index.htm

X : Groupmax Form for Active Server Pages (サーバ製品) をインストールしたフォルダ

[Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスのヘルプ

[Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスでの、WWW サーバの環境設定の方法を記述しています。[Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンから参照できます。

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使うことを基本としていますが、次に示す用語については、

常用漢字以外の漢字を使っています。

宛先 (あてさき), 矩形 (くけい), 罫線 (けいせん), 桁 (けた)

捺印 (なついん)

KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

目次

1	概要	1
1.1	Groupmax Form for ASP でできること	2
1.1.1	利用形態	2
1.1.2	WWW 上での伝票の機能	2
1.2	システム構成	5
1.2.1	開発環境	7
1.2.2	サーバ環境	7
1.2.3	クライアント環境	7
2	業務の作成	9
2.1	業務の作成手順	10
2.2	業務共通部の作成	11
2.3	DMA 伝票の作成	14
2.3.1	Groupmax Form Client での DMA 伝票の作成	14
2.3.2	DMA 伝票の変換方式	15
2.3.3	VBScript の直接記述	18
2.3.4	VBScript で使用できる Groupmax Form for ASP の提供関数	21
2.3.5	VBScript で使用できるセッション変数	27
2.3.6	JavaScript の直接記述	28
2.3.7	JavaScript で使用できる ASP 注釈	30
2.3.8	JavaScript で使用できる Groupmax Form for ASP の提供関数	32
2.3.9	@ASP 関数呼出の利用	32
2.4	DMA 伝票の ASP 変換	33
2.4.1	変換時の環境設定	33
2.4.2	ASP 注釈の記述を使用した ASP 変換の設定	36
2.4.3	伝票画面のテスト表示	38
2.4.4	ASP ファイルへの変換	39
2.4.5	伝票変換時の注意事項	39
2.5	WWW サーバへのファイルの格納	41
2.6	業務共通部への ASP 伝票の登録	42
2.6.1	ワークフロー連携用伝票の登録	42
2.6.2	ワークフローと連携しない伝票の登録	43
2.6.3	伝票からの戻り先 URL の変更	43

2.6.4	ユーザ固有引数の追加	43
2.6.5	システム宛先テンプレートページの追加	43
2.6.6	テンプレートページの URL の設定	43
2.6.7	global.asa の編集	44
2.7	WWW サーバの設定	45
2.7.1	サーバサイドインクルードファイルの設定	45
2.7.2	添付ファイルダウンロード用プログラムの設定	45
2.7.3	[Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスでの設定	46
2.7.4	Exchange と連携するための環境設定	54
2.8	データベース利用時の設定	56
2.8.1	アクセス環境	56
2.8.2	ODBC ドライバの設定	56
2.8.3	データベースの共用	57

3

業務の実行	59	
3.1	業務の開始	60
3.2	案件の処理	61
3.2.1	案件の処理画面	61
3.2.2	添付ファイルの操作	63
3.3	捺印機能の利用	67

4

Groupmax Form Client との相違	69	
4.1	画面形式の相違について	70
4.1.1	項目について	70
4.1.2	項目及び伝票全体の属性について	71
4.1.3	画面形式の詳細な相違について	78
4.2	処理定義の相違について	82
4.2.1	処理の実行について	82
4.2.2	イベント処理の実行について	82
4.2.3	処理コマンドの使用について	83
4.2.4	処理定義の詳細な相違について	96

5

関数及びセッション変数の文法	103
関数及びセッション変数の一覧	105

GFormItemValue 関数	107
GFormItemValue 関数	108
GFormAppendDocFile 関数	109
GFormCancelDocFile 関数	111
GFormGetDocFileCount 関数	112
GFormGetDocFileName 関数	113
GFormGetDocFilePath 関数	114
GFormItemInf 関数	115
GFormItemRows 関数	117
GFormChangePasswordDmh 関数	118
GfExchgOutput 関数	119
GfExchgSetInf 関数	122
GfGetSlipName	124
GfGetSlipTitle	125
GFormWFEndProc 関数	126
Session("_GFormREFERER") セッション変数	127
Session("_GFormCaseOID") セッション変数	128
Session("_GfTemplatePath") セッション変数	129
Session("_GfDmUserDir") セッション変数	130
Session("_GfDmServer") セッション変数	131
Session("_Gfclabel") セッション変数	132
GFormRedirect 関数	133
GFormGroupEnd 関数	135

付録	137
付録 A インストール方法	138
付録 B 操作画面ラベルのカスタマイズ	139
付録 B.1 添付ファイル操作画面	139
付録 B.2 案件投入画面	141
付録 B.3 案件遷移画面（遷移）	141
付録 B.4 案件遷移画面（差し戻し）	142
付録 B.5 案件遷移画面（振り替え）	142
付録 B.6 案件遷移画面（相談）	143
付録 C サンプルファイルの提供	144
付録 D 文書変換プログラム	146

目次

図 1-1	Groupmax Form for ASP の利用形態	2
図 1-2	システム構成	6
図 2-1	業務の作成手順	10
図 2-2	業務共通部の作成例	12
図 2-3	伝票画面の表形式の変換例	16
図 2-4	処理定義の変換方式	17
図 2-5	伝票の分割例	23
図 2-6	伝票遷移のイメージ (メインウィンドウ + サブダイアログ構成)	23
図 2-7	伝票遷移のイメージ (ウィザードタイプダイアログ構成)	24
図 2-8	[ASP 環境設定] ダイアログボックス	33
図 2-9	アクセス環境の構成	56
図 3-1	WWW ブラウザに表示される ASP 伝票の例	60
図 3-2	添付ファイル操作画面	64
図 4-1	入力領域を複数作成した場合の相違	79
図 4-2	背景色の相違	79
図 4-3	文字配置 (横方向) の相違	80
図 4-4	文字配置 (縦方向) の相違	81

表目次

表 1-1	WWW 上での伝票の機能	3
表 2-1	変換方式と使用されるグリッド値	16
表 2-2	WWW ブラウザごとの囲み罫線の表示形式	34
表 2-3	フォントサイズの変換	39
表 2-4	電子印と捺印項目のサイズの対応	40
表 2-5	ログの種類と内容	54
表 4-1	項目の使用	70
表 4-2	文字列の項目属性	71
表 4-3	見出し項目の項目属性	71
表 4-4	明細項目の項目属性	73
表 4-5	プッシュボタン項目の項目属性	74
表 4-6	チェックボックス項目の項目属性	75
表 4-7	ラジオボタン項目の項目属性	75
表 4-8	メモ項目の項目属性	76
表 4-9	捺印項目の項目属性	77
表 4-10	伝票全体に関する属性	77
表 4-11	処理の実行	82
表 4-12	イベント処理の実行	82
表 4-13	処理コマンドの使用（処理の流れ）	83
表 4-14	処理コマンドの使用（データ操作）	84
表 4-15	処理コマンドの使用（表示・応答）	86
表 4-16	処理コマンドの使用（処理の呼び出し）	87
表 4-17	処理コマンドの使用（印刷の実行）	87
表 4-18	処理コマンドの使用（データベース操作）	88
表 4-19	処理コマンドの使用（案件処理）	89
表 4-20	処理コマンドの使用（SQL 操作）	91
表 4-21	処理コマンドの使用（文書管理）	91
表 4-22	処理コマンドの使用（Notes 文書）	92
表 4-23	変数の使用	92
表 4-24	関数の使用	93
表 4-25	予約語の使用	94
表 4-26	定数の使用	96
表 5-1	VBScript を直接記述するとき使用できる関数	105

表 5-2	JavaScript を直接記述するとき可以使用できる関数	106
表 5-3	VBScript を直接記述するとき可以使用できるセッション変数	106

1

概要

Groupmax Form for ASP は、Groupmax Form Client で作成した伝票を WWW 上で利用できるようにするソフトウェアです。Groupmax Form for ASP を利用することで、Groupmax Form Client で作成した伝票を、クライアントの WWW ブラウザから使用できます。この章では、Groupmax Form for ASP の概要とシステム構成について説明します。

1.1 Groupmax Form for ASP でできること

1.2 システム構成

1.1 Groupmax Form for ASP ができること

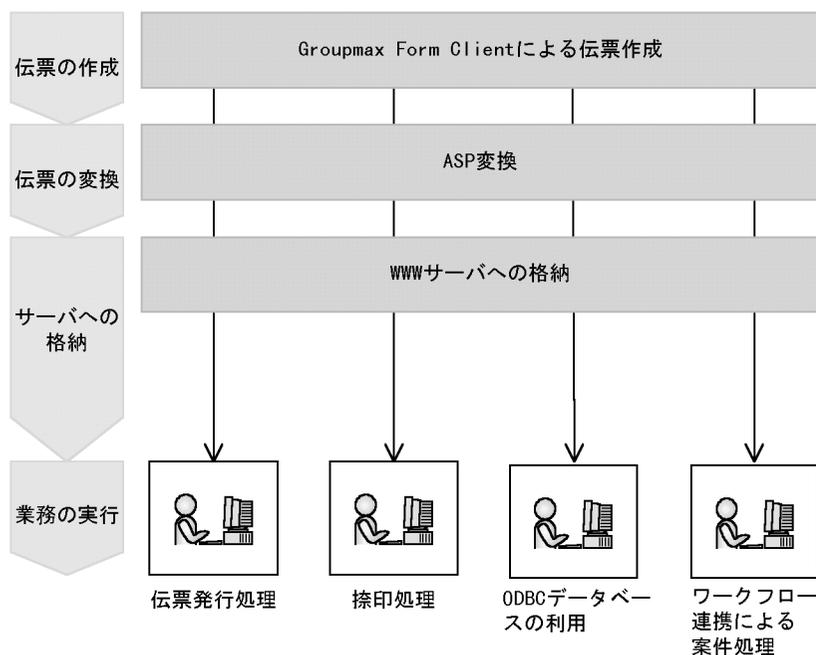
Groupmax Form for ASP の利用形態と WWW 上で使用できる機能について説明します。

1.1.1 利用形態

Groupmax Form Client の伝票を ASP ファイルに変換し、これを WWW サーバに格納することで、WWW 上で使用できるようになります。これによって、図 1-1 に示すように、伝票発行処理だけでなく、Groupmax のワークフローと連携した案件処理が WWW 上でできるようになります。

なお、このマニュアルでは、Groupmax Form Client で作成した伝票 (*.dma) を DMA 伝票、Groupmax Form for ASP で変換した伝票 (*.asp) を ASP 伝票と呼びます。

図 1-1 Groupmax Form for ASP の利用形態



1.1.2 WWW 上での伝票の機能

WWW 上で使用するために、ASP 伝票に変換した伝票の機能について、表 1-1 に示します。

表 1-1 WWW 上での伝票の機能

大分類	中分類	WWW 上での使用	備考
ワークフロー連携	案件投入		@案件投入を使用する場合は、開発環境に Groupmax Workflow - Development Kit for ASP をインストールします。
	案件遷移		@案件遷移を使用する場合は、開発環境に Groupmax Workflow - Development Kit for ASP をインストールします。
	遷移先の選択		
	複写先の選択		
	例外処理		
	案件データ出力		
	案件データ入力		
	案件属性値設定		
	案件属性値参照		
	案件の属性値の候補値選択	-	
	添付ファイル操作		解除以外の機能を対話形式だけで操作します。
	フォーム文書データベースのデータの登録	-	
	案件一括処理	-	
	案件連続処理	-	
案件トレイ操作	-		
文書管理連携	フォーム文書データベースのデータの参照	-	
	フォーム文書データベースのデータの更新	-	
	フォーム文書データベースのデータの登録	-	
	フォーム文書データベースのデータの一括参照	-	
	添付ファイル操作	-	
	文書登録		XML ファイルでの登録だけ支援します。
	案件投入	-	
メール連携		-	
データベース連携	SQL 実行		@ SQL プロシジャは未支援です。

1. 概要

大分類	中分類	WWW 上での使用	備考
	データベース操作	-	
	データベースからのデータ入力	-	
	ローカルデータベースの使用	-	
Lotus Notes 連携		-	
Exchange 連携			Groupmax Form Client では未支援です。 VBScript の直接記述で支援します。
捺印	テキスト形式		
	ビットマップ形式		圧縮形式, OS/2 形式, 及び 256 色を超えるビットマップは未支援です。
印刷		-	
複数伝票		-	
グループ伝票		-	
明細項目の分割		-	
複数明細			Groupmax Form Client では未支援です。
リッチテキスト		-	
画像処理		-	
メモ項目			
入力チェック			
外部呼び出し		-	

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。
- 空欄 : 該当しないことを示します。

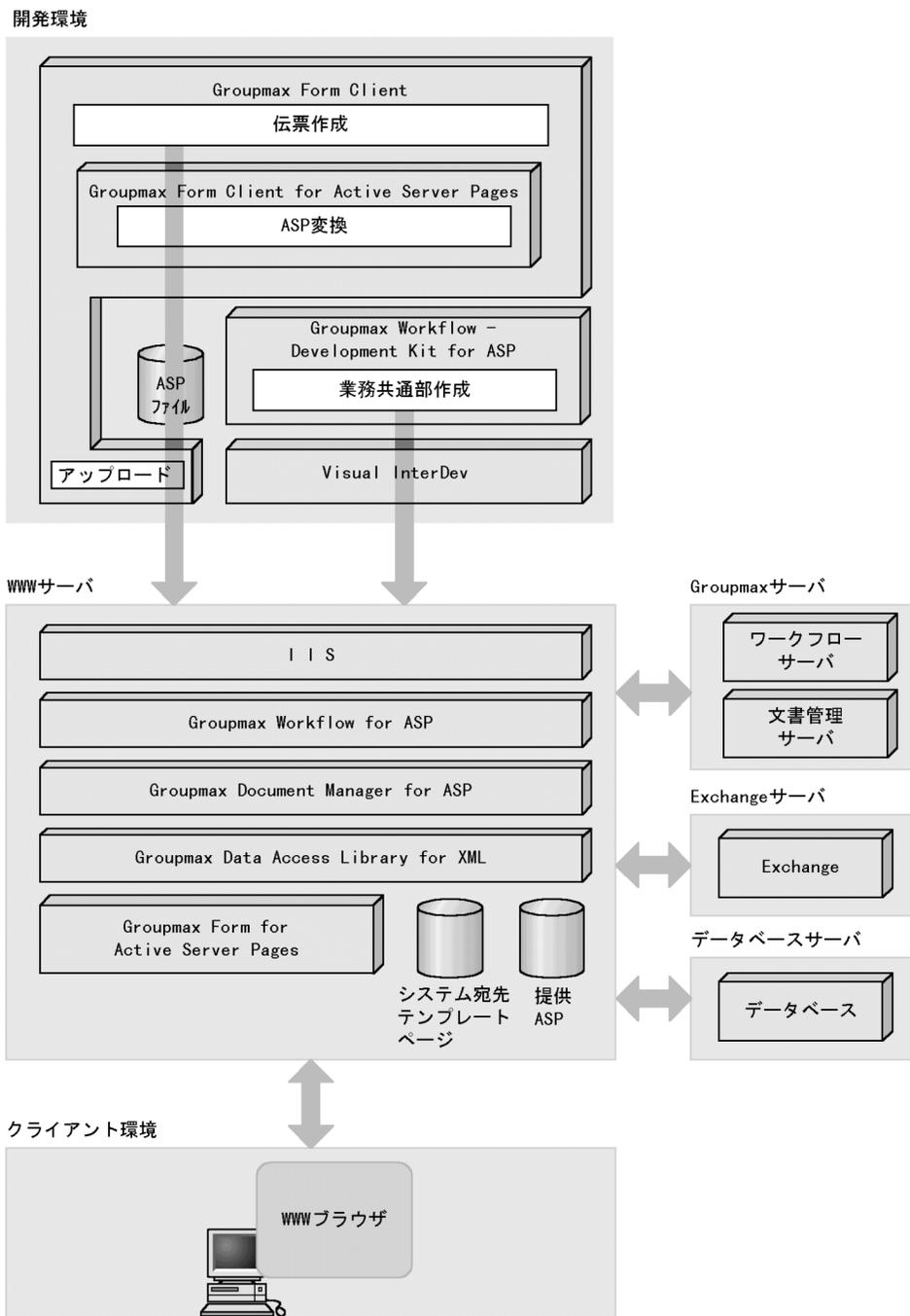
WWW 上での各機能の詳細については、「4. Groupmax Form Client との相違」を参照してください。

1.2 システム構成

Groupmax Form for ASP のシステム構成を、図 1-2 に示します。

1. 概要

図 1-2 システム構成



Groupmax Form Client で作成した DMA 伝票を WWW 上で使用できるように ASP 変換します。ASP 変換は、Groupmax Form Client for Active Server Pages が提供する

ASP 変換機能を使用します。変換時に作成される ASP 伝票は、WWW サーバに格納します。また、ワークフロー、文書管理、Exchange と連携した業務を作成するには、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP で業務共通部を作成します。

WWW サーバに格納した ASP 伝票は、Groupmax Form for Active Server Pages が提供するワークフロー連携機能やデータベース連携機能などを利用して、実行環境（クライアント）の WWW ブラウザで使用できます。

1.2.1 開発環境

次に示すソフトウェアが必要です。

- Groupmax Form Client - Design
- Groupmax Workflow - Development Kit for ASP
- Visual InterDev 1.0 又は 6.0

1.2.2 サーバ環境

WWW サーバ環境を構築するために、次に示すソフトウェアのどちらかが必要です。

- Windows NT 4.0 Server Service Pack 6a, IIS 4.0, Active Server Pages 2.0
- Windows 2000

また、業務サーバ環境を構築するために、次に示すソフトウェアが必要です。

- Groupmax Workflow for ASP
- Groupmax Document Manager for ASP ¹
- Groupmax Data Access Library for XML ¹
- Exchange 2000 Server ²
- ワークフロー環境及び文書管理環境 ¹ を構築できるもの（Groupmax サーバセットなど）

注 1

文書管理と連携した案件処理を実行する場合に必要です。

注 2

Exchange と連携した案件処理を実行する場合に必要です。

1.2.3 クライアント環境

次に示すソフトウェアのどれかが必要です。

- Internet Explorer 3.02 以降
- Netscape Navigator 3.0 以降
- Netscape Communicator 4.01 以降

2

業務の作成

Groupmax Form Client で作成した DMA 伝票を，Active Server Pages を使って WWW 上で利用するには，DMA 伝票を ASP 伝票に変換して WWW サーバに格納する必要があります。この章では，DMA 伝票の定義から，ASP 変換，WWW サーバへの格納などの業務の作成について説明します。

-
- 2.1 業務の作成手順

 - 2.2 業務共通部の作成

 - 2.3 DMA 伝票の作成

 - 2.4 DMA 伝票の ASP 変換

 - 2.5 WWW サーバへのファイルの格納

 - 2.6 業務共通部への ASP 伝票の登録

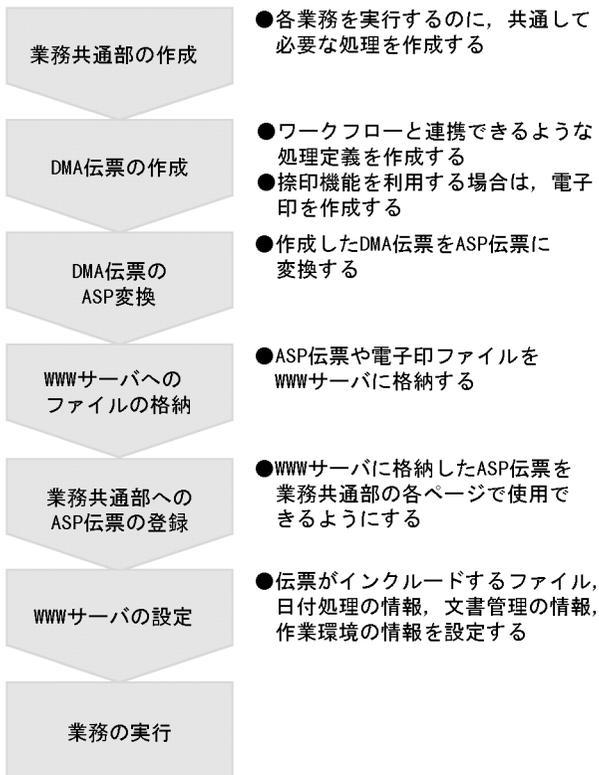
 - 2.7 WWW サーバの設定

 - 2.8 データベース利用時の設定
-

2.1 業務の作成手順

Groupmax Form for ASP での業務の作成手順を図 2-1 に示します。

図 2-1 業務の作成手順



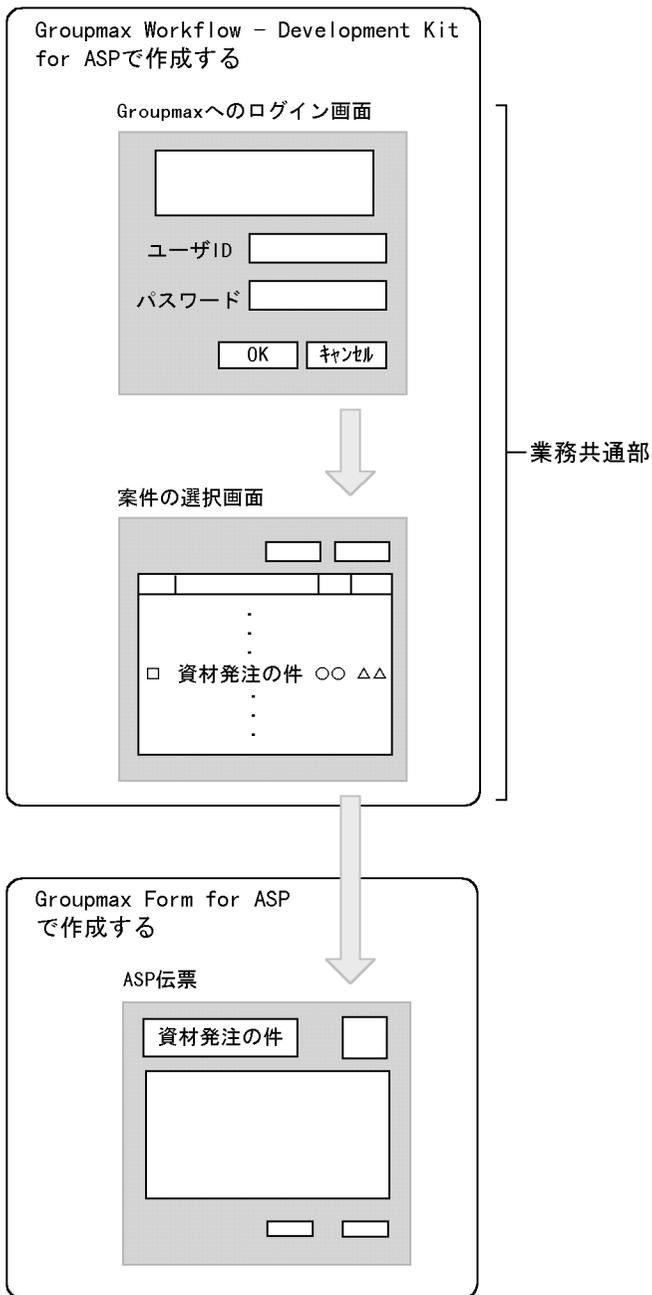
2.2 業務共通部の作成

業務共通部とは、各業務の実行時に共通して必要な処理のことです。

ワークフロー、文書管理、Exchange と連携した業務を作成するには、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP でログインページ、メニューページ、帳票棚ページ、及び受信トレイページなどを業務共通部として作成して、案件投入や案件処理に使用する ASP 伝票を登録しておきます。業務共通部の作成例を、図 2-2 に示します。

2. 業務の作成

図 2-2 業務共通部の作成例



業務共通部の作成方法については、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP とともにインストールされる HTML マニュアルを参照してください。

なお、業務共通部で使用するセッション変数には、Groupmax Form for ASP で使用するセッション変数との重複を避けるため「_GF」以外で始まる名称を付けてください。

「_GF」で始まる名称を使用すると、ASP 伝票へのリンク時に、セッション変数値が破壊されることがあります。

2.3 DMA 伝票の作成

WWW 上で使用する ASP 伝票の変換元になる、DMA 伝票の作成について説明します。

2.3.1 Groupmax Form Client での DMA 伝票の作成

Groupmax Form Client の伝票処理ウィンドウで、ワークフローと連携して起動できる DMA 伝票（案件投入用伝票や案件処理用伝票）を作成してください。

また、Groupmax Form Client で作成した DMA 伝票は、ASP 変換することで WWW 上で使用できます。そのため、ASP 変換時の変換方式を考慮して DMA 伝票を作成してください。DMA 伝票の変換方式については、「2.3.2 DMA 伝票の変換方式」を参照してください。

ワークフローとの連携

@案件データ入力や@案件投入などの処理コマンドを使って、案件処理ができるようにしてください。案件オプションや案件ボタンオプションは使えません。

文書管理との連携

@文書登録を使うと、案件を XML ファイルに出力して、一般文書として文書管理サーバに登録できます。

電子印の作成

捺印機能で使用する電子印は Groupmax Form Client で作成してください。業務で複数の電子印を使用する場合は、一つの電子印ファイルにまとめて保存してください。なお、電子印の一括作成機能を使うと、複数の電子印をまとめて作成できます。

エラー処理方法

自動的なエラー通知は行われません。必ずエラー処理を作成してください。

伝票の終了方法

伝票は、必ず@処理終了を使って終了するように作成してください。

項目属性（数値、桁数）

項目属性（数値、桁数）は、WWW ブラウザ上で入力されたときだけチェックされます。@代入などの処理コマンドを使った場合は、チェックされません。

複数の明細部の作成

Groupmax Form for ASP を使って、WWW 上で使用する ASP 伝票に ASP 変換するときは、繰り返し回数が異なる複数の明細部を作成できます。

複数の明細部を作成するには、伝票処理ウィンドウで [オプション] - [WWW 変換オプション] - [複数明細] を選択します。明細部を作成したら、明細部の外枠をクリックして [属性] - [項目属性] を選択して、明細名を設定します。明細処理行数は支援していないため、設定しても無効になります。

なお、複数の明細部を作成した DMA 伝票は、Groupmax Form Client では実行できません。

ファイルタイトルの指定

DMA 伝票の作成時に指定したファイルタイトルが、実行時に WWW ブラウザのタイトルバーに表示されます。ファイルタイトルは、伝票処理ウィンドウで [ファイル] - [ファイルタイトルの変更 ...] を選択して、[ファイルのタイトル] ダイアログボックスで指定できます。

WWW ブラウザでの処理の実行

作成した処理定義は、全体が WWW サーバで実行される処理 (VBScript) に変換されます。入力チェック処理など WWW ブラウザで実行させたい処理がある場合は、処理定義に ASP 注釈を指定して、WWW ブラウザで実行される処理 (JavaScript) への変換もできます。WWW ブラウザでの処理の実行については、「2.3.2(3) WWW ブラウザでの処理の実行」を参照してください。

スクリプトの直接記述

VBScript や JavaScript の直接記述もできます。VBScript の直接記述については「2.3.3VBScript の直接記述」を、JavaScript の直接記述については「2.3.6 JavaScript の直接記述」を参照してください。

ASP 伝票のテスト表示

ASP 伝票の画面形式は、業務実行時に WWW ブラウザに表示される画面形式を確認しながら作成できます。画面形式の確認については、「2.4.3 伝票画面のテスト表示」を参照してください。

なお、ASP 伝票で使用できる機能の詳細は、「4.Groupmax Form Client との相違」を参照してください。

2.3.2 DMA 伝票の変換方式

ASP 変換での画面と処理定義の変換方式について説明します。

(1) 画面の変換方式

ASP 伝票を表示するときに使用する WWW ブラウザの種類によって、画面の変換方式は異なります。

(a) Internet Explorer 5 以降の WWW ブラウザを使用する場合

Internet Explorer 5 以降の WWW ブラウザを使用する場合、伝票の画面は、DHTML の機能によって、伝票の各項目が座標指定されて表示されます。これによって、その他の WWW ブラウザを使用する場合より、画面表示に関して、変換前と後での、項目の大きさや項目間の間隔の違いが少ない ASP 変換ができます。

なお、この場合、[ASP 環境設定] ダイアログボックスの「使用するブラウザ」オプションで、「IE5」又は「IE6 以降」を選択する必要があります。[ASP 環境設定] ダイアログボックスの設定については、「2.4.1 変換時の環境設定」を参照してください。

2. 業務の作成

(b) その他の WWW ブラウザを使用する場合

Internet Explorer 3.02, Internet Explorer 4.0 又は Netscape を使用する場合, 伝票の画面は, HTML の <TABLE> タグによって, 画面全体が一つの表として変換されます。表の行数や列数は, 伝票の座標値をグリッド値で分割して求められます。

伝票画面の表形式の変換例を図 2-3 に示します。

図 2-3 伝票画面の表形式の変換例

変換前

(Groupmax Form Clientで作成した伝票画面)



変換後

(WWWブラウザに表示される伝票画面)

変換処理に使用されるグリッド値

[ASP 環境設定] ダイアログボックスで選択した変換方式によって, 変換処理に使用されるグリッド値は異なります。変換方式と使用されるグリッド値を, 表 2-1 に示します。

表 2-1 変換方式と使用されるグリッド値

変換方式	グリッドの設定	使用されるグリッド値
標準変換	なし	初期値
	あり	
詳細変換	なし	伝票作成時に設定した値
	あり	

なお、初期値の幅は 22、高さは 44 です。

初期値と異なるグリッド値が設定された DMA 伝票を変換した場合、「標準変換」では変換前と変換後の画面形式に多少のずれが発生します。

「詳細変換」では、設定したグリッド値が小さくても、値に合わせて <TABLE> タグを使って行や列を設定するため、変換前の状態に近い画面形式に変換できます。ただし、WWW ブラウザに表示される行数及び列数が多くなるため、伝票画面を表示するのに時間が掛かります。

項目配置の調整

項目と項目の間には、空の行又は列が複数挿入され、間隔が調整されます。挿入される空の行及び列のサイズは、変換処理に使用されたグリッド値によって決まります。また、表の列幅を均一に保つため、初期設定として伝票の先頭行に、空の行が 1 行挿入されます。

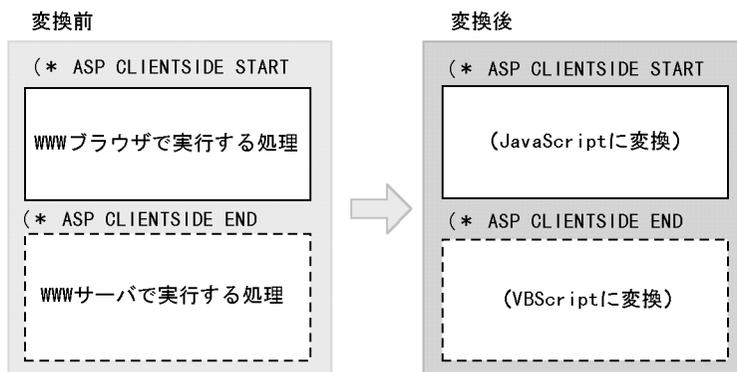
(2) 処理定義の変換方式

Groupmax Form Client で作成した処理定義は、WWW サーバで実行される VBScript と、WWW ブラウザで実行される JavaScript とに変換できます。WWW ブラウザで処理を実行することを指定しなかった場合は、すべての処理定義が、WWW サーバで実行される VBScript に変換されます。

(3) WWW ブラウザでの処理の実行

WWW ブラウザで実行する処理定義は、CLIENTSIDE ASP 注釈で囲むことで、WWW ブラウザで実行できる JavaScript に変換できます。JavaScript に変換する処理定義の最初には開始宣言「(* ASP CLIENTSIDE START」を、最後には終了宣言「(* ASP CLIENTSIDE END」を指定します。処理定義の変換方式を、図 2-4 に示します。

図 2-4 処理定義の変換方式



なお、CLIENTSIDE ASP 注釈の指定には、次に示すような制限があります。制限に反する指定をした場合、ASP 変換又は実行時にエラーになります。

- 開始宣言は、各項目処理の先頭に指定する

2. 業務の作成

- 開始宣言と終了宣言は、各項目処理中に一組だけ指定できる
- 開始宣言と終了宣言で囲んだ処理の中では、項目属性の種別が表示の項目には値を代入できない
- 開始宣言と終了宣言で囲んだ処理の中には、指定できない処理コマンド及び関数がある
指定できない処理コマンド及び関数については、Groupmax Form for ASP のオンラインヘルプを参照してください。
- 次に示す処理は WWW サーバで実行されるため、開始宣言と終了宣言を指定できない
開始処理，前処理，捺印項目の項目処理，後処理，最終処理
- 共通処理には、WWW サーバで実行する処理と WWW ブラウザで実行する処理を混在して指定できない

2.3.3 VBScript の直接記述

WWW サーバで実行される VBScript を、Groupmax Form Client の処理定義ウィンドウでの直接記述もできます。VBScript を直接記述することで、VBScript が提供している関数群、及び Active Server Pages が提供しているコンポーネント群を使用できます。処理定義ウィンドウで直接記述した VBScript は、ASP 変換時に、そのまま ASP 伝票に出力されます。

なお、VBScript は、WWW サーバでだけ実行できます。WWW ブラウザでは実行できません。

VBScript の記述について説明します。

(1) 項目処理の記述

WWW サーバで実行させる項目処理の一部又はすべてを、VBScript で記述できます。項目処理中に VBSCRIPT ASP 注釈「(* ASP VBSCRIPT START」と「(* ASP VBSCRIPT END」を記述して、その間に注釈として VBScript で処理を記述します。VBScript は、開始処理，前処理，共通処理，後処理，最終処理にも記述できます。

```

      .
      .
      .
(* ASP VBSCRIPT START
(*
(*   VBScriptで
(*   処理を記述する
(*
(* ASP VBSCRIPT END
      .
      .

```

VBSCRIPT ASP 注釈は、一つの項目処理の中で複数の箇所に記述できます。次に示す処

理コマンドが記述された項目処理を変換すると、複数の VBScript 関数に分割されるので、VBSCRIPT ASP 注釈を記述するときに注意してください。

@案件投入，@案件遷移，@メッセージボックス，@添付ファイル操作，
@共通手続

(2) 項目処理の実行直前に実行する処理の記述

WWW サーバで実行される項目処理の直前に実行する処理を、VBScript で記述できます。例えば、WWW ブラウザから、文字列項目として ASP 記述で記述した HTML タグに設定した値を取得し、取得した値をローカル変数に設定できます。

任意の共通処理に、VBONREQUEST ASP 注釈「(* ASP VBONREQUEST START」と「(* ASP VBONREQUEST END」を記述して、その間に注釈として VBScript で処理を記述します。ここで記述された処理は、開始処理又は前処理の直前、WWW ブラウザで @処理終了が実行されたときの後処理又は最終処理の直前にも実行されます。

```

      .
      .
      .
(* ASP VBONREQUEST START
(*
(*   VBScriptで
(*   処理を記述する
(*
(* ASP VBONREQUEST END
      .
      .
      .

```

(3) 項目処理の実行直後に実行する処理の記述

WWW サーバで実行される項目処理の直後に実行する処理を、VBScript で記述できます。例えば、セッション変数を経由して、文字列項目として ASP 記述で記述した HTML タグに、ローカル変数の値を設定できます。

任意の共通処理に、VBONRESPONSE ASP 注釈「(* ASP VBONRESPONSE START」と「(* ASP VBONRESPONSE END」を記述して、その間に注釈として VBScript で処理を記述します。ここで記述した処理は、開始処理又は前処理の直後、後処理又は最終処理の直後にも実行されます。

2. 業務の作成

```
      .  
      .  
      .  
(* ASP VBONRESPONSE START  
(*  
(*   VBScriptで  
(*   処理を記述する  
(*  
(* ASP VBONRESPONSE END  
      .  
      .  
      .
```

(4) 関数の記述

VBScript から呼び出す関数を、VBScript で記述できます。任意の共通処理に、VBFUNCTION ASP 注釈「(* ASP VBFUNCTION START」と「(* ASP VBFUNCTION END」を記述して、その間に注釈として VBScript の関数を記述します。

```
      .  
      .  
      .  
(* ASP VBFUNCTION START  
(*  
(*   VBScriptの関数  
(*  
(* ASP VBFUNCTION END  
      .  
      .  
      .
```

(5) スクリプトファイルのインクルード

WWW サーバ上の、VBScript で作成されたスクリプトファイルをインクルードするためのサーバサイドインクルード文を記述できます。部品として作成した VBScript 関数群のスクリプトファイルをインクルードする場合に使用します。

任意の共通処理に、INCLUDE ASP 注釈「(* ASP INCLUDE START」と「(* ASP INCLUDE END」を記述して、その間に「(* <!--#INCLUDE VIRTUAL=" 読み込むスクリプトファイル名 "->」のようにサーバサイドインクルード文の形式で、スクリプトファイルを指定します。

```

      .
      .
      .
(* ASP INCLUDE START
(* <!--#INCLUDE VIRTUAL="読み込むスクリプトファイル名"-->
(* ASP INCLUDE END
      .
      .
      .

```

(6) 注意事項

VBScript を記述するときの注意事項を説明します。

- WWW サーバから WWW ブラウザに処理を移動するスクリプトは記述しない
- 使用する変数は、Dim、Private などのステートメントで宣言しておく
- 使用する変数の変数名は「u_」で始まる名称にする
ASP 変換で作成される変数と、名称が重複するのを防ぐためです。
- 使用するセッション変数の変数名は「_GF」以外で始まる名称にする
Groupmax Form for ASP で使用するセッション変数と、名称が重複するのを防ぐためです。

2.3.4 VBScript で使用できる Groupmax Form for ASP の提供関数

Groupmax Form for ASP が提供している関数を、VBScript で使用できます。使用できる関数を、次に示します。関数の詳細については、「第 5 章 関数及びセッション変数の文法」を参照してください。

(1) 項目値を取得又は設定する

ASP 伝票の項目値を取得するには GFormGetItemValue 関数を、ASP 伝票の項目値を設定するには GFormSetItemValue 関数を使用します。

(2) 項目定義を取得する

ASP 伝票の項目定義（項目数、項目名、項目種別、及び明細行数）を取得するには、GFormGetItemInf 関数、及び GFormGetItemRows 関数を使用します。

(3) 電子印のパスワードを変更する

電子印ファイルに定義されている電子印のパスワードを変更するには、GFormChangePasswordDmh 関数を使用します。

(4) 案件の添付ファイル进行操作する

案件の添付ファイルを WWW サーバで操作するには、GFormAppendDocFile 関数、GFormCancelDocFile 関数、GFormGetDocFileCount 関数、GFormGetDocFileName 関数、GFormGetDocFilePath 関数を使用します。これらの関数群を使用すると、WWW サーバ上の任意のファイルを案件の添付ファイルに追加したり、案件のファイル添付を取り消したりできます。

(5) Exchange と連携する

項目のデータ、案件の添付ファイル、及び案件情報を、Exchange ユーザのメールボックスのフォルダに、Exchange のメッセージとして作成するには、GfExchgOutput 関数、及び GfExchgSetInf 関数を使用します。

作成したメッセージは、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP の送信ログコントロールを使用して作成された、送信ログのページを経由して表示できます。Groupmax Workflow - Development Kit for ASP の送信ログコントロールについては、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP とともにインストールされる HTML マニュアルを参照してください。

Exchange と連携するために必要な環境設定については、「2.7.4 Exchange と連携するための環境設定」を参照してください。

(6) 伝票名、ファイルタイトルを取得する

実行中の伝票の伝票名を取得するには、GfGetSlipName 関数を、実行中の伝票のファイルタイプを取得するには GfGetSlipTitle 関数を使用します。

(7) 簡易版複数伝票機能を使用する

Groupmax Form for World Wide Web の @ 伝票表示機能相当を VBScript 直接記述のレベルで簡易版複数伝票機能として提供します。

(a) 機能の概要

ASP 環境で、一つの伝票に多くの項目を持つ複雑な伝票を作成すると、Web 環境の特性から伝票起動時間など性能に影響します。簡易複数伝票機能を使って複雑な伝票を複数に分割し互いに連動した形の伝票を作成すると、個々の伝票項目数が少なくなるため、システム全体の性能への影響を小さくできます。

(b) 使用方法

複数伝票

簡易複数伝票は、一つの大きな伝票を複数に分割した複数の伝票を互いに連動させた形の伝票を前提とします。そのため、複数伝票間で重複した項目名がないことを基本とします。伝票の分割例を図 2-5 に示します。

図 2-5 伝票の分割例



複数伝票の構成と呼び出し，戻り方法

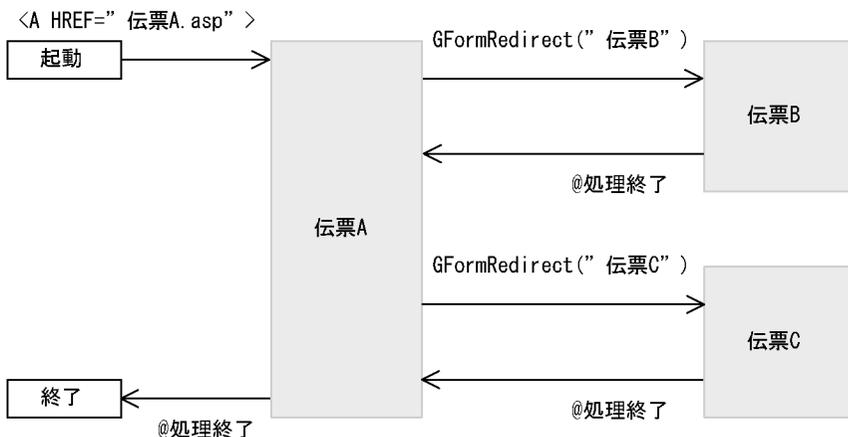
複数伝票は，メインウィンドウ + サブダイアログ構成又はウィザードタイプダイアログ構成を実現できます。各構成の伝票遷移のイメージを図 2-6 及び図 2-7 に示します。

伝票の呼び出しは，GFormRedirect 関数（VBScript の直接記述）で行います。GFormRedirect 関数で呼び出された伝票からの戻りは，@ 処理終了で行います。GFormRedirect 関数より後に記述した処理は実行されません。

呼び出し元伝票へ戻った後に実行する処理が必要な場合，RETURNPROC ASP 注釈で戻り後の処理名を指定します。

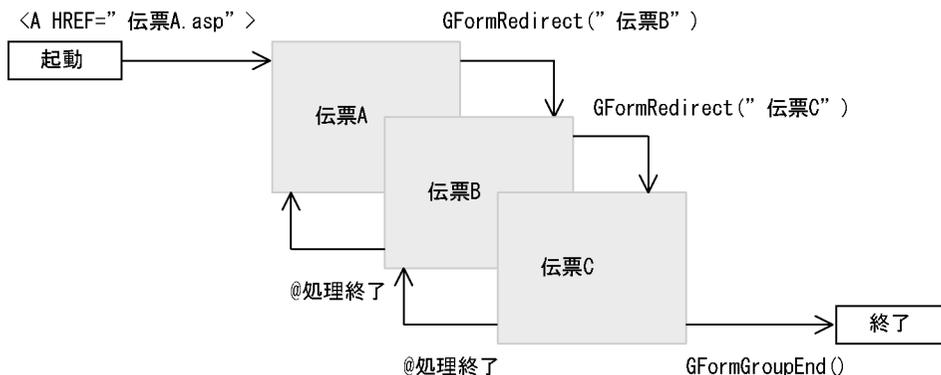
複数伝票すべての終了は，最初に起動された伝票の @ 処理終了，又は GFormGroupEnd 関数（VBScript の直接記述）で行います。

図 2-6 伝票遷移のイメージ（メインウィンドウ + サブダイアログ構成）



2. 業務の作成

図 2-7 伝票遷移のイメージ (ウィザードタイプダイアログ構成)



(c) 伝票間の情報の引き継ぎ

項目の追加

伝票が呼び出された時に、それまで実行された伝票中に存在しない項目名の項目を追加します。

呼び出し元伝票へ戻った時でも追加した項目は削除されません。

項目値の引き継ぎ

項目

呼び出された伝票中の項目名が、それまで実行された伝票中に存在していた場合、呼び出された伝票に項目値を引き継ぎます。

また、呼び出された伝票で更新された値は、呼び出し元伝票の項目に反映されます。

ローカル変数

呼び出された伝票に、ローカル変数の値は引き継ぎません。

また、呼び出された伝票で更新された値は、呼び出し元伝票のローカル変数に反映されません。呼び出し元伝票のローカル変数の値は、伝票を呼び出した時点の値に戻ります。

システム変数

¥ 入力件数, ¥ 明細行数は、複数伝票中で使用不可とします。

使用した場合の動作は保証しません。

¥ 入力件数, ¥ 明細行数の情報が必要な場合, @ 明細情報コマンドで情報を取得します。

伝票間の項目値の参照・更新

呼び出し元伝票中の項目名と呼び出される伝票中の項目名を一致させることで、複数伝票間で項目値を引き継ぐことができます。

ただし、「伝票間の項目の制限」を考慮する必要があります。

呼び出し元伝票項目値の参照

VBScript の直接記述で GFormItemValue 関数を使うと、伝票が呼び出され

るまでに実行された伝票中に存在する項目の値を参照できます。

呼び出された伝票の中で、それまでに実行された伝票中の項目の項目名を指定して GFormGetItemValue 関数を実行すると、それまでに実行された伝票中の項目の値を取得できます。

これによって、呼び出し元伝票中の項目の値を呼び出された伝票で参照できます。

呼び出し元伝票項目値の更新

VBScript の直接記述で GFormSetItemValue 関数を使うと、伝票が呼び出されるまでに実行された伝票中に存在する項目の値を更新できます。

呼び出された伝票の中で、それまでに実行された伝票中の項目の項目名を指定して GFormSetItemValue 関数を実行すると、それまでに実行された伝票中の項目の値を更新できます。

これによって、呼び出し元伝票中の項目の値を呼び出された伝票で更新できます。

伝票間の項目の制限

複数伝票間で重複した項目名は定義しないことを基本とします。

複数伝票間で重複した項目名を定義して実行してもエラーとしませんが、項目属性を一致させておく必要があるなど多くの制限があります。

伝票間の項目属性の制限

複数伝票間で同一項目名の項目を定義する場合、次の制限を考慮する必要があります。

- オブジェクトタイプ

オブジェクトタイプ（見出しとラジオボタンなど）が異なる場合、伝票呼び出し時点で実行時エラーとなります。

- 明細

明細の定義内容（明細名、明細項目の構成、定義行数）が異なる場合、伝票呼び出し時点で実行時エラーとなります。

- 項目属性 - 属性

候補値から選択 < コンボボックス > で、選択リストの数及び値が異なる場合、伝票呼び出し時点で実行時エラーとなります。

また、ラジオボタン項目で、タイトル数が異なる場合、伝票呼び出し時点で実行時エラーとなります。

- 項目属性 - 種別

表示と入力、又は非表示と非表示入力の組み合わせで異なる場合、伝票呼び出し時点で呼び出された伝票の定義に変更され、呼び出し元伝票へ戻った時もその属性が引き継がれます（@ 表示切替、@ 入力切替で変更した場合も含む）。それ以外の組み合わせ（表示と非表示など）で異なる場合、伝票呼び出し時点で実行時エラーとなります。

- フィールド属性 - 色、文字色と候補値 - リスト

フィールド属性 - 色、文字色と候補値 - リストが異なる場合、伝票呼び出し時点で呼び出された伝票の定義に変更され、呼び出し元伝票へ戻った時もその属性が引き継がれます（@ 色指定、@ コンボボックスで変更した場合も含む）。

2. 業務の作成

む)。

案件処理及び SQL 処理

案件処理及び SQL 処理は複数伝票内で接続情報などを引き継ぎます。

案件処理

案件情報は複数伝票間で共有するため、@ 案件ユーザ情報と @ 案件データ入力など案件処理コマンドをそれぞれ別々の伝票で実行できます。

ただし、@ 案件データ入力と @ 案件データ出力については次を考慮する必要があります。

1. @ 案件データ入力

項目を指定しないで @ 案件データ入力をした場合、該当伝票の項目だけが @ 案件データ入力の対象になります。

2. @ 案件データ出力

項目を指定しないで @ 案件データ出力をした場合、該当伝票の項目だけが @ 案件データ出力の対象になります。

@ 案件データ出力を A (追加) 又は R (置換) で行った場合、該当伝票の項目が対象になります。

N (新規) で行った場合、これまでに行った @ 案件データ出力の項目全部が対象になります。

SQL 処理

@SQL 接続で行った接続情報は、複数伝票間で共有するため、@SQL 接続と @SQL 実行など SQL 処理コマンドをそれぞれ別々の伝票で実行できます。

ただし、@SQL 実行 (SELECT 文) と @SQL フェッチは、同一伝票で実行する必要があります。

(d) 伝票の呼び出し・終了

伝票の呼び出し、及び複数伝票すべての終了は、VBScript の直接記述の関数を実行することで行います。

呼び出された伝票の中で @ 処理終了コマンドを発行することで、呼び出し元伝票に戻ります。

最初に起動された伝票の中で @ 処理終了コマンドを発行すると、複数伝票すべてを終了します。

@ 処理終了を発行した伝票の後処理、最終処理は、@ 処理終了の指定によって実行されます。

呼び出し元伝票へ戻った後に実行される処理を ASP 注釈で指定できます。

伝票を呼び出す GFormRedirect 関数及び呼び出し元伝票へ戻った後に実行される処理を指定する RETURNPROC ASP 注釈の詳細については「5. 関数及びセッション変数の文法」の「GFormRedirect 関数」を、複数伝票すべてを終了する GFormGroupEnd 関

数の詳細については「5. 関数及びセッション変数の文法」の「GFormGroupEnd 関数」を参照してください。

インクルードファイルの指定

GFormRedirect 関数、及び GFormGroupEnd 関数を使用する場合、次の (* ASP INCLUDE START *) コメントを任意の共通処理に記述し、インクルードファイルを追加しておく必要があります。

```
(* ASP INCLUDE START *)
(* <!-- #include virtual="/FormASPInclude/FAGroup.inc" -->
(* ASP INCLUDE END *)
```

2.3.5 VBScript で使用できるセッション変数

Groupmax Form for ASP が提供しているセッション変数を、VBScript で使用できます。使用できるセッション変数を、次に示します。セッション変数の詳細については、「第 5 章 関数及びセッション変数の文法」を参照してください。

(1) 戻り先 URL を設定する

ASP 伝票終了時の戻り先 URL を設定するには、Session("_GFormREFERER") セッション変数を使用します。

(2) 案件オブジェクト ID を取得する

処理中の案件の案件オブジェクト ID を取得するには、Session("_GFormCaseOID") セッション変数を使用します。例えば、取得した案件オブジェクト ID を戻り先の URL の ASP ファイルに引き継ぎ、伝票処理後の後処理を実行する場合に、Session("_GFormCaseOID") セッション変数を使用します。

(3) テンプレートページの仮想ディレクトリパスを設定する

Groupmax Workflow - Development Kit for ASP のテンプレートページの仮想ディレクトリパスを設定するには、Session("_GfTemplatePath") セッション変数を使用します。テンプレートページは、@案件投入や@案件遷移のシステム宛先などで使われます。

(4) 文書管理連携の作業ディレクトリ及び登録先サーバを設定する

@文書登録の実行に必要な、Groupmax Document Manager が使用する作業ディレクトリを設定するには、Session("_GfDmUserDir") セッション変数を使用します。また、登録先サーバのホスト名又は IP アドレスを設定するには、Session("_GfDmServer") セッション変数を使用します。

(5) 画面をカスタマイズする

案件の処理画面及び添付ファイル操作画面に表示されるボタンのラベルや項目の見出しなどをカスタマイズするには、Session("_GfcLabel") セッション変数を使用します。

2.3.6 JavaScript の直接記述

WWW ブラウザで実行される JavaScript を、Groupmax Form Client の処理定義ウィンドウでの直接記述もできます。JavaScript を直接記述することで、JavaScript が提供している関数群、及び WWW ブラウザが提供しているオブジェクトを使用できます。処理定義ウィンドウで直接記述した JavaScript は、ASP 変換時に、そのまま ASP 伝票に出力されます。

なお、JavaScript は、WWW ブラウザでだけ実行できます。WWW サーバでは実行できません。

JavaScript の記述について説明します。

(1) 項目処理の記述

WWW ブラウザで実行させる項目処理の一部又はすべてを、JavaScript で記述できます。WWW ブラウザ処理の開始宣言と終了宣言、及び JAVASCRIPT ASP 注釈「(* ASP JAVASCRIPT START」と「(* ASP JAVASCRIPT END」を記述して、その間に注釈として JavaScript で処理を記述します。

```
( * ASP CLIENTSIDE START
      .
      .
(* ASP JAVASCRIPT START
(*
(* JavaScriptで
(*   処理を記述する
(*
(* ASP JAVASCRIPT END
      .
      .
(* ASP CLIENTSIDE END
```

(2) ブラウザへの表示完了時の処理の記述

ASP 伝票の WWW ブラウザへの表示が完了したときに実行する処理を、JavaScript で記述できます。例えば、テキストの背景色設定のような処理を記述できます。

任意の共通処理に、WWW ブラウザ処理の開始宣言と終了宣言、及び JAVAONLOAD ASP 注釈「(* ASP JAVAONLOAD START」と「(* ASP JAVAONLOAD END」を記述して、その間に注釈として JavaScript で処理を記述します。

```

(* ASP CLIENTSIDE START
.
.
(* ASP JAVAONLOAD START
(*   ブラウザへの表示
(*   完了時の処理
(*
(* ASP JAVAONLOAD END
.
.
(* ASP CLIENTSIDE END

```

(3) ページ消去時の処理の記述

ページが WWW サーバへの処理の移行によって消去されるときに実行する処理を、JavaScript で記述できます。例えば、タイムアウトのイベント発行を解除する処理を記述できます。

任意の共通処理に、WWW ブラウザ処理の開始宣言と終了宣言、及び JAVAONUNLOAD ASP 注釈「(* ASP JAVAONUNLOAD START」と「(* ASP JAVAONUNLOAD END」を記述して、その間に注釈として JavaScript で処理を記述します。

```

(* ASP CLIENTSIDE START
.
.
(* ASP JAVAONUNLOAD START
(*   ページ消去時の
(*   処理
(*
(* ASP JAVAONUNLOAD END
.
.
(* ASP CLIENTSIDE END

```

(4) 関数の記述

JavaScript から呼び出す関数を、JavaScript で記述できます。任意の共通処理に、WWW ブラウザ処理の開始宣言と終了宣言、及び JAVAFUNCTION ASP 注釈「(* ASP JAVAFUNCTION START」と「(* ASP JAVAFUNCTION END」を記述して、その間に注釈として JavaScript の関数を記述します。

2. 業務の作成

```
( * ASP CLIENTSIDE START
      .
      .
(* ASP JAVAFUNCTION START
(*
(*   JavaScriptの関数
(*
(* ASP JAVAFUNCTION END
      .
      .
( * ASP CLIENTSIDE END
```

(5) スクリプトファイルのインクルード

WWW サーバ上の，JavaScript で記述されたスクリプトファイルをインクルードするためのサーバサイドインクルード文を記述できます。部品として作成した JavaScript 関数群のスクリプトファイルをインクルードする場合に使用します。

任意の共通処理に，WWW ブラウザ処理の開始宣言と終了宣言，及び INCLUDE ASP 注釈「(* ASP INCLUDE START」と「(* ASP INCLUDE END」を記述して，その間に「(* <!--#INCLUDE VIRTUAL="読み込むファイル名"-->」のようにサーバサイドインクルード文の形式で，スクリプトファイルを指定します。

```
( * ASP CLIENTSIDE START
      .
      .
(* ASP INCLUDE START
(* <!--#INCLUDE VIRTUAL="読み込むスクリプトファイル名"-->
(* ASP INCLUDE END
      .
      .
( * ASP CLIENTSIDE END
```

(6) 注意事項

JavaScript を記述するときの注意事項を次に示します。

- WWW ブラウザから WWW サーバに処理を移動するスクリプトは記述しないでください。
- 使用する変数の変数名は「u_」で始まる名称にします。
ASP 変換で作成される変数と，名称が重複するのを防ぐためです。

2.3.7 JavaScript で使用できる ASP 注釈

JavaScript の記述中で，ASP 変換後の項目名を取得する ASP 注釈などを使用できます。使用できる ASP 注釈を，次に示します。

(1) ASP 変換後の項目名を取得する

JavaScript で処理を直接記述する場合、項目名を記述するときは、ASP 変換後の項目名を記述する必要があります。

GETITEMNAME ASP 注釈を使用すると、項目名の変換表を参照しなくても、GFormItemValue 関数や GFormItemValue 関数の記述に必要な ASP 変換後の項目名を取得できます。

この記述は、注釈として次のように記述します。

```
(* ASP GETITEMNAME varname=item
```

各要素について、次に説明します。

varname

ASP 変換後の項目名を取得する変数名を記述します。「u_」で始まる名称を付けてください。

item

取得する項目の、ASP 変換前の項目名を記述します。

JavaScript の直接記述で、項目 1 に文字列「ABC」を設定する場合の記述例を、次に示します。

```
(* ASP CLIENTSIDE START
(* ASP JAVASCRIPT START
(* ASP GETITEMNAME u_itemname= 項目 1
(* GFormItemValue( u_itemname, "ABC", "" );
(* ASP JAVASCRIPT END
(* ASP CLIENTSIDE END
```

(2) ASP 変換後の項目オブジェクト名を取得する

プッシュボタンやチェックボックスなどの伝票の各項目に関する設定を JavaScript で記述する場合のために、項目オブジェクト名を取得できます。

この記述は、ASP 注釈として次のように記述します。

```
(* ASP GETOBJECT varname=item,rows,elmno
```

各要素について、次に説明します。

varname

項目オブジェクト名を取得する変数名を記述します。「u_」で始まる名称を付けてください。

item

2. 業務の作成

取得する項目の、ASP 変換前の項目名を記述します。省略した場合は、伝票全体を指定したことになります。

rows

明細項目の行番号を記述します。明細項目名の取得以外では省略します。

elmno

ラジオボタン又はコンボボックスの特定の要素を取得する場合の、要素番号を記述します。省略した場合は、「item」で記述した項目全体を指定したことになります。

項目名を取得する構文を使用した場合の記述例を、次に示します。伝票を WWW ブラウザに表示するとき、項目名「項目 1」を不活性にします。

```
(* ASP CLIENTSIDE START
(* ASP JAVAONLOAD START
(* ASP GETOBJECT u_eval= 項目 1
(* u_eval += ".disabled=true;"
(* eval(u_eval);
(* ASP JAVAONLOAD END
(* ASP CLIENTSIDE END
```

2.3.8 JavaScript で使用できる Groupmax Form for ASP の提供関数

Groupmax Form for ASP が提供している関数を、JavaScript で使用できます。使用できる関数を、次に示します。関数の詳細については、「第 5 章 関数及びセッション変数の文法」を参照してください。

(1) 項目値を取得又は設定する

ASP 伝票の項目値を取得するには GFormGetItemValue 関数を、ASP 伝票の項目値を設定するには GFormSetItemValue 関数を使用します。

2.3.9 @ASP 関数呼出の利用

VBScript 又は JavaScript で作成した関数を、@ASP 関数呼出からのインタフェースに対応させ、スクリプトファイルにまとめることで、作成した関数を @ASP 関数呼出で利用できます。@ASP 関数呼出を利用することで、作成した関数は VBScript 又は JavaScript を記述することなく、ほかの @ コマンドと同じように使用できます。

@ASP 関数呼出の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

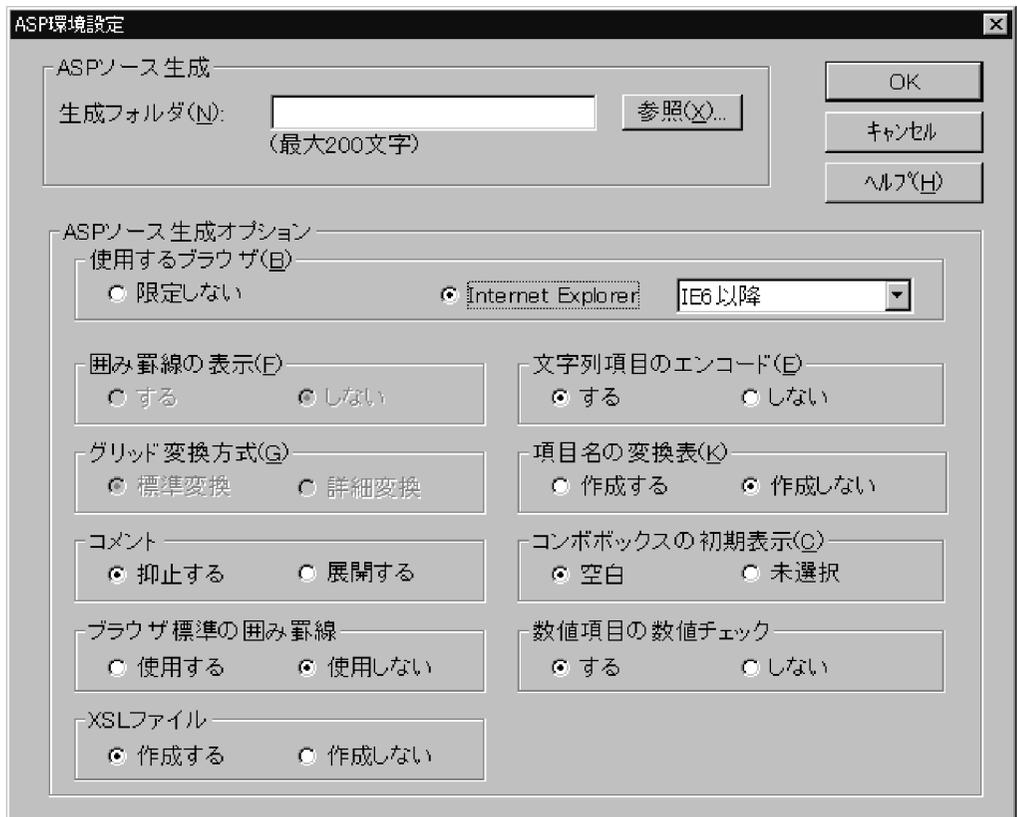
2.4 DMA 伝票の ASP 変換

作成した DMA 伝票を、ASP 伝票に変換します。

2.4.1 変換時の環境設定

Groupmax Form Client の伝票処理ウィンドウで [ファイル] - [ASP 環境設定 ...] を選択すると、[ASP 環境設定] ダイアログボックスが表示されます。[ASP 環境設定] ダイアログボックスを、図 2-8 に示します。

図 2-8 [ASP 環境設定] ダイアログボックス



[ASP 環境設定] ダイアログボックスで指定するオプションについて説明します。

生成フォルダ

DMA 伝票を変換して作成した ASP 伝票を格納するフォルダを指定します。[参照 ...] ボタンをクリックして、表示されるダイアログボックスでフォルダを指定します。

フォルダを指定しなかった場合は、変換元の DMA 伝票と同じフォルダに格納され

2. 業務の作成

ます。

使用するブラウザ

使用する WWW ブラウザが Internet Explorer の場合は、「Internet Explorer」を選択し、バージョンに応じて、コンボボックスから「IE3.02」、「IE4」、「IE5」又は「IE6以降」を選択してください。Netscape を使用する場合は「限定しない」を選択してください。

変換の形式について、ブラウザによって次のような違いがあります。

- 「IE3.02」、「IE4」又は「限定しない」を選択した場合

HTML の <TABLE> コマンドによって、画面全体が一つの表として変換されます。

- 「IE5」又は「IE6以降」を選択した場合

DHTML によって、伝票画面の各部が座標指定で表示されます。表として変換する場合より、画面表示に関して、変換前と後での、項目の大きさや項目間の間隔の違いが少ない ASP 変換ができます。

また、文字列の入力領域への、かな漢字変換の自動起動及び抑止の属性設定が有効になります。

囲み罫線の表示

このオプションは、「使用するブラウザ」オプションで、「IE3.02」、「IE4」又は「限定しない」を指定した場合に設定できます。「IE5」又は「IE6以降」を指定した場合は、囲み罫線は必ず表示されるため、このオプションは設定する必要はありません。

WWW ブラウザ上で項目の囲み罫線を表示させたい場合は、「する」を選択します。WWW 上での囲み罫線の表示形式は、項目の囲み罫線の指定と、囲み罫線の表示の指定によって、WWW ブラウザごとに異なります。WWW ブラウザごとの囲み罫線の表示形式を、表 2-2 に示します。

表 2-2 WWW ブラウザごとの囲み罫線の表示形式

項目の囲み罫線の指定	囲み罫線の表示の指定	囲み罫線の表示形式	
		Internet Explorer	Netscape
あり	「する」	表示されます。 ¹	フレームが表示されます。 ²
	「しない」	表示されません。	表示されません。
なし	「する」		フレームが表示されます。 ²
	「しない」		表示されません。

注 1

色の指定だけ有効です。罫線の指定は無効になります。

注 2

WWW ブラウザが設定するフレームがすべての項目に表示されます。

文字列項目のエンコード

文字列項目に HTML 及び XSLT を記述したとき、エンコードを実行して文字列として表示させる場合は「する」を、エンコードを実行しないで HTML 及び XSLT を実行した結果を表示させる場合は「しない」を選択してください。

「しない」を選択する場合は、実行する HTML 及び XSLT にエラーが発生しないようにしてください。また、表示させる HTML 及び XSLT のデータより大きい文字列項目を作成してください。

グリッド変換方式

このオプションは、「使用するブラウザ」オプションで、「IE3.02」、「IE4」又は「限定しない」を指定した場合に設定できます。「IE5」又は「IE6以降」を指定した場合は、画面の各項目が DHTML の座標指定によって表示されるため、このオプションは設定する必要はありません。

グリッドの初期値を基準にして画面を変換するときは「標準変換」を、伝票作成時に設定したグリッド値を基準にして画面を変換するときは「詳細変換」を選択します。なお、「詳細変換」を選択すると、選択内容を確認するダイアログボックスが表示されます。

画面の変換方式の詳細については、「2.3.2(1) 画面の変換方式」を参照してください。

項目名の変換表

ASP 変換では、DMA 伝票の作成時に指定した項目名が英数字の項目名に変換されます。変換前と変換後の項目名が記述された変換表を作成する場合、「作成する」を選択してください。

変換表の記述形式は、列 A が変換前の項目名、列 B が変換後の項目名になります。

変換表は、DMA 伝票のあるフォルダに CSV 形式で作成されます。ファイル名には、DMA 伝票のファイル名が設定されます。

コメント

Groupmax Form Client で作成した処理定義中の注釈（スクリプトの直接記述部分以外）は、VBScript や JavaScript のコメントとして変換されます。コメントに変換して展開する場合は「展開する」を、展開しない場合は「抑止する」を選択してください。

コンボボックスの初期表示

見出し項目及び明細項目には、伝票作成時にコンボボックスを設定できます。コンボボックスを設定して業務を開始したとき、コンボボックスのリストから値を選択していない項目に、空白を表示する場合は「空白」を、「未選択」という文字列を表示する場合は「未選択」を選択してください。

なお、このオプションで選択した、空白又は文字列「未選択」が表示されている項目の値は、コンボボックスのリストから値を選択していない状態（¥NIL）と同じになります。

2. 業務の作成

ブラウザ標準の囲み罫線

使用するブラウザが "IE5" 又は "IE6 以降" の場合に、ブラウザ標準の囲み罫線を使用するかどうかを指定します。

ブラウザ標準の囲み罫線を表示する場合は「使用する」を指定します。囲み罫線を実線で表示する場合は「使用しない」を指定します。

数値項目の数値チェック

見出し・明細項目の属性が数値で種別が入力の場合に、入力データに対する数値チェックを行うかどうかを指定します。数値チェックを行う場合は「する」を指定します。数値チェックを行わない場合は「しない」を指定します。

XSL ファイル

このオプションは、「使用するブラウザ」オプションで、「IE6 以降」を指定した場合に設定できます。

@ 文書登録コマンドで登録する一般文書の表示用のスタイルシート用に XSL ファイルを使用する場合は「作成する」を指定します。XSL ファイルを使用しない場合は「作成しない」を指定します。

2.4.2 ASP 注釈の記述を使用した ASP 変換の設定

ASP 注釈を記述することでも、ASP 変換の方法を設定できます。記述できる ASP 注釈を、次に示します。

(1) WWW ブラウザへの変数の送信を抑止する

ASP 伝票中で使用されるシステム変数、グローバル変数、ローカル変数の設定内容は、WWW ブラウザで処理を実行するために、すべて WWW ブラウザに送信されます。しかし、パスワード情報などの機密情報を保護するために、変数を WWW ブラウザに送信したくない場合もあります。

ASP 注釈で変数送信抑止オプションを記述すると、WWW ブラウザへの変数の送信を抑止できます。この ASP 注釈は、任意の共通処理に、次に示すどちらかの形式で指定します。形式 1 と形式 2 は、併用できません。

- WWW ブラウザに送信しない変数を指定する形式 (形式 1)
- WWW ブラウザに送信する変数を指定する形式 (形式 2)

(a) WWW ブラウザに送信しない変数を指定する形式 (形式 1)

WWW ブラウザに送信しない変数を指定する記述形式 (形式 1) は、次のとおりです。

(* ASP OPTION NOTUSEVAR= 変数 [, 変数] ...

又は

(* ASP OPTION NOTUSEVAR= 開始変数 : 終了変数

(凡例)

[]: 省略してもよいことを示します。

... : 直前の項目を繰り返し、複数個指定できることを示します。

WWW ブラウザへの送信抑止を指定した変数は、WWW ブラウザに送信されません。
WWW ブラウザに送信されなかった変数は、WWW ブラウザでの処理の実行に使用できません。

各要素について、次に説明します。

変数

WWW ブラウザへの送信を抑止する変数を指定します。システム変数、ローカル変数、グローバル変数を指定できます。ただし、次のシステム変数は指定できません。

- ¥NIL
- ¥ 入力件数
- ¥ 明細行数
- ¥ 曜日
- ¥ 年号

開始変数、終了変数

複数のローカル変数又はグローバル変数を、まとめて指定するときに使用します。
ローカル変数とグローバル変数は混在できません。

変数の指定を省略すると、伝票内のすべての変数の WWW ブラウザへの送信が抑止されます。

(b) WWW ブラウザに送信する変数を指定する形式 (形式 2)

WWW ブラウザに送信する変数を指定する記述形式 (形式 2) は、次のとおりです。

(* ASP OPTION USEVAR= 変数 [, 変数] ...

又は

(* ASP OPTION USEVAR= 開始変数 : 終了変数

(凡例)

[]: 省略してもよいことを示します。

... : 直前の項目を繰り返し、複数個指定できることを示します。

WWW ブラウザへの送信を指定しなかった変数は、WWW ブラウザに送信されません。
WWW ブラウザに送信されなかった変数は、WWW ブラウザでの処理の実行に使用できません。

各要素について、次に説明します。

変数

WWW ブラウザに送信する変数を指定します。システム変数、ローカル変数、グ

2. 業務の作成

ローカル変数を指定できます。ただし、次のシステム変数は指定できません。

- ¥NIL
- ¥入力件数
- ¥明細行数
- ¥曜日
- ¥年号

開始変数，終了変数

複数のローカル変数又はグローバル変数を，まとめて指定するときに使用します。
ローカル変数とグローバル変数は混在できません。

変数の指定を省略すると，伝票内のすべての変数が WWW ブラウザに送信されます。

(2) 自動捺印を抑止する

捺印項目をクリックすると，自動的に捺印されたり，捺印が取り消されたりします。しかし，こうした自動捺印を抑止したい場合があります。

ASP 注釈で自動捺印抑止オプションを記述すると，捺印項目をクリックしても，自動的に捺印されたり，捺印が取り消されたりしません。自動捺印抑止オプションは，@捺印や@捺印取消を使用した捺印処理を作成する場合に，捺印項目をクリックしたときの動作を制御するために使用します。自動捺印抑止オプションが指定されている捺印項目では，自動的な捺印及び捺印の取り消しが抑止され，捺印項目の項目処理だけが実行されます。

自動捺印抑止オプションは，任意の共通処理に ASP 注釈として次のように記述します。

(* ASP OPTION NOAUTOSTAMP [= 捺印項目 [, 捺印項目] ...]

(凡例)

[]: 省略してもよいことを示します。

... : 直前の項目を繰り返し，複数個指定できることを示します。

各要素について，次に説明します。

捺印項目

自動捺印及び自動捺印取り消しを抑止する捺印項目を指定します。捺印項目の指定を省略すると，伝票内のすべての捺印項目が対象になります。

2.4.3 伝票画面のテスト表示

ASP 伝票に変換する前に，伝票を WWW 上で表示したときのイメージを確認できます。表示イメージを確認する伝票を伝票処理ウィンドウに表示して，[ファイル] - [ASP テスト表示 ...] を選択してください。テスト表示には，「通常使うブラウザ」に設定されている WWW ブラウザが使用されます。

なお，処理定義の実行を確認することはできません。

2.4.4 ASP ファイルへの変換

変換する DMA 伝票を伝票処理ウィンドウに表示して、[ファイル] - [ASP 変換 ...] を選択してください。画面と処理定義が同時に自動的に変換され、ASP 伝票が作成されます。

ASP 伝票には、変換元の DMA 伝票と同じファイル名が設定されます。作成された ASP 伝票のファイル名は変更しないでください。変更すると動作できなくなります。

[ASP 環境設定] ダイアログボックスの「XSL ファイル」オプションで、「作成する」を選択した場合、XSL ファイルも DMA 伝票と同じファイル名が設定されます。ファイルのサフィックスは「.xsl」となります。

2.4.5 伝票変換時の注意事項

ASP 変換時の、画面形式に関する注意事項を説明します。DMA 伝票を作成するとき、これらの点に注意してください。

使用する WWW ブラウザが Netscape Navigator の場合の注意事項を、次に示します。

文字属性のサイズ

伝票作成時に設定する文字属性のサイズは、ASP 変換すると表 2-3 に示すように HTML のフォントサイズに変換されます。文字の大きさを変更して WWW ブラウザ上で表示させたい場合は、表 2-3 を参照して文字属性のサイズを設定してください。

表 2-3 フォントサイズの変換

伝票作成時に設定した文字属性のサイズ	HTML でのフォントサイズ
7 以下	1
8 ~ 9	2
10 ~ 11	3
12 ~ 14	4
15 ~ 17	5
18 ~ 23	6
24 以上	7

なお、使用するフォントの種類によっては、ASP 変換すると伝票作成時の文字の大きさより大きくなる場合があります。フォントの種類は、MS 明朝又は MS ゴシックを使用するようにしてください。

2. 業務の作成

以降の注意事項は、[ASP 環境設定] ダイアログボックスで、使用するブラウザに「IE3.02」、「IE4」又は「限定しない」を選択して、表形式で ASP 変換する場合の注意事項です。

プッシュボタン項目のタイトル

伝票作成時に設定するプッシュボタン項目のタイトルは、ボタンの領域に余裕を持って設定してください。領域最大にタイトルを設定すると、ASP 変換後にボタンが横に伸びてしまいます。

複数のプッシュボタン項目の間隔

複数のプッシュボタン項目を、横に並べて表示させる場合は、横の間隔を少し空けてプッシュボタン項目を作成してください。ASP 変換後の伝票では、プッシュボタン項目を左右に隣接して表示できません。左右に多少の間隔が空いてしまいます。

コンボボックスの文字列

伝票作成時にコンボボックスを設定する場合、コンボボックスに設定する最も長い文字列の最後に 2 文字程度の余裕をとるようにしてください。領域最大に文字列を設定している場合、ASP 変換後に領域が横に伸びてしまいます。

捺印項目のサイズ

捺印項目のサイズは、表 2-4 に示すサイズを目安にして設定してください。

表 2-4 電子印と捺印項目のサイズの対応

電子印の形式	電子印のサイズ		捺印項目のサイズ ¹	
	幅	高さ	幅	高さ
テキスト形式	150	150	10 グリッド	5 グリッド
	300	300	20 グリッド	10 グリッド
ビットマップ形式	128 ²	128 ²	20 グリッド	10 グリッド

注 1

捺印項目のサイズは、初期設定（幅が 22、高さが 44）のグリッド値を基準にしています。

注 2

ビットマップ形式のサイズの単位は、ピクセル（ビット）です。

捺印項目のサイズを、表 2-4 に示すサイズより小さく設定した場合、捺印したときに捺印項目の領域が伸びてしまいます。また、捺印項目のサイズを、表 2-4 に示すサイズより大きく設定した場合、捺印項目の中央に捺印されます。

2.5 WWW サーバへのファイルの格納

業務の実行に必要なファイル（ASP 伝票や電子印ファイル）は、事前に WWW サーバに格納しておきます。

（1）ASP 伝票の格納

DMA 伝票を変換して作成した ASP 伝票は、WWW サーバに作成した業務共通部と同じ仮想ディレクトリの下の任意のフォルダに格納します。

[ASP 環境設定] ダイアログボックスの「XSL ファイル」オプションで、「作成する」を選択して作成した XSL ファイルは、ASP 伝票と同じフォルダに格納してください。

（2）電子印ファイルの格納

捺印機能を利用する場合、使用するすべての電子印を、一つの電子印ファイルに保存します。電子印を保存した電子印ファイルのファイル名を「stamp.dmh」に変更して、WWW サーバの Groupmax Form for Active Server Pages をインストールしたフォルダに格納します。なお、初期設定での Groupmax Form for Active Server Pages のインストールフォルダは、次のとおりです。

C:\Program Files\HITACHI\Groupmax\FormASP

（3）ファイルのアップロード

ASP 伝票と電子印ファイルの格納には、アップロードツールを利用できます。

アップロードツールでは、ファイルを格納する WWW サーバを、あらかじめ設定できません。

アップロードツールの詳細については、Groupmax Form Client のオンラインヘルプを参照してください。

2.6 業務共通部への ASP 伝票の登録

WWW サーバに格納した ASP 伝票を、業務共通部の各ページに登録して使用するための設定について説明します。ASP 伝票は、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP を使用しないで作成した業務共通部への登録もできます。

2.6.1 ワークフロー連携用伝票の登録

(1) Groupmax Workflow - Development Kit for ASP で業務共通部を作成した場合

案件投入用伝票の登録

案件を投入する伝票の場合、帳票欄ページの配布コントロールに、ASP 伝票を使用するビジネスプロセスのビジネスプロセス名、作業名、及び ASP 伝票の URL を登録します。

案件処理用伝票の登録

案件を処理する伝票の場合、受信トレーページの配布コントロールに、ASP 伝票を使用するビジネスプロセスのビジネスプロセス名、作業名、及び ASP 伝票の URL を登録します。

登録方法については、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP とともにインストールされる HTML マニュアルを参照してください。案件投入用伝票の登録方法については、「案件投入ページの作成」に記述されている、配布コントロールへの登録の説明を参照してください。案件処理用伝票の登録方法については、「案件処理ページの作成」に記述されている、配布コントロールへの登録の説明を参照してください。

(2) Groupmax Workflow - Development Kit for ASP を使用しないで業務共通部を作成した場合

業務共通部のページから、<A> タグのようなリンクのタグで ASP 伝票にリンクさせます。その際、伝票処理に応じてセッション変数、引数を設定します。

案件投入用伝票のリンク

Session("Wf") セッション変数に、Groupmax にログイン済みの Groupmax Workflow オブジェクト (HITACHI.Workflow.1) を設定します。

wflbpname 引数に、伝票処理で投入する案件のビジネスプロセス定義名称を設定します。

wflnodename 引数に、伝票処理で投入する案件のソースノード名を設定します。

案件処理用伝票のリンク

Session("Wf") セッション変数に、Groupmax にログイン済みの Groupmax Workflow オブジェクト (HITACHI.Workflow.1) を設定します。

wflcaseid 引数に、取り込む案件データの案件オブジェクト ID を設定します。

2.6.2 ワークフローと連携しない伝票の登録

業務共通部のページから、<A> タグのようなリンクのタグで ASP 伝票にリンクさせます。ワークフローと連携しない伝票へリンクさせる場合は、セッション変数、引数を設定する必要はありません。

2.6.3 伝票からの戻り先 URL の変更

伝票が@処理終了で終了した場合、WWW ブラウザの表示は、伝票が表示される直前に WWW ブラウザに表示されていたページに戻ります。戻り先 URL を変更する場合は、戻り先 URL を設定した returnobj 引数を伝票へのリンクに追加します。

2.6.4 ユーザ固有引数の追加

業務共通部から伝票へ情報を引き継ぐためにユーザ固有引数を追加できます。追加した引数に設定した情報は、ASP 伝票の開始処理又は前処理で、VBScript の直接記述によって取得します。

ユーザ固有引数の名称は、Groupmax Form for ASP で使用する引数との重複を避けるため、「u_」で始まる名称にしてください。

2.6.5 システム宛先テンプレートページの追加

@案件投入や@案件遷移を実行する場合は、システム宛先テンプレートページを ASP 伝票と同じ仮想ディレクトリの下の任意のフォルダに追加してください。

追加方法については、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP とともにインストールされる HTML マニュアルの、「システム宛先テンプレートページ」に記述されている、追加するファイル及び追加するテンプレートページの説明を参照してください。

なお、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP を使用しないで業務共通部を作成した場合でも、@案件投入や@案件遷移を実行する場合は、システム宛先テンプレートページの追加が必要です。

2.6.6 テンプレートページの URL の設定

Groupmax Form for ASP が使用する、GroupmaxWorkflow - Development Kit for ASP のテンプレートページを、ASP 伝票と異なるフォルダに追加した場合は、テンプレートページを追加したフォルダの URL を、ASP 伝票の処理を開始する前に Session("_GfTemplatePath") セッション変数に指定します。

Session("_GfTemplatePath") セッション変数の詳細については、「第 5 章 関数及びセッション変数の文法」を参照してください。

2.6.7 global.asa の編集

セッションタイムアウトが発生したときのための処理を global.asa に追加します。追加する処理を次に示します。

```
<!-- #include virtual ="/FormASPInclude/FACom.INC" -->
<SCRIPT LANGUAGE="VBScript" RUNAT="Server">
Sub Session_OnEnd
    Call GFormWFEndProc
End Sub
</SCRIPT>
```

Groupmax Workflow - Development Kit for ASP を使用して業務共通部を作成した場合、追加する処理は、既に Groupmax Workflow - Development Kit for ASP のサンプルとして提供される global.asa にコメント文として記述されているため、コメント文の形式を解除することで追加できます。先頭行の「#include」が「include」になっているため、「#include」に変更してください。

2.7 WWW サーバの設定

WWW サーバの設定について説明します。

2.7.1 サーバサイドインクルードファイルの設定

ASP 伝票を実行するには、Groupmax Form for ASP が提供しているサーバサイドインクルードファイルを ASP 伝票がインクルードできるように設定する必要があります。ここで設定するサーバサイドインクルードファイルには、ASP 伝票の実行に必要な関数が定義されています。

設定方法を次に示します。

1. WWW サーバのベースフォルダの下に、FormASPInclude という名称の仮想ディレクトリを作成する
2. 作成した FormASPInclude 仮想ディレクトリの物理パスに、INC ファイルフォルダを設定する
INC ファイルフォルダは、Groupmax Form for Active Server Pages をインストールしたフォルダの下の Inc フォルダです。なお、初期設定での Groupmax Form for Active Server Pages のインストールフォルダは、次のとおりです。
C:\Program Files\HITACHI\Groupmax\FormASP
3. 仮想ディレクトリへのすべてのアクセス権をオフにする

2.7.2 添付ファイルダウンロード用プログラムの設定

添付ファイル操作を実行するには、Groupmax Form for ASP が提供している添付ファイルダウンロード用プログラムを、CGI プログラムであると認識されるように設定してください。

設定方法を次に示します。

1. WWW サーバのベースフォルダの下に、FormASPCgi という名称の仮想ディレクトリを作成する
2. 作成した FormASPCgi 仮想ディレクトリの物理パスに、CGI フォルダを設定する
CGI フォルダは、Groupmax Form for Active Server Pages をインストールしたフォルダの下の Cgi フォルダです。なお、初期設定での Groupmax Form for Active Server Pages のインストールフォルダは、次のとおりです。
C:\Program Files\HITACHI\Groupmax\FormASP
3. 仮想ディレクトリへ次のアクセス権だけをオンにする
[Windows NT 4.0 Server の場合]
 - 読み取りアクセスを許可する

2. 業務の作成

- 実行アクセスを許可（スクリプトのアクセスを含む）

[Windows 2000 Server の場合]

- 読み取り
- ISAPI アプリケーションや CGI などを実行する

2.7.3 [Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスでの設定

[Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスで、次の情報を設定します。

- 日付関数を使用するために必要な日付処理の情報
- 案件を文書として登録するために必要な文書管理の情報
- ASP 伝票を実行するために必要な WWW サーバの作業環境の情報
- 保守用ログを取得するために必要なログ出力の情報

[Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスを表示するには、Groupmax Form for Active Server Pages をインストールしたフォルダに格納されている、FASrvEnv.exe を実行します。初期設定での Groupmax Form for Active Server Pages のインストールフォルダは、次のとおりです。

C:\Program Files\HITACHI\Groupmax\FormASP

(1) 日付情報の設定

日付関数を使用するために必要な、日付関数実行時の日付の処理や出力に関する情報を設定します。

設定方法を次に示します。

1. [Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスで [日付関数情報] タブを選択する
2. 年号・曜日の出力，西暦 2000 年以降の出力，西暦の出力桁数に関する情報を設定する
3. [OK] ボタンをクリックする

[日付関数情報] タブで設定するオプションについて説明します。次に示す図は、各オプションに初期値が設定されている状態です。

Groupmax Form for ASP 設定のフロッピー

日付関数情報 | 文書管理 | 作業環境 | 保守用ログ

年号情報

	表現	開始年	開始月	開始日
西暦(A):	西暦			
明治(M):	明治	1868	9	8
大正(T):	大正	1912	7	30
昭和(S):	昭和	1926	12	25
平成(H):	平成	1989	1	8
新年号(N):				

曜日情報

	表現	表現
日(1):	日	木(5): 木
月(2):	月	金(6): 金
火(3):	火	土(7): 土
水(4):	水	

西暦2000年の仮定する年(O):
0から 50 年

関数実行結果の年の桁数(Y):
 2桁 4桁

初期値(F)

OK キャンセル ヘルプ

年号情報

- 表現

日付関数の実行結果として出力される、西暦又は各年号を表す名称(¥年号に設定される年号名称)を指定します。半角10文字以内で入力します。なお、関数の処理に新年号を使用する場合は、「新年号」の欄に年号名称を入力します。

- 開始年・開始月・開始日

各年号の開始年月日を入力します。この情報は、西暦で指定した日付を和暦に変更する処理で使用します。なお、「新年号」の表現を設定した場合は、新年号についても開始年月日を入力します。

曜日情報

- 表現

日付関数の実行結果として出力される、各曜日を表す名称(¥曜日に設定される曜日名称)を入力します。半角10文字以内で入力します。

西暦2000年の仮定する年

年に関する処理で、オペランドの値が2桁以下の場合に、0から何年を西暦2000年代として処理するかを設定します。1～99の間で入力します。例えば、10を設定し

2. 業務の作成

た場合は、オペランドが 0 ~ 10 のときに 2000 年代（2000 ~ 2010 年）として処理され、11 以降のときに 1900 年代（1911 年 ~ ）として処理されます。

関数実行結果の年の桁数

日付関数の実行結果として出力される年の桁数を下 2 桁か 4 桁で指定します。

下 2 桁の場合は「2 桁」、下 4 桁の場合は「4 桁」を選択します。

この設定は、DATE、NDATE、CDATE、DASK 関数の実行で有効です。

[初期値] ボタン

すべてのオプションの値を初期値にします。

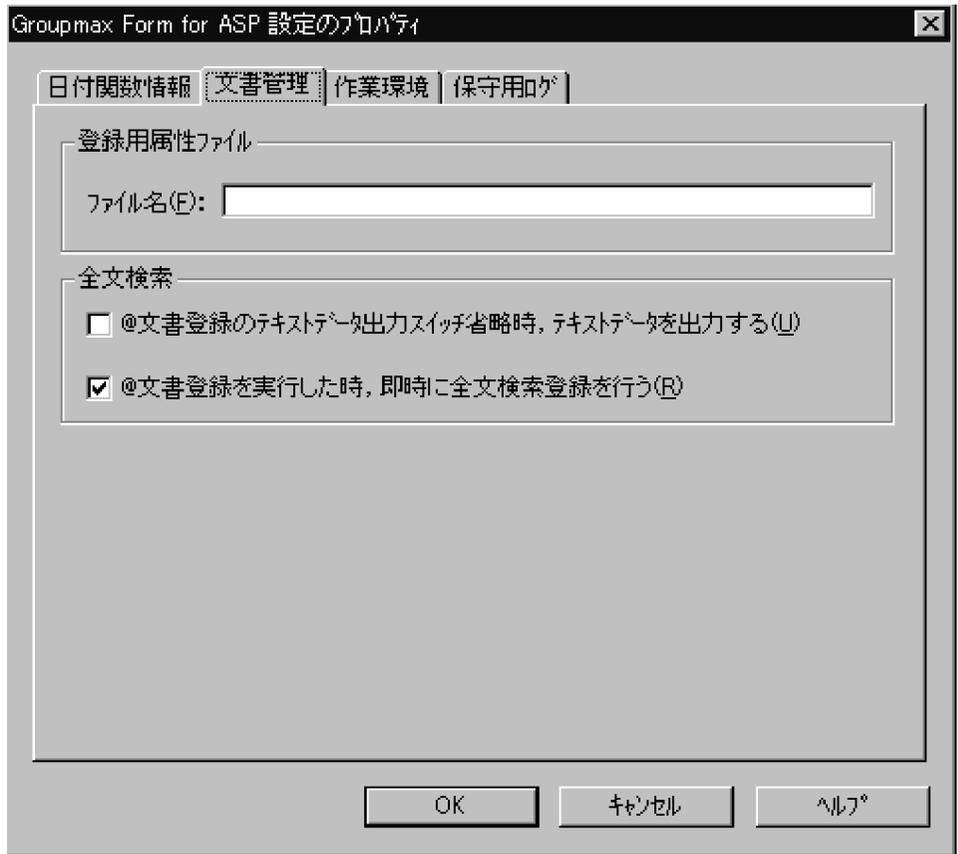
(2) 文書管理の設定

案件を文書として登録するために必要な、文書管理に関する情報を設定します。

設定方法を次に示します。

1. [Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスで [文書管理] タブを選択する
2. 文書管理に関する情報を設定する
3. [OK] ボタンをクリックする

[文書管理] タブで設定するオプションについて説明します。次に示す図は、各オプションに初期値が設定されている状態です。



登録用属性ファイル名

Groupmax Document Manager の AP 管理情報ファイルで、登録用属性ファイル名として特定のファイル名を指定してある場合に、そのファイル名を設定します。@文書登録を実行すると、設定したファイル名で登録用属性ファイルが登録されます。登録用属性ファイル名を設定しなかった場合、@文書登録を実行すると、主文書ファイルと同じファイル名の ARF ファイル (*.arf) が、登録用属性ファイルとして登録されます。

@文書登録のテキストデータ出力スイッチ省略時、テキストデータを出力する
 テキストデータ出力スイッチの指定を省略して@文書登録を実行したときに、Groupmax Document Manager で使用する全文検索用のテキストデータを出力するかどうかを設定します。

@文書登録を実行した時、即時に全文検索登録を行う

@文書登録を実行したときに、全文検索用のテキストデータを登録するかどうかを設定します。チェックボックスをオフにした場合、@文書登録を実行したときに全文検索用のテキストデータが出力されても、Groupmax Document Manager には登録されません。

(3) 作業環境の設定

ASP 伝票を実行するために必要な、WWW サーバの作業環境に関する情報を設定します。案件処理、文書管理との連携、Exchange との連携を行う場合は、必ず作業ディレクトリのアクセス権を設定し、IIS のコンピュータ MIME マップを取り込んでください。

設定方法を次に示します。

1. [Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスで [作業環境] タブを選択する
2. WWW サーバの作業環境に関する情報を設定する
3. [OK] ボタンをクリックする

[作業環境] タブで設定するオプションについて説明します。次に示す図は、各オプションに初期値が設定されている状態です。



作業ディレクトリのパス

ASP 伝票の実行に使用する、作業ディレクトリのパスを指定します。作業ディレクトリのパスが指定されていない場合、WWW サーバで実行中の ASP 伝票が格納され

ているフォルダが作業ディレクトリとして使用されます。作業ディレクトリには、WWW ユーザの書き込みのアクセス権を設定しておいてください。

登録されているファイルタイプとファイルダウンロード時の動作

添付ファイルを WWW ブラウザに送信するときの HTTP ヘッダ内の MIME の種類、及びファイルダウンロード時の動作が表示されます。次のときに使用されます。

- 作業ディレクトリのパスが設定されているときの@添付ファイル操作
- Exchange メッセージを表示したときの添付ファイルの表示
- 一般文書を表示したときの添付ファイルの表示

作業ディレクトリのパスが設定されていない時は、IIS のコンピュータ MIME マップが@添付ファイル操作で使用されます。登録されているファイルタイプは、[IIS から取込] ボタンで IIS のコンピュータ MIME マップを取り込みます。また、[追加] ボタン、[削除] ボタン、[編集] ボタンで登録されているファイルタイプの追加、編集、削除もできます。

拡張子

ファイル拡張子を表示します。

内容の種類 (MIME)

ファイル拡張子に対応する MIME タイプを表示します。

アタッチ

添付ファイルをダウンロードするとき、attachment ヘッダを付けるかどうかを指定します。

オープン

添付ファイルをダウンロードするとき、別 WWW ブラウザを開くかどうかを指定します。

別ブラウザをオープンすると、伝票とは別にブラウザをオープンし、ダウンロードしたファイルをオープンしたブラウザに表示します。標準は、別ブラウザをオープンするにしてください。別ブラウザをオープンしない場合、拡張子と attachment ヘッダを付けるかどうかの設定は、使用するブラウザを考慮した上で慎重に行ってください。そうしないと、伝票の表示がダウンロードしたファイルの内容に置き換わり操作できなくなります。

[IIS から取込] ボタン

IIS のコンピュータ MIME マップが取り込まれます。IIS のコンピュータ MIME マップを変更した場合は、このボタンをクリックして取り込んでください。このボタンをクリックすると、[追加] ボタン、[削除] ボタン、[編集] ボタンを使って変更したファイルタイプの情報は失われ、IIS のコンピュータ MIME マップから取り込んだ情報にすべて置き換わります。

[追加] ボタン

ファイルタイプを追加するダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスで拡張子と MIME タイプを指定して、ファイルタイプを追加できます。

2. 業務の作成

[削除] ボタン

[登録されているファイルタイプ] で選択したファイルタイプが削除されます。

[編集] ボタン

[登録されているファイルタイプ] で選択したファイルタイプを編集するダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスで拡張子と MIME タイプを指定して、ファイルタイプを変更できます。

(4) Groupmax Form for ASP の保守用ログ出力の設定

システムに問題が発生した場合に、保守用ログを取得するために必要な情報を設定します。保守用ログを出力すると、伝票の処理速度が遅くなります。この情報は、保守用ログを取得する必要がある場合だけ設定してください。

設定方法を次に示します。

1. [Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ] ダイアログボックスで [保守用ログ] タブを選択する
2. 保守用ログを出力するために必要な情報を設定する
3. [OK] ボタンをクリックする

[保守用ログ] タブで設定するオプションについて説明します。次に示す図は、各オプションに初期値が設定されている状態です。



保守用ログのパス

保守用ログの出力先のパスを指定します。

パスを指定しなかった場合、保守用ログファイル (*.log) は、WWW サーバで実行中の ASP 伝票が格納されているフォルダに出力されます。

出力されるログファイルのファイル名は、ASP 伝票と同じファイル名になります。ログ出力時に、出力先に同じファイル名のログファイルがあった場合、上書きされず、既にあるログファイルにログ情報が追加されます。

なお、ログファイルを出力する場合、ASP 伝票の格納先のファイルシステムが NTFS 形式の場合は、WWW ユーザに、格納先フォルダに対する書き込みのアクセス権を与えておく必要があります。

保守用ログの収集

出力するログの種類を、チェックボックスから選択します。

出力できるログの種類と内容を、表 2-5 に示します。

2. 業務の作成

表 2-5 ログの種類と内容

種類	内容
トレース	関数を開始又は終了したときの情報
警告	処理を中断しなくても済むエラーが発生したときの情報
エラー	処理を中断させるエラーが発生したときの情報
重大なエラー	処理を強制終了させるエラーが発生したときの情報
SQL 文	@ SQL 実行で実行した SQL 文

2.7.4 Exchange と連携するための環境設定

項目のデータ、案件の添付ファイル、及び案件情報を、Exchange ユーザのメールボックスのフォルダに、Exchange のメッセージとして作成するには、Exchange 環境と IIS 環境を設定する必要があります。

Exchange と連携するための環境設定について、次に説明します。

(1) Exchange 環境の設定

ASP 伝票から Exchange サーバにアクセスするには、CDO を使用します。CDO の .mmp ファイルを作成するために、次に示す設定 1 又は設定 2 のどちらかを実施してください。

.mmp ファイルは、CDO が、CDO セッション中のプロファイル情報を格納するのに使用するテンポラリファイルです。ASP ファイルで CDO を使用すると、デフォルトの場合、Windows のインストールディレクトリである IIS サーバディレクトリに .mmp ファイルが生成されます。.mmp ファイルは CDO セッションがクローズすると自動的に削除されます。

(a) 設定 1

ASP 伝票にアクセスするユーザに、Exchange サーバの、Windows NT 又は Windows 2000 のインストールディレクトリ（標準は c:\WINNT）に対する書き込みのアクセス権を与えてください。

この方法は、Windows ディレクトリに対する書き込みのアクセス権を与えることになるため、運用には注意が必要です。

(b) 設定 2

次に示す手順で、レジストリを編集してください。

注意事項

レジストリを編集する場合は、細心の注意を払い、自己の責任で編集してください。レジストリの編集を誤ると、オペレーティングシステムを再インストールしなければならないなどの重大な問題が発生する可能性があります。そのような問題が発生

しても、弊社では責任を負いかねます。

レジストリの編集を誤ったときに備え、レジストリを編集する前に、レジストリのバックアップを取っておいてください。また、修復ディスクユーティリティを使用して、修復情報を更新し、修復ディスクを作成しておいてください。修復ディスクユーティリティについては、Windows NT 又は Windows 2000 のオンラインヘルプを参照してください。

1. Exchange サーバが使用するディレクトリ（例：C:\MyComputer\Temporary）を作成する
2. ASP 伝票にアクセスするユーザに、1. で作成したディレクトリに対する書き込みのアクセス権を与える
3. レジストリエディタ（Regedt32.exe）を起動する
4. レジストリ [HKEY_LOCALMACHINE\Software\Microsoft\Windows Messaging Subsystem] を選択し、[編集] - [値の追加] を選択する
[値の追加] ダイアログボックスが表示されます。
5. 「値の名前」に ProfileDirectory と入力し、「データタイプ」で REG_SZ（文字列）を選択する
[文字列エディタ] ダイアログボックスが表示されます。
6. [文字列] に、作成したディレクトリのパスを指定し、[OK] ボタンをクリックする
レジストリに、文字列値 [ProfileDirectory] が追加され、文字列値 [ProfileDirectory] のデータとして、作成したディレクトリのパスが設定されます。

(2) IIS 環境の設定

Exchange と連携する ASP 伝票を実行する仮想ディレクトリの認証方法に、基本認証と統合 Windows 認証のうちのどちらか、又は両方を運用に応じて指定してください。認証方法に基本認証を使用する場合、ユーザには、IIS が稼働しているシステムにローカルログオンする権限が必要です。

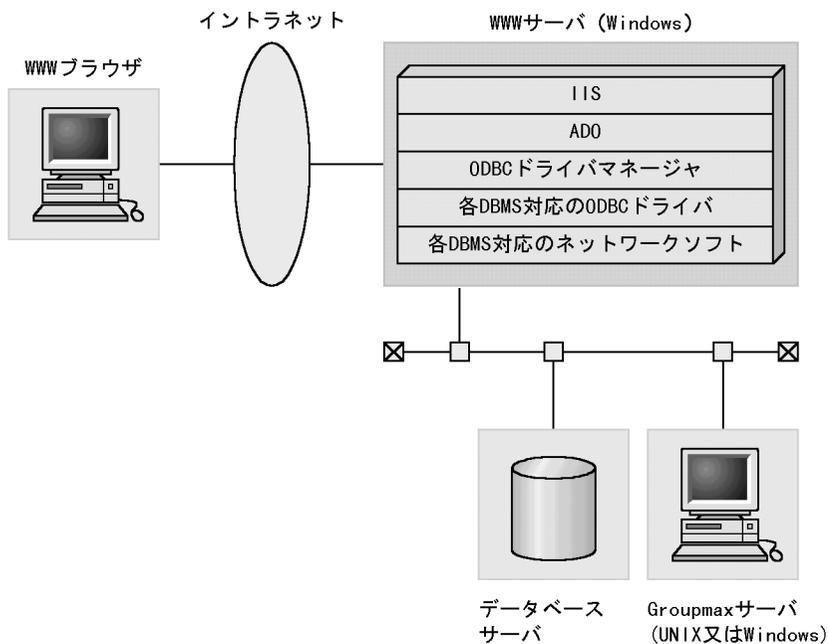
2.8 データベース利用時の設定

Groupmax Form for ASP では、WWW サーバ上の ODBC を経由して任意のサーバ上のデータベースを利用できます。なお、データベースを利用するための環境は、システム管理者が設定してください。

2.8.1 アクセス環境

ODBC アクセス環境の構成を図 2-9 に示します。なお、図中の WWW サーバ、Groupmax サーバ、データベースサーバはそれぞれユーザの利用環境に応じて同一のサーバに統合した運用もできます。

図 2-9 アクセス環境の構成



Groupmax Form for ASP から ODBC データベースを使用するには、Windows がインストールされている WWW サーバに接続する DBMS の ODBC ドライバが必要です。また、その前提となるネットワークプログラム (データベースクライアント) が必要です。

2.8.2 ODBC ドライバの設定

使用する ODBC データベースに対応した ODBC ドライバをインストールして、データソースを設定します。データソースは、Windows のシステムデータソースとして登録してください。

2.8.3 データベースの共用

Groupmax Form Client と Groupmax Form for ASP でデータベースを共用する場合、次に示すように設定することをお勧めします。

- データベース上のテーブルに文字型項目を作る場合は可変長文字型にする
ORACLE データベースでは VARCHAR が可変長文字型です。
- Groupmax Form Client のスペースカットオプションをオンにする
スペースカットオプションの設定方法を、次に示します。
 1. Groupmax Form Client の開発ウィンドウで [オプション] - [外部データベースオプション] - [ODBC...] を選択する
[ODBC オプション情報] ダイアログボックスが表示されます。
 2. 「文字属性データの扱い方」チェックボックスにある「文字列後部スペースカット」をチェックする

3

業務の実行

WWW サーバに格納した ASP 伝票は，ワークフローと連携して実行できます。この章では，ASP 伝票を WWW ブラウザで使用する際の操作方法について説明します。

3.1 業務の開始

3.2 案件の処理

3.3 捺印機能の利用

3.1 業務の開始

ASP 伝票の起動方法、及び WWW ブラウザの操作について説明します。

(1) ASP 伝票の起動

業務共通部のログインページで Groupmax にログイン後、帳票棚ページ又は受信トレーページから案件を選択すると、登録されている ASP 伝票が起動されます。なお、帳票棚及び受信トレーの操作方法については、Groupmax Workflow・Development Kit for ASP とともにインストールされる HTML マニュアルの、帳票棚コントロール又は受信トレーコントロールの説明を参照してください。

ASP 伝票を起動すると、図 3-1 に示すような伝票が WWW ブラウザに表示されます。

図 3-1 WWW ブラウザに表示される ASP 伝票の例

資材発注伝票						
申込日	<input type="text"/>	注文番号	<input type="text"/>	資材発注	差し戻し	処理終了
所属部署	内線	原価部門コード	申請者	部長	課長	担当
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
発注実績一覧	次データ					
品名	購入希望金額	購入希望メーカー	期日	数量	合計金額	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
備考	<input type="checkbox"/> 添付あり	添付書類	期日は19YYMMDDの形式で入力して下さい YY:年 MM:月 DD:日			
<input type="text"/>						

(2) WWW ブラウザの操作

ASP 伝票の操作時に、WWW ブラウザの [戻る] ボタンなどを使ってページを切り替えたり、[更新] ボタンなどを使ってページを再読み込みしたりしないでください。WWW ブラウザ側の操作でページを切り替えると、ASP 伝票が正しく動作できなくなります。

3.2 案件の処理

ワークフローと連携した案件の処理について説明します。

3.2.1 案件の処理画面

ビジネスプロセスの定義と処理定義に指定した案件処理コマンドの内容によって、案件の処理画面が伝票画面に替わって WWW ブラウザに表示されます。

なお、処理画面に表示される [宛先] ボタンの操作方法については、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP とともにインストールされる HTML マニュアルの、システム宛先テンプレートページの説明を参照してください。

@案件投入

ビジネスプロセスの定義と、@案件投入の投入オプションの指定によって、案件投入画面が表示されます。データを入力して [OK] ボタンをクリックすると、案件が投入され、伝票画面に戻ります。案件を投入しないで伝票画面に戻りたい場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

案件を投入します。	
<input type="button" value="OK"/>	<input type="button" value="キャンセル"/>
作業名	複写先
複写1	<input type="checkbox"/> ノードA <input type="checkbox"/> ノードB
スキップ	作業名 作業者の指定
<input type="checkbox"/>	作業機1 <input type="text"/> <input type="button" value="宛先..."/>
	作業機2 <input type="text"/> <input type="button" value="宛先..."/>
作業名	配布先の指定
作業機3	<input type="text" value="業務担当A"/>
作業機4	<input type="text" value="業務担当C"/>

複写先

ビジネスプロセスで「複写先選択」が定義されている場合、定義された複写先が表示されます。チェックボックスをチェックすると、複写ノードが確定されます。複写先を必ず選択しなければならない場合は、作業名が青色で表示されます。

スキップ

@案件次ノード選択で遷移先での処理をスキップできるように定義されている場合、処理をスキップするかどうかを指定するためのチェックボックスが表示されます。チェックボックスをチェックすると、遷移先のノードでの処理をスキップして、その次の処理に遷移します。

3. 業務の実行

作業者の指定

ビジネスプロセスで「作業者の指定」が定義されている場合、候補となる次ノードの作業名が表示されます。作業者を必ず指定しなければならない場合は、作業名が青色で表示されます。

配布先の指定

ビジネスプロセスで「配布先ロールの指定」が定義されている場合、候補となる次ノードの作業名が表示されます。コンボボックスから配布先キーを選択してください。なお、処理画面に「配布先の指定」が表示された場合、配布先を必ず指定してください。

@案件遷移（遷移）

ビジネスプロセスの定義と、@案件遷移の遷移オプションの指定によって、案件処理画面が表示されます。データを入力して[OK]ボタンをクリックすると、案件が次の処理先に送信され、伝票画面に戻ります。案件を処理しないで伝票画面に戻りたい場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

「複写先」、「作業者の指定」、及び「配布先の指定」の操作方法は、案件投入画面の操作方法と同じです。案件投入画面での説明を参照してください。

@案件遷移（差し戻し）

@案件遷移（差し戻し）を実行すると、差し戻し指定画面が表示されます。差し戻し指定画面には、差し戻し先の候補として、案件の過去の処理者、作業名、及び処理日時が表示されます。

ラジオボタンを選択して[差し戻し]ボタンをクリックすると、案件が差し戻され、伝票画面に戻ります。案件を差し戻さないで伝票画面に戻りたい場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

差し戻しの指定: 旅費清算書

No.	処理者	作業名	日時
<input checked="" type="radio"/> 1	TA.AKAHO	旅費清算書	99/07/01 20:16
<input type="radio"/> 2	T.MIYACHI	旅費清算書	99/07/01 22:10

@案件遷移（振り替え）

@案件遷移（振り替え）を実行すると、振り替え先指定画面が表示されます。

振り替え者を指定して[振り替え]ボタンをクリックすると、指定された振り替え先に案件が振り替えられ、伝票画面に戻ります。案件を振り替えないで伝票画面に戻りたい場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

@案件遷移（相談）

@案件遷移（相談）を実行すると、相談先指定画面が表示されます。

相談者を指定して[相談]ボタンをクリックすると、指定された相談先に案件が送信され、伝票画面に戻ります。案件を送信しないで伝票画面に戻りたい場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

なお、ビジネスプロセスに定義された案件の処理は、送信した相談先から、案件が戻ってきたときに再開します。

3.2.2 添付ファイルの操作

@添付ファイル操作を使うことで、案件の添付ファイルを追加・更新したり、削除したりできます。また、添付ファイルの参照や保存もできます。

添付ファイルは、@添付ファイル操作を実行すると表示される添付ファイル操作画面で操作します。操作画面は、ケースの数によって異なります。添付ファイル操作画面を、図 3-2 に示します。

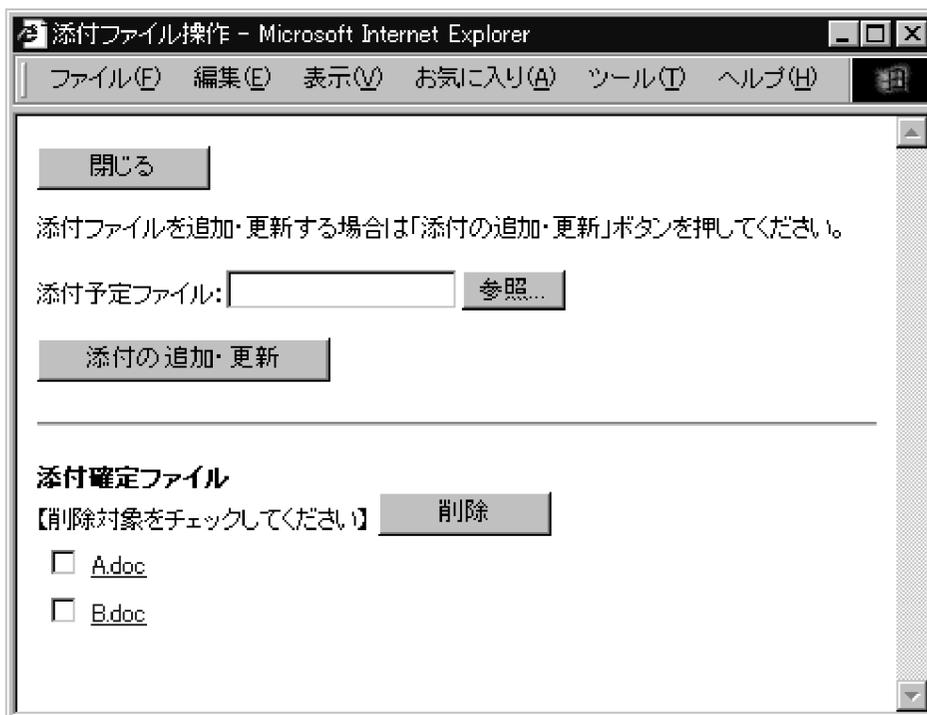
なお、添付ファイル操作画面には、図 3-2 に示す以外に、添付ファイルの参照・保存だけができる画面、及び作業中のノードに添付するファイルだけを更新・削除できる画面があります。どの画面を使用するかは、@添付ファイル操作で指定します。

また、添付ファイル操作画面のラベル部分をカスタマイズできます。カスタマイズの方法については、「付録 B 操作画面ラベルのカスタマイズ」を参照してください。

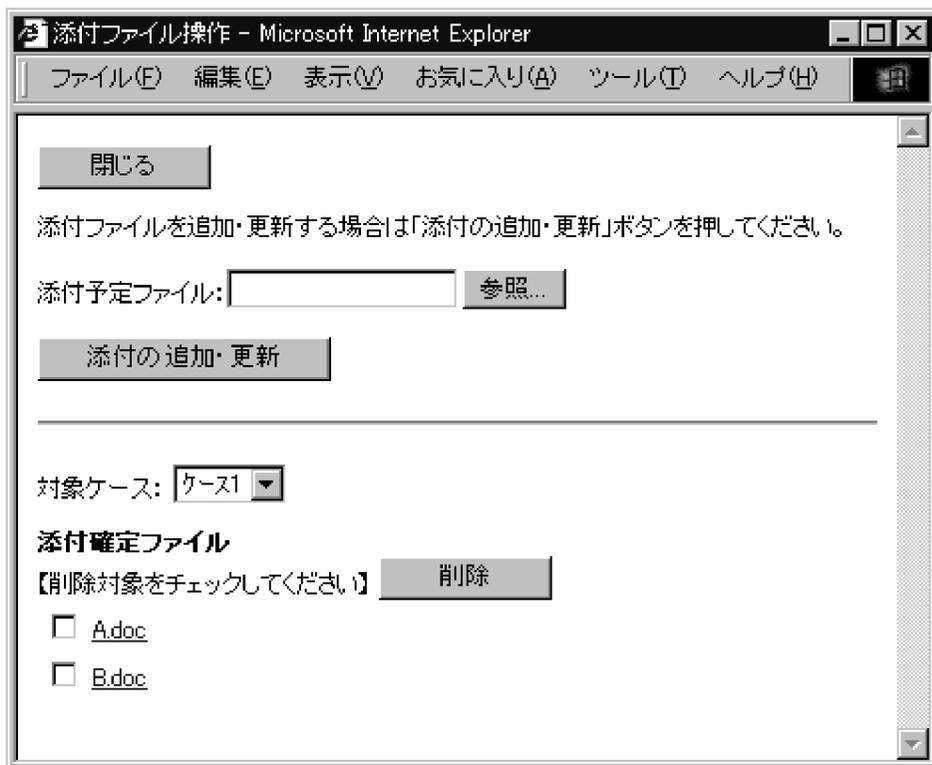
3. 業務の実行

図 3-2 添付ファイル操作画面

- ケースが一つの場合



●ケースが複数ある場合



添付ファイル操作画面は、伝票画面に替わって WWW ブラウザに表示されます。添付ファイル操作画面の [閉じる] ボタンをクリックすると、伝票画面に戻ります。なお、添付ファイル名に日本語が使われている場合、WWW ブラウザによっては、ファイル名が正しく表示されないことがあります。

(1) 添付ファイルの追加・更新

添付ファイルの追加及び更新方法を説明します。なお、一つのケースに添付できるファイル数は、最大 99 個です。

1. 添付予定ファイル名を指定する

[参照] ボタンをクリックして、表示される [ファイルの選択] ダイアログボックスで、追加するファイルのファイル名を指定します。指定したファイル名は、[添付予定ファイル名] テキストボックスに表示されます。

なお、ファイル名は [添付予定ファイル名] テキストボックスに直接入力できます。その場合、フルパスで入力してください。

2. [添付の追加・更新] ボタンをクリックする

同名のファイルが添付されている (「 添付確定ファイル 」 に同名のファイルが表示されている) かどうかで処理が異なります。

- 同名のファイルが添付されていない場合

3. 業務の実行

ファイルが追加され、追加したファイルのファイル名が「添付確定ファイル」に表示されます。

- 同名のファイルが既に添付されている場合
ファイルが更新されます。いったんファイルが更新されると、更新操作は取り消せません。ただし、一度案件の処理をキャンセルして再び処理を開始すれば、ファイルを更新する前の状態に戻ります。

なお、削除対象チェックボックスがチェック状態の場合、[添付の追加・更新] ボタンをクリックすると、チェックが解除されます。

注

ファイル名の太文字と小文字は区別されません。

(2) 添付ファイルの削除

添付ファイルの削除方法を説明します。

1. 削除するファイルの削除対象チェックボックスをチェックする
一度に複数のファイルのチェックボックスをチェックできます。
2. [削除] ボタンをクリックする
ファイルが削除され、「添付確定ファイル」からファイル名が削除されます。
また、[添付予定ファイル名] テキストボックスにファイル名が表示されている場合、[削除] ボタンをクリックすると、テキストボックスの情報は初期化されます。
いったんファイルが削除されると、削除操作は取り消せません。ただし、一度案件の処理をキャンセルして再び処理を開始すれば、ファイルを削除する前の状態に戻ります。

(3) 添付ファイルの参照・保存

「添付確定ファイル」のファイル名（アンカー部分）をクリックしてください。

添付ファイルダウンロード時の動作は、「2.7.3(3) 作業環境の設定」によって動作が異なります。

3.3 捺印機能の利用

捺印機能の利用について説明します。

(1) 捺印する

捺印項目をクリックすると、その項目に捺印されます。捺印には Groupmax にログインしたときのユーザ ID 及びパスワードが使用されます。捺印の日付は、WWW サーバで設定されている日付になります。

(2) 捺印を取り消す

捺印されている捺印項目をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。表示されたダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックすると、捺印が取り消されます。ただし、捺印を取り消せるのは、ログイン中のユーザが捺印した項目だけです。

4

Groupmax Form Client との 相違

この章では、ASP 用に作成した伝票と Groupmax Form Client で作成した伝票の機能の相違について説明します。この章で取り上げていない機能は、ASP 用の伝票では支援していません。

4.1 画面形式の相違について

4.2 処理定義の相違について

4.1 画面形式の相違について

伝票の画面形式に関する相違について説明します。

4.1.1 項目について

ASP 用伝票の項目の使用について、表 4-1 に示します。

表 4-1 項目の使用

項目	対応	備考
文字列		
見出し項目		
明細項目		連動して動作する複数明細は使用できません。 実行時に行数は増やせません。 横分割はできません。
総括項目	-	
罫線	-	
画像	-	
矩形	-	
プッシュボタン項目		画像を使って作成したボタンは使用できます。 縦長のボタンは WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。
チェックボックス項目		
ラジオボタン項目		
オブジェクト (OLE 項目)	-	
メモ項目		
捺印項目		電子印の形式には、テキスト形式及びビットマップ形式が使用できます。
リッチテキスト項目	-	

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

注

圧縮形式、OS/2 形式及び 256 色を超えるビットマップは使用できません。

4.1.2 項目及び伝票全体の属性について

ASP 用伝票の項目及び伝票全体の属性について説明します。

(1) 文字列の項目属性

文字列の項目属性について、表 4-2 に示します。

表 4-2 文字列の項目属性

属性		対応	備考
文字属性	フォント名		
	スタイル		
	サイズ		
フィールド属性	背景色		
	文字配置	横方向	「全体割り」及び「均等」は「中央」と同様に表示されます。
		縦方向	「均等」は「中央」と同様に表示されます。
	表示形式	-	
	文字色		
囲み罫線	一括指定	罫線	-
		線色	WWW ブラウザが Internet Explorer で、変換時の ASP 環境設定で囲み罫線の表示を指定した場合だけ有効です。
	個別指定	-	

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

(2) 見出し項目の項目属性

見出し項目の項目属性について、表 4-3 に示します。

表 4-3 見出し項目の項目属性

属性		対応	備考
文字属性	フォント名		WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。
	スタイル		WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。
	サイズ		表示項目の場合だけ有効です。

4. Groupmax Form Client との相違

	属性	対応	備考	
フィールド属性	背景色			
	文字配置	横方向	「全体割り」及び「均等」は「中央」と同様に表示されます。	
		縦方向	「均等」は「中央」と同様に表示されます。	
	表示形式	-		
	文字色		表示項目の場合だけ有効です。	
囲み罫線	一括指定	罫線	-	
		線色	WWW ブラウザが Internet Explorer で、変換時の ASP 環境設定で囲み罫線の表示を指定した場合だけ有効です。	
	個別指定	-		
項目属性	属性		WWW ブラウザでデータ入力時に数値だけチェックされます。	
	桁数		WWW ブラウザでデータ入力時にだけチェックされます。 ただし、WWW ブラウザによって桁数の数え方が異なります（全角文字の 1 文字を 1 桁と数えるものと、2 桁と数えるものがあります）。	
	かな漢字変換の自動起動		Internet Explorer 5 以降の場合に有効です。	
	かな漢字変換の抑止		Internet Explorer 5 以降の場合に有効です。	
	種別	表示		
		入力		
非表示				
非表示入力				
編集			項目属性 - 属性が「数値」で種別が「表示」のとき、項目属性の編集で「¥編集」、「\$編集」、「,編集」が指定されている場合、項目に設定されている値を「¥編集」、「\$編集」、「,編集」して表示します。また、「0データ抑止」が指定されている場合、0 データの表示を抑止します。	
参照情報		-		
メッセージ表示		-		
コンボボックス			表示行数指定及びリストのソート指定は使用できません。 選択した値は編集できません。	

(凡例)

: 使用できます。

: 条件付きで使用できます。

- : 使用できません。

(3) 明細項目の項目属性

明細項目の項目属性について、表 4-4 に示します。

表 4-4 明細項目の項目属性

属性		対応	備考	
文字属性	フォント名		WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。	
	スタイル		WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。	
	サイズ		明細見出し又は種別が表示のときだけ有効です。	
フィールド属性	背景色			
	文字配置	横方向	「全体割り」及び「均等」は「中央」と同様に表示されます。	
		縦方向	「均等」は「中央」と同様に表示されます。	
	表示形式	-		
	文字色		明細見出し又は種別が表示のときだけ有効です。	
囲み罫線	一括指定	罫線	-	
		線色	WWW ブラウザが Internet Explorer で、変換時の ASP 環境設定で囲み罫線の表示を指定した場合だけ有効です。	
	個別指定	-		
罫線属性	罫線		見出しと項目の間の罫線は無効です。	
	色		見出しと項目の間の罫線は無効です。	
項目属性	属性		WWW ブラウザでデータ入力時に数値だけチェックされます。	
	桁数		WWW ブラウザでデータ入力時にだけチェックされます。 ただし、WWW ブラウザによって桁数の数え方が異なります(全角文字の 1 文字を 1 桁と数えるものと、2 桁と数えるものがあります)。	
	かな漢字変換の自動起動		Internet Explorer 5 以降の場合に有効です。	
	かな漢字変換の抑止		Internet Explorer 5 以降の場合に有効です。	
	種別	表示		
		入力		
非表示				
非表示入力				

4. Groupmax Form Client との相違

属性	対応	備考
編集		項目属性 - 属性が「数値」で種別が「表示」のとき、項目属性の編集で「¥ 編集」、「\$ 編集」、「, 編集」が指定されている場合、項目に設定されている値を「¥ 編集」、「\$ 編集」、「, 編集」して表示します。また、「0 データ抑止」が指定されている場合、0 データの表示を抑止します。
参照情報	-	
メッセージ表示	-	
コンボボックス		表示行数指定及びリストのソート指定は使用できません。 選択した値は編集できません。

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

(4) プッシュボタン項目の項目属性

プッシュボタン項目の項目属性について、表 4-5 に示します。

表 4-5 プッシュボタン項目の項目属性

属性	対応	備考
文字属性	フォント名	WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。
	スタイル	WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。
	サイズ	WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。
フィールド属性	文字色	-
項目属性	タイトル	
	画像の設定	-

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

(5) チェックボックス項目の項目属性

チェックボックス項目の項目属性について、表 4-6 に示します。

表 4-6 チェックボックス項目の項目属性

	属性	対応	備考
文字属性	フォント名		
	スタイル		
	サイズ		
フィールド属性	背景色		
	表示形式	-	
	文字色		
項目属性	タイトル		

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

(6) ラジオボタン項目の項目属性

ラジオボタン項目の項目属性について、表 4-7 に示します。

表 4-7 ラジオボタン項目の項目属性

	属性	対応	備考
文字属性	フォント名		
	スタイル		
	サイズ		
フィールド属性	背景色		
	表示形式	-	
	文字色		
囲み罫線	一括指定	罫線	-
		線色	WWW ブラウザが Internet Explorer で、変換時の ASP 環境設定で囲み罫線の表示を指定した場合だけ有効です。
	個別指定	-	
項目属性	配置 (縦・横)		
	タイトル		

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。

4. Groupmax Form Client との相違

- : 使用できません。

(7) メモ項目の項目属性

メモ項目の項目属性について、表 4-8 に示します。

表 4-8 メモ項目の項目属性

属性		対応	備考	
文字属性	フォント名		WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。	
	スタイル		WWW ブラウザによっては使用できない場合があります。	
	サイズ		表示項目の場合だけ有効です。	
フィールド属性	背景色			
	文字配置	横方向	「全体割り」及び「均等」は「中央」と同様に表示されます。	
		縦方向	「均等」は「中央」と同様に表示されます。	
	表示形式	-		
	文字色		表示項目の場合だけ有効です。	
囲み罫線	一括指定	罫線	-	
		線色	WWW ブラウザが Internet Explorer で、変換時の ASP 環境設定で囲み罫線の表示を指定した場合だけ有効です。	
	個別指定	-		
項目属性	桁数	-		
	かな漢字変換の自動起動		Internet Explorer 5 以降の場合に有効です。	
	かな漢字変換の抑止		Internet Explorer 5 以降の場合に有効です。	
	種別	表示		
		入力		
非表示		-		
メッセージ表示		-		

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

(8) 捺印項目の項目属性

捺印項目の項目属性について、表 4-9 に示します。

表 4-9 捺印項目の項目属性

属性		対応	備考
フィールド属性	背景色		
	表示形式	-	
囲み罫線	一括指定	罫線	-
		線色	WWW ブラウザが Internet Explorer で、変換時の ASP 環境設定で囲み罫線の表示を指定した場合だけ有効です。
	個別指定	-	
項目属性	捺印対象項目の指定		-
	種別		非表示以外の指定が有効です。
	ログイン中のユーザ ID・パスワードでの捺印		この属性の指定にかかわらず、捺印にはログイン中のユーザ ID 及びパスワードが使用されます。
	捺印後の捺印対象項目の編集抑止		-
	捺印日付の確認		-
	捺印権限の指定		-
	種別	表示	
入力			
非表示		-	

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

(9) 伝票全体に関する属性

伝票全体に関する属性について、表 4-10 に示します。

表 4-10 伝票全体に関する属性

属性	対応	備考
用紙属性		背景色及び用紙の幅だけ有効です。
初期属性	-	
伝票発行	-	
案件オプション		" 案件データ出力を新形式で出力する " だけ有効です。
処理順一覧	-	

4. Groupmax Form Client との相違

属性	対応	備考
ファイルタイトル		WWW ブラウザのタイトルバーに表示されます。
グリッドの設定		変換時の ASP 環境設定で「詳細変換」を選択した場合だけ有効です。

(凡例)

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

4.1.3 画面形式の詳細な相違について

画面形式に関する詳細な相違について説明します。

(1) メモ項目

メモ項目に関する相違について説明します。

桁数

Groupmax Form Client では、入力できる桁数を制限できます。

Groupmax Form for ASP では、桁数を制限できません。

表示状態（種別が「入力」の場合）

Groupmax Form Client では、表示状態はフォーカスの移動によって、文字を入力できる状態（カーソルが表示されている状態）になったり、文字を入力できない状態（カーソルが表示されていない状態）になったりします。

Groupmax Form for ASP では、表示状態はフォーカスの移動に関係なく、常に文字を入力できる状態です。

(2) 明細項目

Groupmax Form Client では、実行時に行数を増やせます。

Groupmax Form for ASP では、行数は定義時に設定したままで、実行時に増やすことはできません。

(3) 入力領域

Groupmax Form Client では、項目の囲み罫線を部分的に変更したり、罫線や矩形を使ったりして、一つの枠の中に複数の入力領域を作成できます。

Groupmax Form for ASP では、項目の囲み罫線を部分的に変更することはできません。また、罫線及び矩形を作成できません。このため、一つの枠の中に複数の入力領域を作成できません。

例えば、年月日をそれぞれ別々の入力領域にする場合は、図 4-1 に示すように作成します。

図 4-1 入力領域を複数作成した場合の相違

●Groupmax Form Client の場合

退去年月日	年	月	日
-------	---	---	---

●Groupmax Form for ASP の場合

退去年月日	年	月	日
-------	---	---	---

(凡例)

□ : 領域

(4) 重ねて作成した項目

Groupmax Form Client では、項目を重ねて作成した場合、実行時にはそのまま重なって表示されます。

Groupmax Form for ASP では、項目を重ねて作成した場合、重ならないように項目がずれて表示されます。そのため、伝票の画面構成が作成時と変わってしまうことがあるので、項目は重ねて作成しないようにしてください。

(5) 背景色

見出し項目、明細項目、及びメモ項目の背景色は、Groupmax Form Client と Groupmax Form for ASP で表示形式が異なります。図 4-2 に示すように、Groupmax Form for ASP では、入力領域に背景色は表示されません。

図 4-2 背景色の相違

●Groupmax Form Client の場合

Groupmax

●Groupmax Form for ASP の場合

<table border="1"> <tr> <td>Groupmax</td> </tr> </table>	Groupmax
Groupmax	

(凡例)

■ : 背景色

(6) 文字配置

見出し項目及び明細項目の文字配置は、図 4-3 及び図 4-4 に示すように Groupmax Form Client と Groupmax Form for ASP で表示形式が異なります。

4. Groupmax Form Client との相違

図 4-3 文字配置（横方向）の相違

●Groupmax Form Client の場合

(左詰め)



(右詰め)



(中央)



(全体割り)



(均等)



●Groupmax Form for ASP の場合

(左詰め)



(右詰め)



(中央)



(全体割り) ※



(均等) ※



注※ 「全体割り」及び「均等」はGroupmax Form for ASPでは未支援です。「全体割り」又は「均等」を指定してある場合、「中央」と同じ表示形式になります。

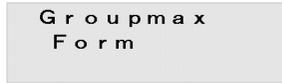
(凡例)

 : 背景色

図 4-4 文字配置（縦方向）の相違

●Groupmax Form Client の場合

(上詰め)



(下詰め)



(中央)



(均等)



●Groupmax Form for ASP の場合

(上詰め)



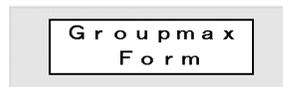
(下詰め)



(中央)



(均等)※



注※ 「均等」はGroupmax Form for ASPでは未支援です。「均等」を指定してある場合、「中央」と同じ表示形式になります。

(凡例)

 : 背景色

4.2 処理定義の相違について

伝票の処理定義に関する相違について説明します。

4.2.1 処理の実行について

ASP 用伝票での処理の実行について、表 4-11 に示します。

表 4-11 処理の実行

種別	対応	備考
開始処理		
再開始処理	-	
前処理		伝票起動時に実行されます。 ただし、開始処理が定義されているときは、その後に実行されます。
共通処理		
キー入力処理	-	
タイマ処理	-	
印刷前処理	-	
後処理		@処理終了の後に実行されます。
最終処理		@処理終了の後に実行されます。
強制終了処理	-	

(凡例)

: 実行できます。

- : 実行できません。

4.2.2 イベント処理の実行について

ASP 用伝票でのイベント処理の実行について、表 4-12 に示します。

表 4-12 イベント処理の実行

項目	種別	対応	備考
見出し項目 明細項目	項目処理		項目の内容が変更されて、フォーカスが移動したときに実行されます。
	クリック処理	-	
	ダブルクリック 処理	-	
	データ入力前 処理	-	

項目	種別	対応	備考
	データ入力後処理	-	
	キー入力	-	
	ドロップダウン処理	-	
	選択変更処理	-	
総括項目	項目処理	-	
プッシュボタン項目	項目処理		項目をクリックしたときに実行されます。
チェックボックス項目	クリック処理	-	
ラジオボタン項目	ダブルクリック処理	-	
	キー入力処理	-	
メモ項目	項目処理		項目の内容が変更されて、フォーカスが移動したときに実行されます。
捺印項目	項目処理		項目をクリックしたときに実行されます。
	クリック処理	-	
	ダブルクリック処理	-	
リッチテキスト項目	項目処理	-	

(凡例)

: 実行できます。

- : 実行できません。

4.2.3 処理コマンドの使用について

ASP 用伝票の処理定義に使用する処理コマンドについて説明します。

(1) 処理の流れ

処理の流れに関する処理コマンドの使用について、表 4-13 に示します。

表 4-13 処理コマンドの使用 (処理の流れ)

コマンド名	内容	対応
@判定開始	指定された条件の判定結果 (成立又は不成立) に応じて、異なる処理を実行します。	
@成立		
@不成立		

4. Groupmax Form Client との相違

コマンド名	内容	対応
@判定終了		
@分岐開始	指定された条件（項目などの値）に応じて、異なる処理を実行します。	
@分岐値		
@分岐終了		
@反復開始	処理を繰り返し実行します。	
@反復終了		
@ JUMP	指定された箇所へ処理を移します。	
@番地		-
@処理終了	実行中の伝票発行処理を終了します。	
@メイン伝票	グループ伝票内で、メンバ伝票の処理を終了して、メイン伝票に戻ります。	-
@タイマ登録	タイマ処理を実行するためのタイマを起動します。	-
@タイマ削除	@タイマ登録で起動されたタイマを停止します。	-
@次伝票	現在の伝票の処理を終了して、再び初期状態の伝票発行画面を表示します。	-
@項目追加	伝票発行画面にない項目を追加します。	-

（凡例）

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

注

@番地へのジャンプ（@ JUMP）は使用できません。

（2）データ操作

データ操作に関する処理コマンドの使用について、表 4-14 に示します。

表 4-14 処理コマンドの使用（データ操作）

コマンド名	内容	対応
@代入	指定された項目や変数に値を代入します。	
@文字代入	項目や変数の内容（文字列）の一部を、ほかの項目や変数に代入します。	
@検索代入	項目や変数の内容（文字列）から、検索パターンと一致する文字列を検索して、ほかの項目や変数に代入します。	
@文字置換	項目や変数の内容（文字列）の一部を、ほかの文字列に置き換えます。	
@文字削除	項目や変数の内容（文字列）の一部から、指定された文字列を削除します。	
@属性変換	項目や変数のデータの属性を変換して、指定された変数に代入します。	

コマンド名	内容	対応
@四捨五入	項目や変数の内容又は演算結果を四捨五入して、指定された項目に代入します。	-
@切捨て	項目や変数の内容又は演算結果を切り捨てて、指定された項目に代入します。	-
@切上げ	項目や変数の内容又は演算結果を切り上げて、指定された項目に代入します。	-
@演算精度	除算をするとき及び ROOT 関数で平方根を求めるときの、小数部の有効桁数を設定します。	-
@ファイル変換	CSV 形式ファイルをデータベースに変換します。 データベースを CSV 形式ファイルに変換します。	-
@行挿入	伝票発行画面の明細部に行を挿入します。	-
@行削除	伝票発行画面の明細部から行を削除します。	-
@捺印	捺印項目に捺印します。	
@捺印取消	捺印項目への捺印を取り消します。	
@捺印情報	捺印の情報（ユーザ ID、日付など）を取得します。	
@明細情報	明細部の情報を取得します。	
@ログインチェック	特定のユーザ ID・パスワードが、Groupmax にログイン中のユーザ ID・パスワードと同じかどうかをチェックします。	-
@ CSV 出力	伝票のデータを CSV 形式ファイルとして新規に出力します。	-
@ CSV 入力	CSV 形式ファイルのデータを、伝票の項目に読み込みます。	-
@画像設定	項目に指定されたビットマップ形式ファイルのデータ（画像）を表示します。 項目に表示している画像を消去します。	-
@画像回転	項目に表示している画像を回転させます。	-
@ FAX 画像表示	FAXC の認識結果データから画像を取り込み、伝票に表示します。	-
@ FAX 画像消去	@ FAX 画像表示で表示した画像を消去します。	-
@初期値	複数の項目や変数に、まとめて初期値を代入します。	
@オプション設定	レジストリの Groupmax Form に関係するキーの値を設定します。	-
@データ回復	一つ前の伝票発行画面で項目に入力されたデータを現在の画面の同じ項目に表示します。	-
@重複チェック	明細項目に入力されたデータが重複していないかどうかチェックします。	-
@ファイル削除	指定されたファイルを削除します。	-

（凡例）

：使用できます。

-：使用できません。

（3）表示・応答

表示・応答に関する処理コマンドの使用について、表 4-15 に示します。

4. Groupmax Form Client との相違

表 4-15 処理コマンドの使用（表示・応答）

コマンド名	内容	対応
@電文表示	伝票発行画面のステータスバーにメッセージを表示します。	-
@電文消去	@電文表示で表示したメッセージを消去します。	-
@PFキー応答	PFキー応答ダイアログボックスを表示して、PFキー（Fキー）が押されるまで処理を中断します。	-
@メッセージボックス ¹	メッセージボックスを表示して、応答があるまで処理を中断します。	
@ボタン切替 ²	プッシュボタン項目、チェックボックス項目、又はラジオボタン項目のクリックを抑止したり、抑止を解除したりします。	
@コンボボックス ³	伝票発行画面の項目に作成されたコンボボックスに候補を追加したり、削除したりします。	
@再表示	伝票発行画面の項目のデータを表示し直します。	-
@消去	伝票発行画面の項目のデータを消去して、そのデータを無効にします。	-
@色指定	伝票発行画面の項目の文字色、又は領域の背景色を変更します。	
@入力切替	伝票発行画面の表示項目を入力項目に切り替えます。	
@表示切替	伝票発行画面の入力項目を表示項目に切り替えます。	
@明細スクロール	明細行のスクロールを制御します。 明細部の先頭に指定された行を表示します。	-
@再入力	データが入力された項目を再び入力待ちにします。	-

（凡例）

- : 使用できます。
- : 条件付きで使用できます。
- : 使用できません。

注 1

指定できるオペランドは、ボタン種別、メッセージ文、及び結果受け取り項目だけです。

注 2

Internet Explorer 4.0 以降の WWW ブラウザを使用する場合に使用できます。

注 3

データベースのデータはリストに追加できません。

（4）処理の呼び出し

処理の呼び出しに関する処理コマンドの使用について、表 4-16 に示します。

表 4-16 処理コマンドの使用（処理の呼び出し）

コマンド名	内容	対応
@外部呼出	DLL 内の関数（外部関数）を呼び出します。 関数を使って、データベースのレコードも変更できます。	-
@メール	実行中の伝票をメールとして Groupmax Integrated Desktop の OUTBOX に投入します。 伝票をメール形式ファイルとして出力します。	-
@メール送信	Groupmax Mail を利用して、バッチ形式でメールを送信します。	-
@メール宛先	メールの宛先を指定するダイアログボックスを表示して、ダイアログ ボックスで指定された宛先（ニックネーム）を取得します。	-
@手順実行	クライアントの手順業務を呼び出します。	-
@共通手続	あらかじめ作成された共通処理を呼び出して実行します。	-
@伝票発行	ほかの伝票（伝票発行業務）を呼び出して、伝票発行画面を表示したり、 伝票を発行（印刷）したりします。	-
@伝票表示	ほかの伝票を呼び出して表示します。	-
@サーバ実行	Windows NT サーバに登録された手順業務を呼び出します。 伝票のデータをサーバに引き継いで利用できます。	-
@バッチ呼出	Windows NT サーバの実行形式プログラムを、JP1/NetBatch を利用し て実行します。	-
@ AP 起動	コマンドラインで指定したアプリケーションを起動します。	-
@ ASP 関数呼出	VBScript 又は JavaScript で作成された関数を呼び出します。	-

（凡例）

：使用できます。

-：使用できません。

（5）印刷の実行

印刷の実行に関する処理コマンドの使用について、表 4-17 に示します。

表 4-17 処理コマンドの使用（印刷の実行）

コマンド名	内容	対応
@レポート印刷	伝票発行画面のデータやデータベースのデータを、EUR（エンドユーザ 帳票作成機能）で作成した印刷形式（フォームシート）を使って印刷し ます。	-
@書式印刷	伝票発行画面のデータを、書式印刷業務で作成した書式を使って印刷し ます。	-
@サーバ印刷	伝票発行画面のデータを、サーバ側のプリンタで印刷します。	-
@ FAX 番号	伝票を、ファクシミリ（FAX）を使って印刷します。	-
@プリンタ情報取 得	プリンタを設定するダイアログボックスを表示して、ダイアログボク スで指定された情報を取得します。	-

4. Groupmax Form Client との相違

コマンド名	内容	対応
@プリンタ設定	@書式印刷で帳票を印刷するときに、プリンタを設定します。	-
@ PDF 情報	伝票や書式を PDF ファイルに出力するときの情報を設定します。	-

(凡例)

- : 使用できません。

(6) データベース操作

データベース操作に関する処理コマンドの使用について、表 4-18 に示します。

表 4-18 処理コマンドの使用 (データベース操作)

コマンド名	内容	対応
@レコード入力	データベースのレコードを読み込みます。	-
@最終レコード	データベースの最終レコードを読み込みます。	-
@占有解除	サーバ側データベースのレコードの占有をすべて解除します。	-
@連続終了	@レコード入力によるレコードの連続入力を中止します。	-
@更新	データベースから読み込んだレコードを即時更新します。	-
@ DB クローズ	データベースファイルをクローズして、接続を解除します。	-
@レコード削除	データベースのレコードを削除します。	-
@レコード登録	伝票発行画面に入力したデータをデータベースにレコードとして登録します。	-
@ DB 更新	データベース更新業務を呼び出して、データベースを更新します。	-
@サーバ更新	クライアントの伝票発行画面のデータで、サーバのデータベースを更新します。	-
@ DB 参照	データベースの内容をダイアログボックスに一覧表示します。 一覧から選択されたデータを伝票発行画面の項目に取り込みます。	-
@一括読込	データベースのレコードをまとめて読み込んで、伝票発行画面の項目にデータを取り込みます。	-
@ FAX データ受信	FAXC の認識結果データを、FAX コレクターを介して受信します。	-
@受信データ削除	FAXC 及び FAX コレクターの認識結果データを削除します。	-

(凡例)

- : 使用できません。

(7) 案件処理

案件処理に関する処理コマンドの使用について、表 4-19 に示します。

表 4-19 処理コマンドの使用（案件処理）

コマンド名	内容	対応
@案件データ入力	ワークフローの案件に添付されてきたデータを伝票に読み込みます（案件の単一処理用）。	
@案件データ出力	ワークフローの案件を投入するときや遷移させるときに添付する、伝票データを出力します（案件の単一処理用）。	
@案件投入	伝票の発行情報（データ）を案件としてワークフローのビジネスプロセスに投入します（案件の単一処理用）。	
@案件遷移	ワークフローの案件の処理を終了して、遷移させます（案件の単一処理用）。	
@案件切替	案件一括処理用の伝票から呼び出された単一処理用の伝票で、処理する案件を切り替えます。	-
@案件トレー操作	ロールトレーの案件をユーザトレーへ移動します。 ロールトレーやユーザトレーの案件数を取得します。	-
@案件属性値	案件のケースの属性値を設定・参照します（案件の単一処理用）。	
@案件ロール指定	案件を投入するときや遷移させるときに、配布先ロールを指定します（案件の単一処理用）。	
@案件コメント	案件を例外処理するとき、コメントを編集します（案件の単一処理用）。	-
@案件複写先指定	案件を投入するときや遷移させるときに、複写先を指定します（案件の単一処理用）。	
@案件次ノード指定	案件を投入するときや遷移させるときに、遷移先（次ノードの処理ユーザ）を指定します（案件の単一処理用）。	
@案件次ノード選択	案件を投入するときや遷移させるときに、遷移先を指定するダイアログボックスに表示するノード名を選択します（案件の単一処理用）。	
@案件次ノードスキップ	案件を投入するときや遷移させるときに、遷移先での処理をスキップします（案件の単一処理用）。	
@案件差戻先指定	案件を差し戻すときに、差し戻し先を指定します（案件の単一処理用）。	
@案件振替先指定	案件を振り替えるときに、振り替え先を指定します（案件の単一処理用）。	
@案件相談先指定	案件を相談先へ転送するときに、相談先を指定します（案件の単一処理用）。	
@添付ファイル操作	案件のケースの添付ファイルを操作します（案件の単一処理用）。	
@案件ロールユーザ取得	業務ロール内のユーザー一覧を取得して、データベースに格納します。	-
@案件宛先	案件の送付先を指定するダイアログボックスを表示して、ダイアログボックスで指定された送付先（ニックネーム）を取得します。	
@案件ロール取得	案件の配布先ロールの情報を取得します。	-
@案件複写先取得	案件の複写先の情報を取得します。	
@案件差戻先取得	案件の差し戻し先の情報を取得します。	
@案件振替先取得	案件の振り替え先の情報を取得します。	-

4. Groupmax Form Client との相違

コマンド名	内容	対応
@案件情報	処理中の案件の情報を取得します。	-
@案件ケース情報	処理中の案件のケース情報を取得します。	-
@案件ユーザ情報	ワークフローサーバに登録されたユーザ情報を取得します。	-
@案件詳細	案件の一括処理用の伝票から、案件の単一処理用の伝票を呼び出します。	-
@案件一括入力	ワークフローの複数の案件を伝票にまとめて読み込みます（案件の一括処理用）。	-
@案件一括データ入力	ワークフローの案件に添付されてきたデータを伝票に読み込みます（案件の一括処理用）。	-
@案件一括データ出力	ワークフローの案件を投入するときや遷移させるときに添付する、伝票データを出力します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括遷移	ワークフローの案件の処理を終了して、遷移させます（案件の一括処理用）。	-
@案件一括属性値	案件のケースの属性値を設定・参照します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括ロール指定	案件を投入するときや遷移させるときに、配布先ロールを指定します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括コメント	案件を例外処理するとき、コメントを編集します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括複写先指定	案件を投入するときや遷移させるときに、複写先を指定します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括次ノード指定	案件を投入するときや遷移させるときに、遷移先（次ノードの処理ユーザ）を指定します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括次ノード選択	案件を遷移させるときに、遷移先を指定するダイアログボックスに表示するノード名を、選択します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括次ノードスキップ	案件を遷移させるときに、遷移先での処理をスキップします（案件の一括処理用）。	-
@案件一括差戻先指定	案件を差し戻すときに、差し戻し先を指定します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括振替先指定	案件を振り替えるときに、振り替え先を指定します（案件の一括処理用）。	-
@案件一括相談先指定	案件を相談先へ転送するとき、相談先を指定します（案件の一括処理用）。	-
@一括添付ファイル操作	案件のケースの添付ファイルを操作します（案件の一括処理用）。	-

（凡例）

- ：使用できます。
- ：条件付きで使用できます。
- ：使用できません。

注

解除以外の機能を対話形式だけで操作します。

(8) SQL 操作

SQL 操作に関する処理コマンドの使用について、表 4-20 に示します。

表 4-20 処理コマンドの使用 (SQL 操作)

コマンド名	内容	対応
@ SQL 接続	ODBC データベース (又は ORACLE データベース) に接続します。	
@ SQL 解除	@ SQL 接続で確立されたデータベースとの接続を解除します。	
@ SQL 実行	@ SQL 接続で接続されたデータベースに対して、SQL 文を実行します。	
@ SQL フェッチ	@ SQL 実行で実行した SELECT 文 (問い合わせ) の実行結果を 1 件ずつ受け取ります。	
@ SQL ロールバック	@ SQL 接続で接続されたデータベースに対する変更を取り消します (ロールバック)。	
@ SQL コミット	@ SQL 接続で接続されたデータベースに対する変更を確定します (コミット)。	
@ SQL プロシジャ	@ SQL 接続で接続されたデータベースに登録されている、プロシジャ (ストアドプロシジャ) を呼び出します。	-

(凡例)

: 使用できます。

- : 使用できません。

(9) 文書管理

文書管理に関する処理コマンドの使用について、表 4-21 に示します。

表 4-21 処理コマンドの使用 (文書管理)

コマンド名	内容	対応
@文書登録	実行中の伝票を Groupmax Document Manager に登録します。	
@業務文書登録	フォーム文書を登録します。	-
@業務文書更新	フォーム文書を更新します。	-
@業務文書添付ファイル	フォーム文書の添付ファイルを操作します。	-
@回答文書	応答文書用のフォームを呼び出します。	-
@業務文書入力	フォーム文書データを読み込みます。	-

(凡例)

: 条件付きで使用できます。

- : 使用できません。

注

XML ファイルでの登録だけができます。

4. Groupmax Form Client との相違

(10) Notes 文書

Notes 文書に関する処理コマンドの使用について、表 4-22 に示します。

表 4-22 処理コマンドの使用 (Notes 文書)

コマンド名	内容	対応
@ NOTES 文書登録	Notes 文書を登録します。	-
@ NOTES 文書更新	Notes 文書を更新します。	-
@ NOTES 添付ファイル	Notes 文書の添付ファイルを操作します。	-
@ NOTES 文書入力	Notes 文書データを読み込みます。	-

(凡例)

- : 使用できません。

(11) 変数

変数の使用について、表 4-23 に示します。

表 4-23 変数の使用

変数名	内容	対応
グローバル (¥Gnnn)	伝票間で有効な変数 nnn : 1 ~ 999	
ローカル (¥Lnnn)	伝票内で有効な変数 nnn : 1 ~ 999	
ファイル (¥FILEnn)	nn : 1 ~ 25	-
日付 (¥Dnn)	nn : 1 ~ 25	-

(凡例)

: 使用できます。

- : 使用できません。

(12) 関数

関数の使用について、表 4-24 に示します。

表 4-24 関数の使用

関数名	内容	対応
TIME	システムの時刻を取り出します。	
DATE	システムの日付を西暦で取り出します。	
NDATE	システムの日付を和暦で取り出します。	
CDATE	西暦の日付を和暦に変換します。 和暦の日付を西暦に変換します。	
DCNT	開始日付から終了日付までの通算日数を求めます。	
YCNT	開始日付から終了日付までの通算年数を求めます。	
TDATE	開始日付から終了日付までの通算年月日（年数、月数、日数）を求めます。	
DASK	基準日付に日数を足した日付、又は引いた日付を求めます。	
CHKD	日付を表すデータが日付として正しいかどうかをチェックして、結果を返します。	
ROOT	値の平方根を求めます。	-
SUM	特定の項目の合計値を求めます。	
DBCNT	データベースのレコード件数を求めます。	-
GRP	データベースの集団項目や合成項目に対する照合条件を指定するときに、各要素項目に対応する値を一つにまとめます。	-
STRLEN	項目や変数に設定されている文字列の長さを求めます。	
STRCAT	項目や変数に設定されている文字列に、指定した文字列を結合します。	
STRSTR	項目や変数に設定されている文字列の中に、指定した文字列があるかどうかを求めます。	
STRICPY	項目や変数に設定されている文字列の中から、指定した文字列を別の項目や変数にコピーします。	
STRTOUPP	指定した文字列の英小文字を英大文字に変換して、項目や変数に設定します。	
STRTOMBC	指定した文字列の半角文字を全角文字に変換して、項目や変数に設定します。	
GORGINF	Groupmax にログイン中のユーザの、所属組織や、上位組織の組織情報を求めます。	-
@ASP 関数呼出 'GfxSTRTOMBB'	指定した文字列の全角文字を半角文字に変換して、項目や変数に設定します。	
@ASP 関数呼出 'GfxDmGetgfdcmd'	一般文書の再利用又は改訂用に伝票が起動された場合の伝票の起動種別を取得します。	
@ASP 関数呼出 'GfxDmGetDocOid'	一般文書の改訂用に伝票が起動された場合に、改訂する文書の文書オブジェクト ID を取得します。	
@ASP 関数呼出 'GfxDmInput'	一般文書の再利用又は改訂用に伝票が起動された場合に、文書を伝票に入力します。	
@ASP 関数呼出 'GfxDmUpdate'	一般文書を更新登録します。	

4. Groupmax Form Client との相違

関数名	内容	対応
@ASP 関数呼出 'GfxDmDelete'	一般文書を削除します。	
@ASP 関数呼出 'GfxDmUnlock'	一般文書のロックを解除します。	
@ASP 関数呼出 'GfxGetStampGifFile'	指定した捺印項目の画像を Gif ファイルに出力します。	
@ASP 関数呼出 'GfxXMLInput'	@ASP 関数呼出 'GfxXMLOutput' で出力した XML ファイルを伝票に入力します。	
@ASP 関数呼出 'GfxXMLOutput'	伝票の項目のデータを XML ファイル (ファイルタイプ「.xml」) として WWW サーバ上のフォルダに出力します。	

(凡例)

- : 使用できます。
- : 使用できません。
- : Form for ASP だけ支援します。

(13) 予約語

予約語の使用について、表 4-25 に示します。

表 4-25 予約語の使用

予約語名	内容	対応
¥NIL	データが何も設定されていない状態 (空値) を表します。	
¥改行	改行コードを表します。	-
¥TAB	タブコードを表します。	-
¥実行 PATH	起動ディレクトリを表します。	-
¥入力件数	処理済みのレコードの件数を格納します。	
¥検索件数	加工したデータベースのレコードの件数を格納します。	-
¥PK	処理の実行中に PF キーが押されたときに、そのキーの番号を格納します。	-
¥年号	日付関数 (DATE, NDATE, CDATE, DASK) が実行されたときに、算出された日付に該当する年号を格納します。	
¥曜日	日付関数 (DATE, NDATE, CDATE, DASK) が実行されたときに、算出された日付に該当する曜日を格納します。	
¥使用中	データベースのレコードの使用状態を格納します。	-
¥明細行数	伝票発行処理で処理中の明細行の行番号を格納します。	
¥AUTO	@一括読込の実行状態を格納します。	-
¥GUSERID	Groupmax にログイン中のユーザのユーザ ID を格納します。	

予約語名	内容	対応
¥GUSERNAME	Groupmax にログイン中のユーザの日本語名称を格納します。	
¥GPASSWORD	Groupmax へのログイン時に入力したパスワードを格納します。	-
¥GNICKNAME	Groupmax にログイン中のユーザのニックネームを格納します。	
¥GUSERLASTNAME	Groupmax にログイン中のユーザの英語姓を格納します。	
¥GUSERFIRSTNAME	Groupmax にログイン中のユーザの英語名を格納します。	
¥GUSERPOST	Groupmax にログイン中のユーザの役職を格納します。	
¥GUSERORG	Groupmax にログイン中のユーザの所属組織 ID を格納します。	
¥GUSERCOMPANY	Groupmax にログイン中のユーザの所属会社（最上位組織 ID）を格納します。	-
¥SQLRTN	@ SQL 接続などを実行したときに、その実行状態を格納します。	
¥SQLSTAT	@ SQL 接続などを実行したときに、エラーが発生した場合、エラーの詳細コードを格納します。	
¥SQLERRMSG	@ SQL 接続などを実行したときに、エラーが発生した場合、エラーメッセージを格納します。	
¥SQLCODE	@ SQL 接続などを実行したときに、エラーが発生した場合、データソース固有のエラーコードを格納します。	
¥TIMING	伝票発行処理で項目への入力処理の実行状態を格納します。	-
¥BP 名	案件のビジネスプロセス名称を格納します。	
¥ ノード名	案件のノード名称を格納します。	
¥ 案件状態	案件の状態を格納します。	
¥ 優先度	案件の優先度を格納します。	
¥ 案件識別子	案件の案件識別子（ワーク ID）を格納します。	
¥ 案件タイトル	案件の案件タイトルを格納します。	
¥ 業務文書状態	フォーム文書の起動状態を格納します。	-
¥ 業務文書サーバ名	フォーム文書データベースのサーバ名を格納します。	-
¥ERRTN	処理コマンドの実行状態を格納します。	
¥ERMSG	処理コマンドを実行したときのエラーメッセージを格納します。	
¥ERCODE	コマンド実行時にエラーが発生した場合に、エラーの詳細コードを格納します。	

（凡例）

：使用できます。

-：使用できません。

(14) 定数

定数の使用について、表 4-26 に示します。

表 4-26 定数の使用

定数名	内容	対応
文字定数	任意の文字から成る文字列	
数値定数	数字(0~9), 符号(+, -), 及び小数点(.)から成る文字列	
ALL 定数	文字列の繰り返しを表します。	-

(凡例)

- : 使用できます。
- : 使用できません。

4.2.4 処理定義の詳細な相違について

処理定義に関する詳細な相違について説明します。処理コマンドの相違については、オンラインヘルプを参照してください。

(1) 処理全般

処理全般の相違について説明します。

(a) メッセージ

Groupmax Form Client では、伝票発行業務を実行しているとき、エラーメッセージや通知メッセージが表示されるため、処理定義の実行状況を知ることができます。

Groupmax Form for ASP では、エラーメッセージや通知メッセージが表示されません。また、処理定義でエラーが発生した場合、処理はそのまま続行されます。そのため、処理定義で ¥ERRTN や ¥ERMSG を使って、エラーが発生した場合の処理を作成してください。

(b) 後処理

Groupmax Form Client では、後処理を実行するには、データが入力されていなければなりません。

Groupmax Form for ASP では、データが入力されていなくても、後処理は実行されます。

(2) 処理の流れ

処理の流れの相違について説明します。

(a) 空白を含んだ文字列の判定

Groupmax Form Client では、データの後ろの空白は無視して判定されます。このため、「A」と「A」は一致します。ただし、「」（空文字列）と「」は不一致となります。

Groupmax Form for ASP では、データの後ろの空白も含めて判定されます。このため、「A」と「A」は一致しません。

(b) 項目の未入力の判定

Groupmax Form Client では「@判定開始 項目 =」及び「@判定開始 項目 =¥NIL」で判定できます。

Groupmax Form for ASP では、未入力項目を判定できません。

(3) データ操作

データ操作の相違について説明します。

(a) 項目の属性

Groupmax Form Client では、項目の属性（数値・文字）の組み合わせによって、代入文、演算文、及び条件文の規則が異なります。

Groupmax Form for ASP では、項目の属性（数値・文字）に関係なく、項目の内容によって、代入文、演算文、及び条件文の規則が異なります。

(b) 項目の桁数

Groupmax Form Client では、入力されたデータの長さが項目長に足りない場合、項目長まで空白が追加されます。

Groupmax Form for ASP では、入力されたデータの長さが項目長に足りなくても、空白は追加されません。

(c) スペースの表示

Groupmax Form Client では、データの最後の空白は無視されます。「A」と入力しても、表示上は「A」となります。

Groupmax Form for ASP では、「A」と入力すると、表示も「A」となります。

(d) 演算方法

Groupmax Form Client では、10進演算で演算します。

Groupmax Form for ASP では、浮動小数演算で演算します。Groupmax Form Client との演算方法の違いのため、演算誤差が発生する場合があります。

4. Groupmax Form Client との相違

(e) 文字列操作

Groupmax Form Client では、コンボボックスの文字列を操作できます。

Groupmax Form for ASP では、コンボボックスの文字列は操作できません。

(4) 案件処理

案件処理の相違について説明します。

(a) 伝票終了時の案件遷移

Groupmax Form Client では、伝票を終了すると自動的に案件が遷移します。

Groupmax Form for ASP では、伝票を終了しても自動的に案件は遷移しません。

(5) SQL 操作

SQL 操作の相違について説明します。

(a) 接続情報

Groupmax Form Client では、@ SQL 接続でデータソース名、ユーザ ID、及びパスワードを省略すると、マネージャウィンドウで設定した値が使用されます。

Groupmax Form for ASP では、マネージャウィンドウで設定できないため、@ SQL 接続でデータソース名、ユーザ ID、及びパスワードを必ず指定してください。

(b) トランザクション

Groupmax Form for ASP では、WWW サーバ上の ADO を経由してデータベースにアクセスします。アクセス中にクライアントと ADO との接続が切れると、すべてのトランザクションはロールバックされ、データベースとの接続が解除されます。このため、Groupmax Form Client と Groupmax Form for ASP では、次に示すような相違が生じます。

データベース接続中での伝票の終了

Groupmax Form Client では、データベースに接続したまま伝票を終了すると、トランザクションがすべてコミットされてから、データベースへの接続が解除されます。Groupmax Form for ASP では、トランザクションがすべてロールバックされてから、データベースへの接続が解除されます。

処理定義の作成

Groupmax Form Client では、開始処理や前処理でデータベースに接続して、伝票終了時にトランザクションをコミットして接続を終了できます。

Groupmax Form for ASP では、セッションタイムアウトが発生してデータベースへの接続が切れることがあるため、「接続、更新、コミット、接続解除」などのコマンドをまとめて記述してトランザクションを短くしてください。

なお、セッションタイムアウトが発生すると、セッションオブジェクトはすべて破棄

されます。セッションオブジェクトが破棄されると、ADO との接続も破棄されるため、それ以降の ADO と通信する SQL コマンドはほかの ASP 処理と同様にエラーになります。

(c) NULL 値の扱い

Groupmax FormClient では、データベースから null を検索すると格納先の項目や変数に、スペース（文字属性の場合）又は 0（数値属性の場合）が設定されます。

Groupmax Form for ASP では、属性に関係なく常に ""（空文字列）が設定されます。

(d) SQL 文の構成要素

Groupmax Form Client では、一つの SQL 文中に指定できるバインド指定（項目名や変数名の前に「:」を付けたもの）や INTO 句の数の制限があります。

Groupmax Form for ASP では、一つの SQL 文中に指定できるバインド指定や INTO 句の数の制限はありません。

(e) 入力件数が 0 件の場合のレコードの追加

Groupmax Form Client では、入力件数が 0 件の場合、レコードは追加されません。

Groupmax Form for ASP では、入力件数が 0 件の場合でも、レコードは追加されます。

(例)

次に示す処理定義を実行したとします。

```
@ SQL 実行 ODBC1, @ C
```

```
    'INSERT INTO テーブル名 (DB 項目 1,DB 項目 2)' @ C
```

```
    'VALUES (:明細項目 1, "AAA")'
```

Groupmax Form Client では、1 件も追加されません。

Groupmax Form for ASP では、DB 項目 1 に null を、DB 項目 2 に 'AAA' を設定してレコードが追加されます。

(f) 検索結果の代入

検索結果の代入に関する相違について説明します。

不正なデータの代入

Groupmax Form Client では、数値項目に対して桁数が上回るデータは、代入されません。

Groupmax Form for ASP では、桁数が上回るデータも代入されます。

(g) SQL 文の解析結果

@ SQL 実行を実行したとき、SQL 文中の INTO 句の解析結果が Groupmax Form Client と Groupmax Form for ASP では異なります。

INTO 句に結果の格納先を複数記述した場合の区切り文字

4. Groupmax Form Client との相違

Groupmax Form Client では「,」だけでなく「:」も区切り文字として扱われます。Groupmax Form for ASP では「:」は区切り文字として扱われないため、複数の格納先を記述する場合は「,」で区切ってください。

(h) ORACLE データベースに付属されている ODBC ドライバの使用

Groupmax Form for ASP で ORACLE データベースを使う場合、ORACLE に付属されている ODBC ドライバでは、文字型の項目を条件に指定した検索ができないことがあります。これは、検索条件に指定した内容が、次に示す条件をすべて満たしている場合に発生します。

- 検索条件に指定するデータベース側の項目の属性が CHAR 型（固定長文字列）である
- 検索値がデータベース側の項目の定義長より短い
- 検索値をバインド指定（:項目名, :変数名）で指定している

この場合の対策を次に示します。

- 検索値を置換指定（::項目名, ::変数名）にする

```
@ SQL 実行 ODBC1,'SELECT DB 項目 2 FROM TBL ' @ C
      'WHERE DB 項目 1=: 伝票項目 1 ' @ C
      'INTO : 伝票項目 2'
```

- ORACLE のテーブルの項目属性を CHAR から VARCHAR に変更する
- 常に検索条件に指定する値を定義長と同じにする
- 検索条件に like を使う

次に示すように、SQL 文を実行する前に条件となる文字列に % を追加して非表示項目に代入しておき、それを like の検索値に指定します。

```
@代入 伝票非表示項目 1 = 伝票項目 1&&('%'
@ SQL 実行 ODBC1,'SELECT DB 項目 2 FROM TBL ' @ C
      'WHERE DB 項目 1 LIKE : 伝票非表示項目 1 ' @ C
      'INTO: 伝票項目 2'
```

(i) Microsoft SQL Server の数値型項目に対する指定

Groupmax Form for ASP で Microsoft SQL Server を使う場合、Microsoft SQL Server の数値型項目に対してデータをバインド指定（:項目名, :変数名）した SQL 文を実行するとエラーになることがあります。これは、次に示す条件をすべて満たしている場合に発生します。

- 検索条件や追加・更新する値をバインド指定している
- バインド指定の対象となるデータベース側の項目の属性が数値型（INT, SMALLINT, DEC, FLOAT, SMALLFLT）である

この場合には、CONVERT を使ってデータベースの型に変換するような SQL 文に変更します。例を次に示します。

(例 1)

テーブル TBL の INT 型の項目 DB_A と FLOAT 型の項目 DB_B に、伝票上の項目 F_A と F_B の値を追加します。

対策前：

```
@ SQL 実行 ODBC3,'INSERT INTO TBL ( DB_A,DB_B)' @ C
      'VALUES (:F_A,:F_B)'
```

対策後：

```
@ SQL 実行 ODBC3,'INSERT INTO TBL ( DB_A,DB_B)' @ C
      'VALUES ( CONVERT ( INT,:F_A ),' @ C
      'CONVERT ( FLOAT,:F_B))'
```

(例2)

テーブル TBL の INT 型の項目 DB_A の値が伝票上の項目 F_A の値と一致するレコードを検索します。

対策前：

```
@ SQL 実行 ODBC3,'SELECT DB_A,DB_B FROM TBL' @ C
      'WHERE DB_A=:F_A INTO :F_A,:F_B'
```

対策後：

```
@ SQL 実行 ODBC3,'SELECT DB_A,DB_B FROM TBL' @ C
      'WHERE DB_A=CONVERT ( INT,:F_A )' @ C
      ' INTO:F_A,:F_B'
```


5

関数及びセッション変数の文法

この章では、スクリプトを直接記述するときに使用できる、Groupmax Form for ASP で提供している関数及びセッション変数について説明します。

関数及びセッション変数の一覧

GFormItemValue 関数

GFormItemValue 関数

GFormAppendDocFile 関数

GFormCancelDocFile 関数

GFormGetDocFileCount 関数

GFormGetDocFileName 関数

GFormGetDocFilePath 関数

GFormItemInf 関数

GFormItemRows 関数

GFormChangePasswordDmh 関数

GfExchgOutput 関数

GfExchgSetInf 関数

GfGetSlipName

GfGetSlipTitle

5. 関数及びセッション変数の文法

GFormWFEndProc 関数

Session("_GFormREFERER") セッション変数

Session("_GFormCaseOID") セッション変数

Session("_GfTemplatePath") セッション変数

Session("_GfDmUserDir") セッション変数

Session("_GfDmServer") セッション変数

Session("_GfcLabel") セッション変数

GFormRedirect 関数

GFormGroupEnd 関数

関数及びセッション変数の一覧

WWW サーバで実行させる VBScript や WWW ブラウザで実行させる JavaScript を、Groupmax Form Client の処理定義ウィンドウで、直接記述できます。スクリプトを直接記述するときには使用できる、Groupmax Form for ASP で提供している関数及びセッション変数について説明します。Groupmax Form for ASP で提供している関数及びセッション変数の一覧を、表 5-1 から表 5-3 に示します。

なお、構文にサーバサイドインクルード文の記述がある関数を使用する場合、INCLUDE ASP 注釈でスクリプトファイルをインクルードしてください。INCLUDE ASP 注釈については、「2.3.3(5) スクリプトファイルのインクルード」(VBScript の場合)を参照してください。

表 5-1 VBScript を直接記述するときには使用できる関数

名称	内容
GFormItemValue	項目及び変数の値を取得します。
GFormItemValue	項目及び変数に値を設定します。
GFormAppendDocFile	WWW サーバ上の任意のファイルを案件の添付ファイルに追加します。
GFormCancelDocFile	案件のファイル添付を取り消します。
GFormGetDocFileCount	案件の添付ファイル数を取得します。
GFormGetDocFileName	案件の添付ファイル名称を取得します。
GFormGetDocFilePath	案件の添付ファイルの WWW サーバ上のフルパス名称を取得します。
GFormItemInf	実行中の伝票の項目数、項目名、項目種別を取得します。
GFormItemRows	実行中の伝票の明細項目の定義行数、入力行数を取得します。
GFormChangePasswordDmh	電子印のパスワードを変更します。
GfExchgOutput	伝票項目のデータ及び案件情報を Exchange のメッセージとして Exchange のメールボックスのフォルダに作成します。
GfExchgSetInf	GfExchgOutput 関数の実行環境を設定します。
GfGetSlipName	実行中の伝票の伝票名を取得します。
GfGetSlipTitle	実行中の伝票のファイルタイトルを取得します。
GFormWFEndProc	業務共通部から伝票の終了処理を実行します。
GFormRedirect	実行中の伝票からほかの伝票を呼び出します。
GFormGroupEnd	複数伝票すべてを終了します。

5. 関数及びセッション変数の文法

表 5-2 JavaScript を直接記述するときを使用できる関数

名称	内容
GFormItemValue	項目及び変数の値を取得します。
GFormItemValue	項目及び変数に値を設定します。

表 5-3 VBScript を直接記述するときを使用できるセッション変数

名称	内容
Session("_GFormREFERER")	伝票終了時の戻り先 URL を設定します。
Session("_GFormCaseOID")	処理中の案件の案件オブジェクト ID を取得します。
Session("_GfTemplatePath")	Groupmax Workflow-Development Kit for ASP のテンプレートページの仮想ディレクトリパスを設定します。
Session("_GfDmUserDir")	Groupmax Document Manager が使用する作業ディレクトリを設定します。
Session("_GfDmServer")	文書管理サーバのホスト名又は IP アドレスを設定します。
Session("_GfcLabel")	案件の処理画面，添付ファイル操作画面をカスタマイズするための Dictionary オブジェクトを設定します。

以降，それぞれの関数及びセッション変数の詳細を示します。

GFormItemValue 関数

項目及び変数の値を取得します。

対象：VBScript の直接記述，JavaScript の直接記述

構文

```
return GFormItemValue(sName, sRows)
```

指定項目

GFormItemValue 関数の構文の指定項目を，次に示します。

指定項目	内容
return	項目又は変数の値を返します。
sName	VBScript の場合，ASP 変換前の項目名又は変数名を指定します。JavaScript の場合，ASP 変換後の項目名又は ASP 変換前の変数名を指定します。
sRows	明細項目の値を取得する場合，取得する行の行番号を指定します。行番号は，1 から始まる通し番号を文字列で指定します。明細項目以外の値を取得する場合，""（空文字列）を指定します。

解説

GFormItemValue 関数を使うと，項目又は変数の値を取得できます。sName 及び sRows で指定した項目又は変数が存在しない場合，GFormItemValue 関数は ""（空文字列）を返します。

JavaScript の場合，sName には，ASP 変換後の項目名又は ASP 変換前の変数名を指定します。ASP 変換後の項目名は，GETITEMNAME ASP 注釈で取得して，指定してください。

変数名は，次に示すように指定してください。

- ローカル変数の ¥LXXX の XXX は，0 を補って必ず 3 桁で指定する
- JavaScript の場合，「¥」1 文字を表すのに「¥¥」と記述する必要があるため，JavaScript 中で変数名を指定するときは，先頭に「¥」を追加する（例：¥¥ 入力件数）

GFormSetItemValue 関数

項目及び変数に値を設定します。

対象：VBScript の直接記述，JavaScript の直接記述

構文

GFormSetItemValue(sName, varValue, sRows)

指定項目

GFormSetItemValue 関数の構文の指定項目を，次に示します。

指定項目	内容
sName	VBScript の場合，ASP 変換前の項目名又は変数名を指定します。JavaScript の場合，ASP 変換後の項目名又は ASP 変換前の変数名を指定します。
varValue	項目又は変数に設定する値を指定します。
sRows	明細項目に値を設定する場合，設定する行の行番号を指定します。行番号は，1 から始まる通し番号を文字列で指定します。明細項目以外に値を設定する場合，""（空文字列）を指定します。

解説

GFormSetItemValue 関数を使うと，項目又は変数に値を設定できます。システム変数（¥ERRTN，¥ERCODE，¥ERMSG）にも値を設定できます。¥ERRTN，¥ERCODE，¥ERMSG 以外のシステム変数には，値を設定できません。

JavaScript の場合，sName には，ASP 変換後の項目名又は ASP 変換前の変数名を指定します。ASP 変換後の項目名は，GETITEMNAME ASP 注釈で取得して，指定してください。

変数名は，次に示すように指定してください。

- ローカル変数の ¥LXXX の XXX は，0 を補って必ず 3 桁で指定する
- JavaScript の場合，「¥」1 文字を表すのに「¥¥」と記述する必要があるため，JavaScript 中で変数名を指定するときは，先頭に「¥」を追加する（例：¥¥L001）

GFormAppendDocFile 関数

指定された WWW サーバ上の任意のファイルを，案件のケースの添付ファイルに追加します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
<!-- #include virtual="/FormASPInclude/FAUSVCom.inc" -->
```

```
return GFormAppendDocFile(sCaseName, sFullPath, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GFormAppendDocFile 関数の構文の指定項目を，次に示します。

指定項目	内容
return	処理結果を返します。 True：正常に終了しました。 False：処理中にエラーが発生しました。
sCaseName	ファイルを添付する案件のケースの名称を文字列で指定します。
sFullPath	添付する WWW サーバ上のファイルのフルパスを文字列で指定します。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GFormAppendDocFile 関数を使うと，sCaseName で指定した案件のケースに，sFullPath で指定した WWW サーバ上のファイルを添付できます。

GFormAppendDocFile 関数でファイルを添付した後，遷移案件をキャンセルした場合，ファイルの添付は取り消されます。

GFormAppendDocFile 関数を呼び出した後で，sFullPath で指定したファイルの内容を変更した場合，GFormAppendDocFile 関数を再び呼び出して，その変更を反映してください。

sFullPath で指定したファイルのファイル名が，@添付ファイル操作で処理したファイル名又は GFormAppendDocFile 関数で指定されたファイル名と同じ場合，後から指定したファイルだけが添付されます。

GFormAppendDocFile 関数を使って添付されたファイルは，@添付ファイル操作の操作画面に表示されます。このため，操作画面で削除やダウンロードの操作対象になります。

GFormAppendDocFile 関数を使用する場合，Session("Wf") セッション変数に，

5. 関数及びセッション変数の文法

Groupmax にログイン済みの Groupmax Workflow オブジェクトを設定しておく必要があります。

処理中にエラーが発生すると、GFormAppendDocFile 関数は sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、False を返します。

GFormCancelDocFile 関数

案件のケースの指定されたファイルの添付を取り消します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
<!-- #include virtual="/FormASPInclude/FAUSVCom.inc" -->
return GFormCancelDocFile(sCaseName, sFileName, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GFormCancelDocFile 関数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
return	処理結果を返します。 True：正常に終了しました。 False：処理中にエラーが発生しました。
sCaseName	ファイルの添付を取り消す案件のケースの名称を文字列で指定します。
sFileName	添付を取り消すファイルのファイル名を文字列で指定します。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GFormCancelDocFile 関数を使うと、sCaseName で指定した案件のケースに添付されている、sFileName で指定したファイルの添付を取り消せます。

GFormCancelDocFile 関数でファイルの添付を取り消した後、遷移案件をキャンセルした場合、添付ファイルの状態は案件の処理を開始する前の状態に戻ります。

GFormCancelDocFile 関数の処理対象は、sCaseName で指定した案件のケースに添付されているすべてのファイルです。このため、@添付ファイル操作の操作画面で追加・更新したファイルの添付を取り消すこともできます。

GFormCancelDocFile 関数を使用する場合、Session("Wf") セッション変数に、Groupmax にログイン済みの Groupmax Workflow オブジェクトを設定しておく必要があります。

処理中にエラーが発生すると、GFormCancelDocFile 関数は sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、False を返します。

GFormGetDocFileCount 関数

指定された案件のケースに添付されているファイルの数を取得します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
<!-- #include virtual="//FormASPIInclude/FAUSVCom.inc" -->
return GFormGetDocFileCount(sCaseName, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GFormGetDocFileCount 関数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
return	添付ファイルの数を返します。
sCaseName	添付ファイルの数を取得する案件のケースの名称を文字列で指定します。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GFormGetDocFileCount 関数を使うと、sCaseName で指定した案件のケースに添付されているファイルの数を取得できます。

GFormGetDocFileCount 関数の処理対象は、sCaseName で指定したケースに添付されているすべてのファイルです。

GFormGetDocFileCount 関数を使用する場合、Session("Wf") セッション変数に、Groupmax にログイン済みの Groupmax Workflow オブジェクトを設定しておく必要があります。

処理中にエラーが発生すると、GFormGetDocFileCount 関数は sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、-1 を返します。

GFormGetDocFileName 関数

指定された案件のケースに添付されているファイルのファイル名を取得します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
<!-- #include virtual="/FormASPInclude/FAUSVCom.inc" -->
return GFormGetDocFileName(sCaseName, sNumber, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GFormGetDocFileName 関数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
return	添付ファイルのファイル名を返します。
sCaseName	添付ファイルのファイル名を取得する案件のケースの名称を文字列で指定します。
sNumber	添付ファイルの登録番号を 1 以上の整数で指定します。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GFormGetDocFileName 関数を使うと、sCaseName で指定した案件のケースに添付されているファイルのファイル名を順次取得できます。

GFormGetDocFileName 関数の処理対象は、sCaseName で指定したケースに添付されているすべてのファイルです。

GFormGetDocFileName 関数を使用する場合、Session("Wf") セッション変数に、Groupmax にログイン済みの Groupmax Workflow オブジェクトを設定しておく必要があります。

処理中にエラーが発生すると、GFormGetDocFileName 関数は sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、"" (空文字列) を返します。

GFormGetDocFilePath 関数

指定された案件のケースに添付されているファイルの WWW サーバ上のフルパス名を取得します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
<!-- #include virtual="/FormASPIInclude/FAUSVCom.inc" -->
return GFormGetDocFilePath(sCaseName, sNumber, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GFormGetDocFilePath 関数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
return	添付ファイルの WWW サーバ上のフルパスを返します。
sCaseName	添付ファイルのフルパスを取得する案件のケースの名称を文字列で指定します。
sNumber	添付ファイルの登録番号を 1 以上の整数で指定します。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GFormGetDocFilePath 関数を使うと、sCaseName で指定した案件のケースに添付されているファイルの、WWW サーバ上のフルパス名を順次取得できます。

取得したフルパス名と VBScript の FileSystem オブジェクトなどを使って、案件の添付ファイルを WWW サーバ上の任意のフォルダにコピーできます。ただし、ファイル名を変更したり、ファイルを削除したりすることはできません。

GFormGetDocFilePath 関数の処理対象は、sCaseName で指定したケースに添付されているすべてのファイルです。

GFormGetDocFilePath 関数を使用する場合、Session("Wf") セッション変数に、Groupmax にログイン済みの Groupmax Workflow オブジェクトを設定しておく必要があります。

処理中にエラーが発生すると、GFormGetDocFilePath 関数は sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、"" (空文字列) を返します。

GFormItemInf 関数

項目の定義情報一覧（項目数，項目名，項目種別）を取得します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
<!-- #include virtual="/FormASPInclude/FaItmInf.inc" -->
```

```
return GFormItemInf(sReserved, aryName, aryType, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GFormItemInf 関数の構文の指定項目を，次に示します。

指定項目	内容
return	項目数を整数で返します。
sReserved	予約引数です。必ず 0 を指定してください。
aryName	項目名の一覧が文字列の配列で設定されます。
aryType	項目種別コードの一覧が整数の配列で設定されます。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GFormItemInf 関数を使うと，伝票中の項目，グローバル変数，ローカル変数の項目名を aryName に，項目種別を aryType に取得できます。また，項目数（取得した情報の数）を return に取得できます。

aryType には，次の種別コードが設定されます。

項目種別	種別コード
明細	1
見出し	2
チェックボックス	3
ラジオボタン	4
メモ	5
捺印	6
プッシュボタン	7
ローカル変数	10
グローバル変数	11

5. 関数及びセッション変数の文法

処理中にエラーが発生すると、GFormGetItemInf 関数は sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、-1 を返します。

GFormItemRows 関数

明細項目の定義行数，入力行数を取得します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
<!-- #include virtual="/FormASPInclude/FaItmInf.inc" -->
```

```
return GFormItemRows(sName, nRowCnt, nInputCnt, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GFormItemRows 関数の構文の指定項目を，次に示します。

指定項目	内容
return	処理結果を返します。 True：正常に終了しました。 False：処理中にエラーが発生しました。
sName	項目名を文字列で指定します。
nRowCnt	sName で指定された明細項目の定義行数が整数で設定されます。
nInputCnt	sName で指定された明細項目の入力行数が整数で設定されます。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GFormItemRows 関数を使うと，sName で指定した明細項目の定義行数を nRowCnt に，入力行数を nInputCnt に取得できます。

処理中にエラーが発生すると，GFormItemRows 関数は sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し，False を返します。

GFormChangePasswordDmh 関数

電子印ファイル中の電子印のパスワードを変更します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
<!-- #include virtual="//FormASPIInclude/FaChgDmh.inc" -->
```

```
return GFormChangePasswordDmh(sUserID, sOldPassword, sNewPassword,  
sFileName, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GFormChangePasswordDmh 関数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
return	処理結果を返します。 True：正常に終了しました。 False：処理中にエラーが発生しました。
sUserID	パスワードを変更する電子印のユーザ ID を文字列で指定します。
sOldPassword	電子印の変更前のパスワードを文字列で指定します。
sNewPassword	電子印の変更後のパスワードを文字列で指定します。
sFileName	電子印ファイルのパス名を文字列で指定します。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GFormChangePasswordDmh 関数を使うと、sFileName で指定した電子印ファイル中の電子印のパスワードを変更できます。

sFileName に Null を指定した場合、GFormChangePasswordDmh 関数は、組み込みディレクトリに格納されている、固定の電子印ファイル (stamp.dmh) に定義された電子印のパスワードを変更します。通常は、sFileName に Null を指定してください。

GFormChangePasswordDmh 関数は、sUserID で指定したユーザ ID に対応する電子印の、sOldPassword で指定したパスワードを、sNewPassword で指定したパスワードに変更します。変更後のパスワードとして sNewPassword に指定できる文字は、半角英数字 (0 ~ 9, a ~ z, -) です。

処理中にエラーが発生すると、GFormChangePasswordDmh 関数は、sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、False を返します。

GfExchgOutput 関数

伝票のデータ及び案件情報を、Exchange ユーザのメールボックスへメッセージとして出力します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
return GfExchgOutput(sSubject, sMessage, aryCategories, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GfExchgOutput 関数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
return	出力したメッセージのメッセージ ID を文字列で返します。異常終了した場合、"" (空文字列) を返します。
sSubject	出力するメッセージの件名を文字列で指定します。Null を指定した場合、伝票のタイトルが仮定されます。
sMessage	出力するメッセージの本文を文字列で指定します。Null を指定した場合、"" (空文字列) が仮定されます。
aryCategories	Outlook などを使用する分類項目を、文字列の配列で指定します。Null を指定した場合、分類項目は作成されません。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GfExchgOutput 関数を使うと、伝票項目のデータ、案件の添付ファイル及び案件情報を、Exchange メッセージとして Exchange のメールボックスの中のフォルダに作成できます。

GfExchgOutput 関数で作成したメッセージは、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP の送信ログコントロールを使用して作成された、送信ログのページを経由して表示できます。Groupmax Workflow - Development Kit for ASP の送信ログコントロールについては、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP とともにインストールされる HTML マニュアルを参照してください。

GfExchgOutput 関数を使用するには、Exchange 環境の設定が必要です。Exchange 環境の設定については、「2.7.4 Exchange と連携するための環境設定」を参照してください。

Exchange サーバ名、エイリアス名などの Exchange 出力の動作環境は、GfExchgSetInf

5. 関数及びセッション変数の文法

関数で設定します。

オプションの指定

GfExchgOutput 関数を使用するには、伝票の共通処理に、次の Exchange 連携オプション ASP 注釈を記述してください。

(* ASP OPTION EXCHANGE=1

案件添付ファイルの操作

Exchange メッセージへの添付ファイルの追加と削除は、@添付ファイル操作、又は案件添付ファイル操作関数（スクリプトの直接記述）で実行します。添付ファイルの追加と削除は、案件の処理中にだけ実行できます。

案件情報の出力

案件処理（@案件投入又は@案件遷移）の後に GfExchgOutput 関数を実行すると、自動的に案件情報も Exchange メッセージの中に作成されます。案件情報は、直前に正常終了した案件処理（@案件投入又は@案件遷移）の情報から作成されます。

Exchange メッセージに案件情報が作成されていると、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP の送信ログコントロールを使用して作成された送信ログのページを経由して、案件控えを参照できます。案件控えの表示には、GfExchgOutput 関数を実行した伝票と同じ ASP 伝票が使われます。案件控えを表示するために伝票が起動された場合、自動的に Exchange メッセージが読み込まれ、伝票中の項目に項目値が設定されて、案件控えが表示されます。このとき、次に示す処理は実行されません。

- Groupmax Form Client の処理コマンドで記述したすべての処理定義（項目処理、開始処理、前処理など）
- 次に示す ASP 注釈に直接記述したスクリプトの処理
VBONREQUEST, VBONRESPONSE, JAVAONLOAD, JAVAONUNLOAD

Exchange メッセージの作成方法

GfExchgOutput 関数を実行すると、伝票の項目名と同じ名称のフィールドが Exchange メッセージの中に作成されます。伝票項目に格納されているデータは、Exchange メッセージの中に作成された、項目名と同じ名称のフィールドに出力されます。ローカル変数などの変数と同じ名称のフィールドは作成されないため、ローカル変数などのデータは Exchange メッセージの中には出力されません。フィールドを作成するときの規則を次に示します。

伝票項目の種別	伝票項目の状態	フィールドの型	フィールドの内容
見出し、メモ	-	文字列型	入力文字列
明細	入力行数 が 1 以上	文字列型で入力行数分の配列	入力文字列
	入力行数 が 0	文字列型	"" (空文字列)
チェックボックス	オン	文字列型	"1" (文字列)
	オフ	文字列型	"0" (文字列)
ラジオボタン	-	文字列型	選択状態のエントリの 1 から始まる番号 (文字列)
捺印	捺印	バイナリ型 (65)	Gif 形式のデータ
	未捺印	文字列型	"" (空文字列)

(凡例)

- : 該当しないことを示します。

注

複数明細の場合、明細ごとに入力行数が異なる場合があります。

添付ファイルは、CdoFileData 型の添付ファイルとしてメッセージに添付されます。

項目名の制限

GfExchgOutput 関数を実行する伝票の中の項目名には、Exchange が分類データ名として使用している "Keywords" は使用できません。使用すると分類データが不正になります。

GfExchgSetInf 関数

GfExchgOutput 関数の実行環境を設定します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
return GfExchgSetInf(sServer, sAlias, sFolder, sReserved, sMsgClass, sSentLogType,
aryItems, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

GfExchgSetInf 関数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
return	処理結果を返します。 True：正常に終了しました。 False：処理中にエラーが発生しました。
sServer	Exchange サーバ名を文字列で指定します。Null を指定した場合、次の優先順位（1 が最も高く、3 が最も低い）で仮定値が決まります。 1：伝票起動時の gwfeserver 引数の値 2：Application("GWFESERVER") アプリケーション変数の値 3：WWW サーバ名 ("SERVER_NAME" サーバ環境変数の値)
sAlias	Exchange ユーザのエイリアス名を文字列で指定します。Null を指定した場合、次の優先順位（1 が最も高く、3 が最も低い）で仮定値が決まります。 1：伝票起動時の gwfealias 引数の値 2：Session("GWFEALIAS") セッション変数の値 3：WWW サーバ基本認証のユーザ名 ("LOGON_USER" サーバ環境変数の値)
sFolder	メッセージを出力するメールボックス中のフォルダ名を文字列で指定します。Null を指定した場合、次の優先順位（1 が最も高く、3 が最も低い）で仮定値が決まります。 1：伝票起動時の gwfepathsentlog 引数の値 2：Application("GWFEPATHSENTLOG") アプリケーション変数の値 3："SENTLOG"（文字列） フォルダ名は、1～256文字（半角の場合）の範囲で、半角空白文字以外の文字を1文字以上指定してください。 指定したフォルダがメールボックスの中にない場合は、新しくフォルダが作成されます。
sReserved	予約引数です。必ず Null を指定してください。
sMsgClass	メッセージクラスを文字列で指定します。Null を指定した場合、"IPM.Post" が仮定されます。メッセージクラスの詳細については、Outlook のオンラインヘルプを参照してください。
sSentLogType	案件履歴情報の出力方法を指定します。ビジネスプロセス名、ノード名、案件識別子、及びビジネスプロセス定義種別が、過去に出力した案件履歴情報と同じ場合に、過去に出力した内容を更新する場合は "0" を、新しく別に作成する場合は "1" を指定します。Null を指定した場合、"0" が仮定されます。

指定項目	内容
aryItems	出力する項目を限定する場合に、出力する項目名を文字列の配列で指定します。Null を指定した場合、伝票中のすべての項目が出力されます。"" (空文字列) を指定した場合、項目は出力されません。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GfExchgSetInf 関数を使うと、GfExchgOutput 関数の実行環境を設定できます。

GfExchgOutput 関数の実行環境の初期状態は、すべての引数に Null を指定して GfExchgSetInf 関数を実行した場合と同じです。この環境のまま GfExchgOutput 関数を実行する場合、GfExchgSetInf 関数を実行する必要はありません。

GfExchgSetInf 関数を使用するには、Exchange 環境の設定が必要です。Exchange 環境の設定については、「2.7.4 Exchange と連携するための環境設定」を参照してください。

オプションの指定

GfExchgSetInf 関数を使用するには、伝票の共通処理に、次の Exchange 連携オプション ASP 注釈を記述してください。

(* ASP OPTION EXCHANGE=1

GfGetSlipName

実行中の伝票の伝票名を取得します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
return GfGetSlipName(sReserved, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

指定項目	内容
return	伝票名を文字列で返します。
sReserved	この引数は予約引数です。必ず "0" を指定してください。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GfGetSlipName 関数は、実行中の伝票の伝票名を返します。

処理中にエラーが発生すると GfGetSlipName 関数は、sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、空文字 ("") を返します。

GfGetSlipTitle

実行中の伝票のファイルタイトルを取得します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
return GfGetSlipTitle(sReserved, sErrCode, sErrMsg)
```

指定項目

指定項目	内容
return	ファイルタイトルを文字列で返します。
sReserved	この引数は予約引数です。必ず "0" を指定してください。
sErrCode	エラー発生時にエラー詳細コードが設定されます。
sErrMsg	エラー発生時にエラーメッセージが設定されます。

解説

GfGetSlipTitle 関数は、実行中の伝票のファイルタイトルを返します。伝票にファイルタイトルが設定されていない場合は、伝票名を返します。

処理中にエラーが発生すると GfGetSlipTitle 関数は、sErrCode 及び sErrMsg にエラー詳細情報を設定し、空文字 ("") を返します。

GFormWFEndProc 関数

業務共通部から伝票の終了処理を実行します。

対象：業務共通部の VBScript 記述

構文

```
<!-- #include virtual="//FormASPIInclude/FACom.inc" -->
```

```
GFormWFEndProc
```

解説

GFormWFEndProc 関数を使うと、業務共通部から ASP 伝票の終了処理を実行できます。業務共通部の操作で ASP 伝票を切り替える場合に使用します。GFormWFEndProc を実行すると ASP 伝票実行時に作成した一時ファイルの削除と確保したメモリの開放を行います。ASP 伝票の @ 処理終了を実行させないで業務共通部から ASP 伝票を切り替える場合は、必ず次の ASP 伝票に切り替える前に GFormWFEndProc を使って一つ前の ASP 伝票で作成した一時ファイルの削除と確保したメモリの開放を行わなければなりません。

GFormWFEndProc 関数を実行しても伝票の後処理、最終処理は実行されません。

案件処理を実行する伝票を終了させる場合は、Session("Wf") セッション変数に、Groupmax にログイン済みの Groupmax Workflow オブジェクト (HITACHI.Workflow.1) を設定した状態としておかなければなりません。

伝票処理中で GFormWFEndProc 関数は実行できません。

Session("_GFormREFERER") セッション変数

伝票終了時の戻り先 URL を設定します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
Session("_GFormREFERER") = URL
```

指定項目

Session("_GFormREFERER") セッション変数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
URL	戻り先の URL を指定します。

解説

Session("_GFormREFERER") セッション変数を使うと、伝票終了時の戻り先 URL を設定できます。この変数に戻り先 URL を設定しなかった場合、@処理終了を実行すると、伝票のリンク元の URL に戻ります。

ASP 伝票へリンクするときに returnobj 引数で戻り先 URL を指定した場合は、指定した戻り先 URL が Session("_GFormREFERER") セッション変数に設定されます。

Session("_GFormCaseOID") セッション変数

処理中の案件の案件オブジェクト ID を取得します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
CaseOID = Session("_GFormCaseOID")
```

指定項目

Session("_GFormCaseOID") セッション変数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
CaseOID	処理中の案件の案件オブジェクト ID を返します。

解説

Session("_GFormCaseOID") セッション変数を使うと、処理中の案件の案件オブジェクト ID を取得できます。取得した案件オブジェクト ID を戻り先 URL の ASP ファイルに引き継いで、伝票処理の後処理を実行する場合に、この変数を使います。

ASP 伝票へリンクするときに wflcaseid 引数で案件オブジェクト ID を指定した場合、指定した値が Session("_GFormCaseOID") セッション変数に設定されます。wflcaseid 引数を指定しなかった場合、Session("_GFormCaseOID") セッション変数には "" (空文字列) が設定されます。

伝票の項目処理で取得した案件オブジェクト ID を使用して、Groupmax Workflow for ASP のコンポーネントで案件を直接操作しないでください。操作した場合、案件が正常に処理されないことがあります。

Session("_GfTemplatePath") セッション変数

Groupmax Workflow - Development Kit for ASP のテンプレートページを使用する処理コマンドの実行に必要な、テンプレートページの仮想ディレクトリパスを設定します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
Session("_GfTemplatePath") = URL
```

指定項目

Session("_GfTemplatePath") セッション変数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
URL	テンプレートページの仮想ディレクトリパスを指定します。

解説

Session("_GfTemplatePath") セッション変数を使うと、Groupmax Workflow - Development Kit for ASP のテンプレートページの仮想ディレクトリパスを設定できません。テンプレートページは、@案件投入や@案件遷移のシステム宛先などで使われます。

Session("_GfTemplatePath") セッション変数は、ASP 伝票を起動する前に設定してください。テンプレートページの仮想ディレクトリパスを設定しなかった場合、実行中の ASP 伝票が格納されているフォルダが、仮想ディレクトリパスとして仮定されます。

Session("_GfDmUserDir") セッション変数

@文書登録の実行に必要な、Groupmax Document Manager が使用する作業ディレクトリを設定します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
Session("_GfDmUserDir") = Path
```

指定項目

Session("_GfDmUserDir") セッション変数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
Path	Groupmax Document Manager が使用する作業ディレクトリを指定します。

解説

Session("_GfDmUserDir") セッション変数を使うと、Groupmax Document Manager が使用する作業ディレクトリを設定できます。設定した作業ディレクトリは、@文書登録を実行したときに使われます。

Session("_GfDmUserDir") セッション変数は、ASP 伝票を起動する前に設定してください。作業ディレクトリを設定しなかった場合、@文書登録を実行するとエラーになります。

Session("_GfDmServer") セッション変数

@文書登録の実行に必要な、文書管理サーバのホスト名又は IP アドレスを設定します。

対象：VBScript の直接記述

構文

```
Session("_GfDmServer") = ServerName
```

指定項目

Session("_GfDmServer") セッション変数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
ServerName	文書を登録する文書管理サーバの TCP/IP のホスト名又は IP アドレスを、文字列で指定します。

解説

Session("_GfDmServer") セッション変数を使うと、@文書登録を実行して Groupmax Document Manager に文書を登録するときの、登録先の文書管理サーバのホスト名又は IP アドレスを設定できます。

Session("_GfDmServer") セッション変数は、@文書登録を実行する前に設定してください。文書管理サーバのホスト名又は IP アドレスを設定しなかった場合、@文書登録を実行するとエラーになります。

Session("_GfcLabel") セッション変数

案件の処理画面，及び添付ファイル操作画面に表示されるボタンのラベルや項目の見出しなどをカスタマイズする場合に作成します。カスタマイズするラベルの番号をキーに，ラベル文字列を項目として作成した Dictionary オブジェクトを設定します。

対象：VBScript の直接記述

構文

Set Session("_GfcLabel") = Dictionary オブジェクト

指定項目

Session("_GfcLabel") セッション変数の構文の指定項目を，次に示します。

指定項目	内容
Dictionary オブジェクト	カスタマイズするラベルの番号をキーに，ラベル文字列を項目として作成した Dictionary オブジェクト

解説

Session("_GfcLabel") セッション変数を使うと，案件の処理画面及び添付ファイル操作画面に表示されるボタンのラベルや項目の見出しなどをカスタマイズできます。

Session("_GfcLabel") セッション変数は，ASP 伝票を起動する前に設定してください。

カスタマイズできる画面の詳細については，「付録 C サンプルファイルの提供」を参照してください。

[例]

global.asa ファイルのセッション開始時に実行される処理に，ラベルをカスタマイズする処理を追加します。

```
Sub Session_OnStart
    Set Session("_GfcLabel") = _
        Server.CreateObject("Scripting.Dictionary")
    Session("_GfcLabel").Add "01008", "現在添付されているファイル一覧"
End Sub
```

GFormRedirect 関数

実行中の伝票からほかの伝票を呼び出します。

対象：VBScript の直接記述

構文

GFormRedirect(sSlipName)

指定項目

GFormRedirect 関数の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
sSlipName	呼び出す伝票の伝票名を指定します。伝票名は拡張子 (".asp") を付けないで指定します。

解説

GFormRedirect 関数を使うと、sSlipName で指定した伝票を呼び出すことができます。

呼び出す伝票は、呼び出し元の伝票と同じ仮想ディレクトリに置いておく必要があります。

GFormRedirect 関数は、項目処理にだけ記述できます。開始処理、前処理、後処理、最終処理、共通処理に記述した場合の動作は保証しません。

項目処理の途中に GFormRedirect 関数を記述した場合、GFormRedirect 関数より後に記述した処理は実行されません。

呼び出し元伝票へ戻った後に実行される処理は、次に示す RETURNPROC ASP 注釈で指定してください。

RETURNPROC ASP 注釈

GFormRedirect 関数で呼び出した伝票が終了した後に実行される処理を指定します。

構文

(* ASP RETURNPROC proc=returnproc *)

指定項目

RETURNPROC ASP 注釈の構文の指定項目を、次に示します。

指定項目	内容
returnproc	ASP 変換前の共通処理名を指定します。共通処理以外が指定された場合は ASP 変換エラーとなります。

5. 関数及びセッション変数の文法

解説

RETURNPROC ASP 注釈を使うと、GFormRedirect 関数で呼び出した伝票が終了した後に実行される処理を指定できます。

RETURNPROC ASP 注釈は、(* ASP VBSCRIPT START *) と (* ASP VBSCRIPT END *) の間に記述します。

RETURNPROC ASP 注釈を複数記述した場合、GFormRedirect 関数の直前に記述した RETURNPROC ASP 注釈で指定された共通処理名が有効となります。

GFormGroupEnd 関数

複数伝票すべてを終了します。

対象：VBScript の直接記述

構文

GFormGroupEnd

解説

GFormGroupEnd 関数を使うと、複数伝票すべてを終了できます。

GFormGroupEnd 関数を使って終了した場合、複数伝票すべての後処理、最終処理は実行されません。

GFormGroupEnd 関数は、複数伝票のすべての伝票に記述できます。GFormGroupEnd 関数を実行することで、最初に起動した伝票以外の伝票でも複数伝票すべてを終了できます。

付録

付録 A インストール方法

付録 B 操作画面ラベルのカスタマイズ

付録 C サンプルファイルの提供

付録 D 文書変換プログラム

付録 A インストール方法

クライアント側とサーバ側のインストール方法について説明します。

(1) クライアント側

Groupmax Web Workflow SDK セット for Active Server Pages が格納されている提供媒体から「install.exe」を実行するとインストールが開始されます。インストール開始後は画面に表示される指示に従って操作を進めてください。Groupmax Form Client for Active Server Pages のインストール先は、Groupmax Form Client - Design と同じフォルダに設定してください。

(2) サーバ側

WWW サーバを停止後、Groupmax Web Workflow サーバセット for Active Server Pages が格納されている提供媒体から「install.exe」を実行するとインストールが開始されます。インストール開始後は画面に表示される指示に従って操作を進めてください。

付録 B 操作画面ラベルのカスタマイズ

操作画面のラベルをカスタマイズする方法について説明します。

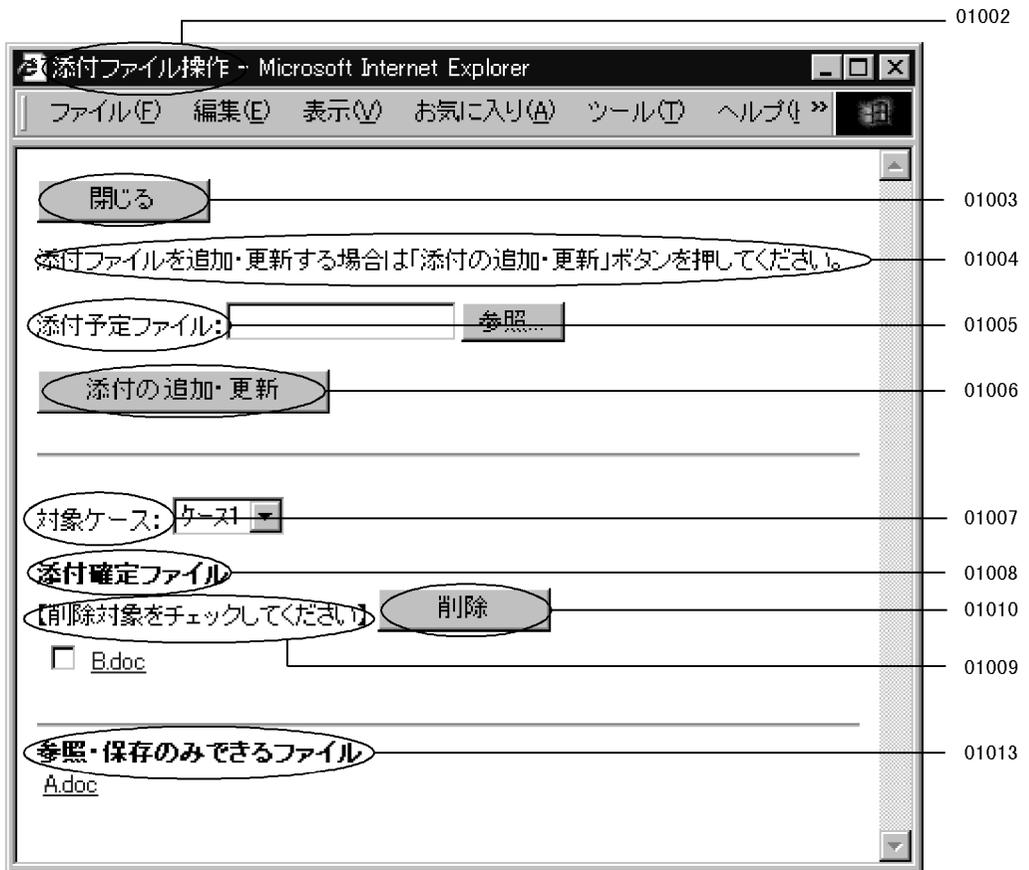
付録 B.1 添付ファイル操作画面

添付ファイル操作画面をカスタマイズするには、ASP 伝票を起動する前に VBScript の Dictionary オブジェクトを作成して、Session("_GfcLabel") セッション変数に格納し、キーをカスタマイズする「ラベルの番号」、キーと関連付ける項目の「ラベル」を設定します。

添付ファイル操作画面ラベルとラベルの番号の対応と設定例を示します。

(1) 添付ファイル操作画面ラベルとラベルの番号の対応

(a) @ 添付ファイル操作の操作種別が P 又は SA の場合

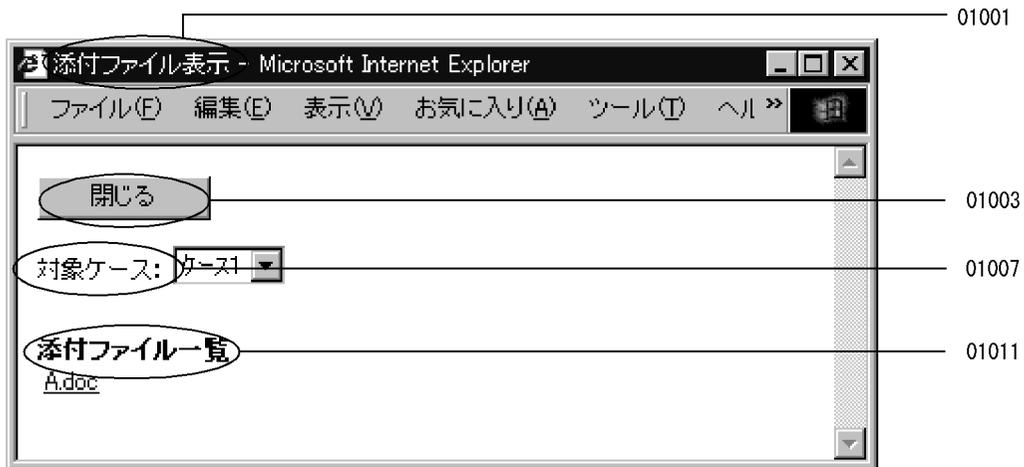


注意

- 操作種別がPの場合, "参照・保存のみできるファイル" 部分は表示されません。
- 案件のケースが一つの場合, 対象ケース部分は表示されません。

(b) @ 添付ファイル操作の操作種別がSの場合

1. 添付されているファイルがある場合



注意

- 案件のケースが一つの場合, 対象ケース部分は表示されません。

2. 添付されているファイルがない場合



注意

- 案件のケースが一つの場合, 対象ケース部分は表示されません。

(2) 設定例

global.asa ファイルのセッション開始時に実行される処理に, ラベルをカスタマイズす

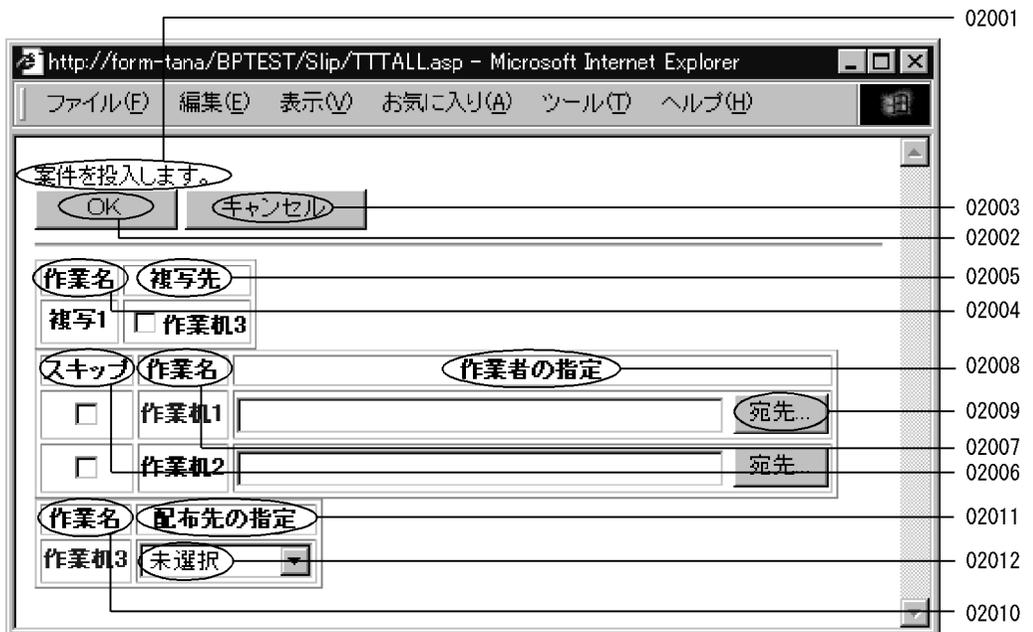
る処理を追加する設定例を次に示します。

キーをカスタマイズする「ラベルの番号」に「01008」、キーと関連付ける項目の「ラベル」に「現在添付されているファイル一覧」を設定した例です。

```
Sub Session_OnStart
  Set Session("GfcLabel") =
  Server.CreateObject("Scripting.Dictionary")
  Session("_GfcLabel").Add "01008", "現在添付されているファイル一覧"
End Sub
```

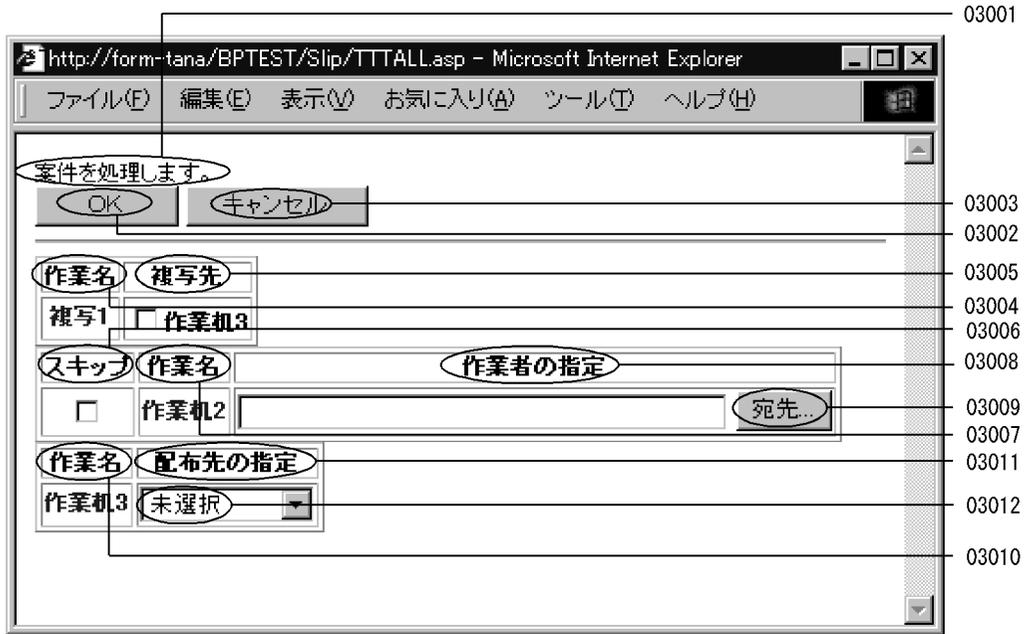
付録 B.2 案件投入画面

案件投入画面とラベル番号の対応を次に示します。



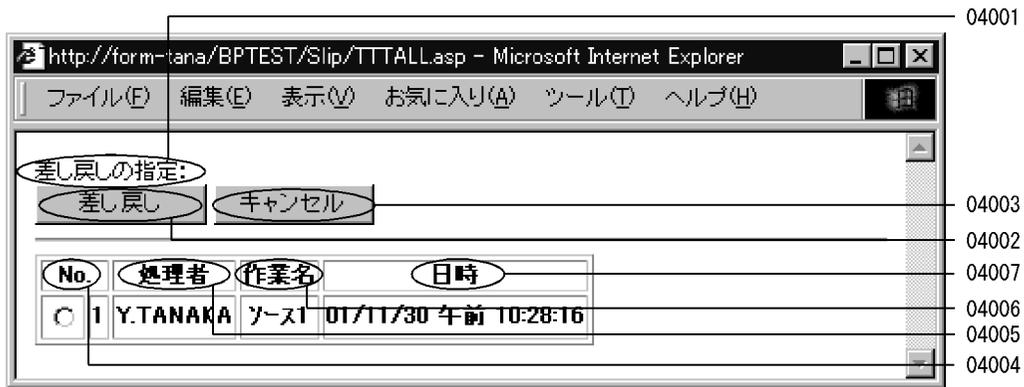
付録 B.3 案件遷移画面（遷移）

案件遷移画面（遷移）とラベル番号の対応を次に示します。



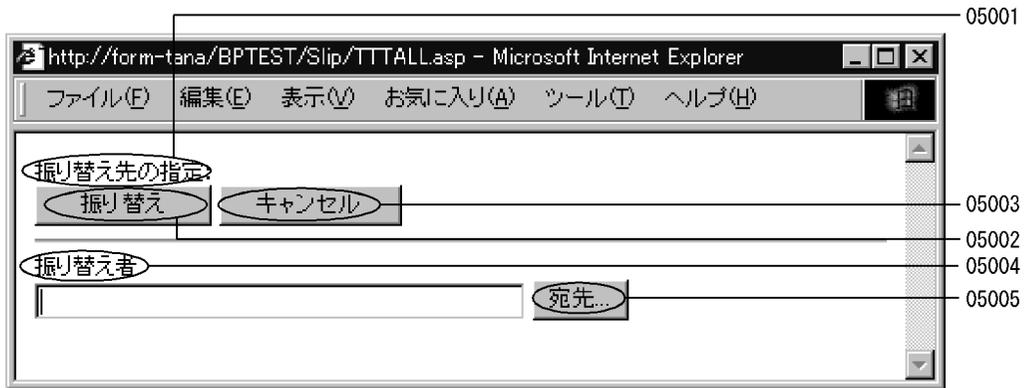
付録 B.4 案件遷移画面（差し戻し）

案件遷移画面（差し戻し）とラベル番号の対応を次に示します。



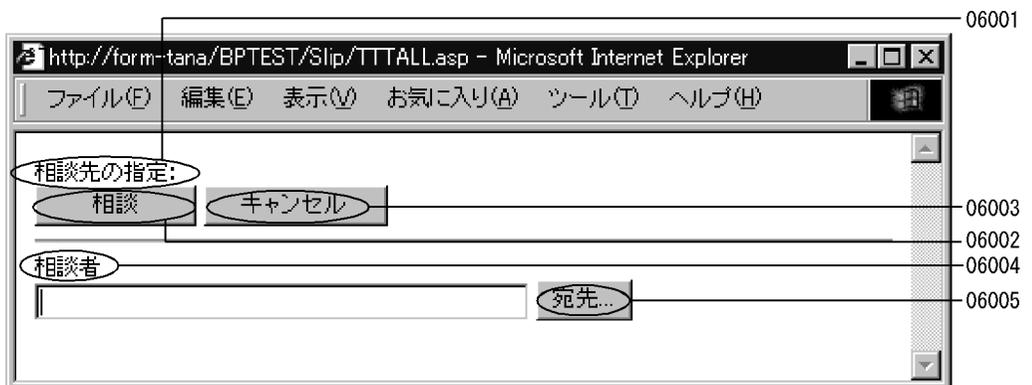
付録 B.5 案件遷移画面（振り替え）

案件遷移画面（振り替え）とラベル番号の対応を次に示します。



付録 B.6 案件遷移画面（相談）

案件遷移画面（相談）とラベル番号の対応を次に示します。



付録 C サンプルファイルの提供

伝票作成に利用できるサンプルを提供します。サンプルの詳細については、個々の README を参照してください。サンプルファイルは、Groupmax Form Client for Active Server Pages をインストールすると、次に示すフォルダにインストールされます。なお、初期設定での Groupmax Form Client for Active Server Pages のインストールフォルダは、C:\¥GMAXCL です。

インストールフォルダ ¥Form¥ASP¥Samples¥ 個々のサンプルフォルダ

(1) 捺印パスワード変更 (StampPwdChange フォルダ)

GFormChangePasswordDmh 関数を利用した捺印パスワード変更のサンプル伝票です。

(2) WWW ブラウザ保存関数 (UserData フォルダ)

Internet Explorer の userData ビヘイビアを使用した WWW ブラウザへの項目値保存機能です。この機能は、JavaScript の直接記述用に項目値の入力を GfsUserDataInput 関数、項目値の出力を GfsUserDataOutput 関数として提供します。JAVAONUNLOAD 記述に GfsUserDataOutput 関数を、JAVAONLOAD 記述に GfsUserDataInput 関数を記述すると、複数のセッションにわたって項目値を維持できます。例えば、伝票中のある項目を宛先項目として、この機能で宛先項目値を userData に出力及び入力すれば、一つ前に指定された宛先を WWW ブラウザ単位に保持できます。

なお、この機能は、Internet Explorer 5.0 以降でだけ使用できます。

(3) 文字列チェックコマンド (StringCheck フォルダ)

項目中の文字列が、半角カナ、半角数字、半角英数字、全角、全角ひらがな、全角カタカナ、整数、小数だけで構成される文字列かどうかをチェックするコマンドを提供します。

(4) スペース削除コマンド (VBFuncWrapper フォルダ)

文字列の前後のスペースを削除するコマンドを提供します。

(5) DB を利用した案件控え・再利用 (SaveWorkToDB フォルダ)

DB を利用した案件控え・再利用機能を提供します。なお、このサンプルは DB に Microsoft SQL Server 2000 を前提としています。

(6) Excel ファイル操作関数

実行中の伝票から Excel ファイルを操作できる JavaScript の直接記述用関数のサンプルを提供します。

このサンプルを使用して、実行中の伝票のデータを Excel のファイルに入力すると、表示、印刷、保存できます。

詳細については、Excel ファイル操作関数の README を参照してください。サンプルファイルは、Groupmax Form Client for Active Server Pages をインストールすると、次に示すフォルダにインストールされます。初期設定での Groupmax Form Client for Active Server Pages のインストールフォルダは、C:\GMAXCL です。

インストールフォルダ ¥Form¥ASP¥Samples¥ExcelPrint

このサンプルは、Microsoft Office 2000 (Microsoft(R) Excel 2000), 又は Microsoft Office XP (Microsoft(R) Excel 2002) を前提としています。WWW ブラウザは Internet Explorer 5.5 以降でだけ使用できます。

付録D 文書変換プログラム

一般文書の表示に伝票 .asp を使用する形式で文書管理サーバに登録されている文書を、XSL ファイルを使用する形式に変換するプログラムの使用方法について説明します。

(1) 前提条件

このプログラムを実行する場合、次の前提 PP をインストールしておく必要があります。

- Groupmax Integrated Desktop Version 6i (Document Manager Client)
- Groupmax Data Access Library for XML

(2) 文書変換画面

Groupmax Form for Active Server Pages をインストールしたフォルダの FADocCnv.exe を実行すると、次の画面が表示されます。

Groupmax Form for ASP 文書変換

Document Managerサーバ(D):

ユーザID(U):

パスワード(P):

XSLファイルパス(O):

ログファイルパス(L):

処理経過: 処理完了 (447 / 447)

文書変換: 0

スキップ: 447

コンバート済み: 8

XSLファイルなし: 353

編集モードにできない: 0

FormASPで作成した文書以外: 86

画面で指定する項目及び表示する項目について説明します。

Document Manager サーバ

変換する一般文書が登録されている文書管理サーバの TCP/IP のホスト名、又は IP アドレスを指定します。

ユーザ ID

文書管理サーバへログインするユーザのユーザ ID を指定します。

パスワード

文書管理サーバへログインするユーザのパスワードを指定します。

XSL ファイルパス

変換する一般文書の XSL ファイルを格納したフォルダのパスを指定します。

ログファイルパス

文書変換時のログファイルの出力先フォルダを指定します。

処理経過

処理の経過を、「(処理した一般文書の数 / 登録されている一般文書の総数)」の形式で表示します。

文書変換

変換した一般文書の数を表示します。

スキップ

変換をスキップした一般文書の数を表示します。スキップした理由ごとの詳細な数を以降の項目に表示します。

コンバート済み

既にこのプログラムによって変換されているか、又は XSL ファイルを使用する形式で文書登録された一般文書の数を表示します。

XSL ファイルなし

XSL ファイルパスで指定したフォルダに、対応する XSL ファイルが存在しないため、変換しなかった一般文書の数を表示します。

編集モードにできない

ほかのユーザが表示・編集中であるため、変換しなかった一般文書の数を表示します。

FormASP で作成した文書以外

FormASP で作成された一般文書でないため、変換しなかった一般文書の数を表示します。

(3) 文書変換処理**(a) 文書変換処理の開始**

[文書変換] ボタンをクリックすると、「Document Manager サーバ」で指定された文書管理サーバに、「ユーザ ID」、「パスワード」に指定したユーザ ID、パスワードで接続して、接続されたサーバに登録されている一般文書の文書変換処理を開始します。

(b) 文書変換

一般文書の表示に伝票 .asp を使用する形式の一般文書が登録されていた場合、一般文書の表示に XSL ファイルを使用する形式に変換します。

一般文書の表示に伝票 .asp を使用する形式の一般文書とは、XSL ファイルが作成されていない状態で、主文書登録方式の指定を省略して@文書登録コマンドを実行して登録した一般文書のことです。

一般文書を変換するには、一般文書を登録した時に使用した伝票の伝票名と同じファイル名の XSL ファイルを、「XSL ファイルパス」に指定したフォルダにコピーしておく必要があります。

「XSL ファイルパス」に指定したフォルダに、一般文書を登録した時に使用した伝票の伝票名と同じファイル名の XSL ファイルが存在しなかった場合、その文書は変換しないで処理をスキップします。

(c) ログの出力

文書変換処理中のログは、「ログファイルパス」に指定したフォルダに、「FaDocCnv.log」の名称で出力します。ログファイルは、文書変換処理を実行するたびに上書きされます。

(d) エラー発生時の処理

文書変換処理中にエラーが発生した場合、メッセージボックスを表示して、処理を中断します。

索引

記号

- @ AP 起動 87
- @ ASP 関数呼出 87
- @ CSV 出力 85
- @ CSV 入力 85
- @ DB クローズ 88
- @ DB 更新 88
- @ DB 参照 88
- @ FAX 画像消去 85
- @ FAX 画像表示 85
- @ FAX データ受信 88
- @ FAX 番号 87
- @ JUMP 84
- @ NOTES 添付ファイル 92
- @ NOTES 文書更新 92
- @ NOTES 文書登録 92
- @ NOTES 文書入力 92
- @ PDF 情報 88
- @ PF キー応答 86
- @ SQL 解除 91
- @ SQL コミット 91
- @ SQL 実行 91
- @ SQL 接続 91
- @ SQL フェッチ 91
- @ SQL プロシジャ 91
- @ SQL ロールバック 91
- @ 案件宛先 89
- @ 案件一括コメント 90
- @ 案件一括差戻先指定 90
- @ 案件一括次ノード指定 90
- @ 案件一括次ノードスキップ 90
- @ 案件一括次ノード選択 90
- @ 案件一括遷移 90
- @ 案件一括相談先指定 90
- @ 案件一括属性値 90
- @ 案件一括データ出力 90
- @ 案件一括データ入力 90
- @ 案件一括入力 90
- @ 案件一括複写先指定 90
- @ 案件一括振替先指定 90
- @ 案件一括ロール指定 90
- @ 案件切替 89
- @ 案件ケース情報 90
- @ 案件コメント 89
- @ 案件差戻先指定 89
- @ 案件差戻先取得 89
- @ 案件次ノード指定 89
- @ 案件次ノードスキップ 89
- @ 案件次ノード選択 89
- @ 案件詳細 90
- @ 案件情報 90
- @ 案件遷移 89
- @ 案件相談先指定 89
- @ 案件属性値 89
- @ 案件データ出力 89
- @ 案件データ入力 89
- @ 案件投入 89
- @ 案件トレー操作 89
- @ 案件複写先指定 89
- @ 案件複写先取得 89
- @ 案件振替先指定 89
- @ 案件振替先取得 89
- @ 案件ユーザ情報 90
- @ 案件ロール指定 89
- @ 案件ロール取得 89
- @ 案件ロールユーザ取得 89
- @ 一括添付ファイル操作 90
- @ 一括読込 88
- @ 色指定 86
- @ 演算精度 85
- @ オプション設定 85
- @ 回答文書 91
- @ 外部呼出 87
- @ 画像回転 85
- @ 画像設定 85
- @ 行削除 85
- @ 行挿入 85
- @ 共通手続 87
- @ 業務文書更新 91
- @ 業務文書添付ファイル 91
- @ 業務文書登録 91

- @業務文書入力 91
- @切上げ 85
- @切捨て 85
- @検索代入 84
- @更新 88
- @項目追加 84
- @コンボボックス 86
- @サーバ印刷 87
- @サーバ更新 88
- @サーバ実行 87
- @最終レコード 88
- @再入力 86
- @再表示 86
- @四捨五入 85
- @次伝票 84
- @受信データ削除 88
- @消去 86
- @初期値 85
- @書式印刷 87
- @処理終了 84
- @成立 83
- @占有解除 88
- @属性変換 84
- @代入 84
- @タイマ削除 84
- @タイマ登録 84
- @重複チェック 85
- @データ回復 85
- @手順実行 87
- @伝票発行 87
- @伝票表示 87
- @添付ファイル操作 89
- @電文消去 86
- @電文表示 86
- @捺印 85
- @捺印情報 85
- @捺印取消 85
- @入力切替 86
- @バッチ呼出 87
- @番地 84
- @判定開始 83
- @判定終了 84
- @反復開始 84
- @反復終了 84
- @表示切替 86
- @ファイル変換 85
- @不成立 83
- @プリンタ情報取得 87
- @プリンタ設定 88
- @分岐開始 84
- @分岐終了 84
- @分岐値 84
- @文書登録 91
- @ボタン切替 86
- @明細情報 85
- @明細スクロール 86
- @メイン伝票 84
- @メール 87
- @メール宛先 87
- @メール送信 87
- @メッセージボックス 86
- @文字削除 84
- @文字代入 84
- @文字置換 84
- @レコード削除 88
- @レコード登録 88
- @レコード入力 88
- @レポート印刷 87
- @連続終了 88
- @ログインチェック 85
- [Groupmax Form for ASP 設定のプロパティ]
] ダイアログボックスでの設定 46
- ¥¥AUTO 94
- ¥¥BP 名 95
- ¥¥Dnn 92
- ¥¥ERCODE 95
- ¥¥ERMSG 95
- ¥¥ERRTN 95
- ¥¥FILEnn 92
- ¥¥GNICKNAME 95
- ¥¥Gnnn 92
- ¥¥GPASSWORD 95
- ¥¥GUSERCOMPANY 95
- ¥¥GUSERFIRSTNAME 95
- ¥¥GUSERID 94
- ¥¥GUSERLASTNAME 95

¥¥GUSERNAME 95
 ¥¥GUSERORG 95
 ¥¥GUSERPOST 95
 ¥¥Lnnn 92
 ¥¥NIL 94
 ¥¥PK 94
 ¥¥SQLCODE 95
 ¥¥SQLERRMSG 95
 ¥¥SQLRTN 95
 ¥¥SQLSTAT 95
 ¥¥TAB 94
 ¥¥TIMING 95
 ¥¥ 案件識別子 95
 ¥¥ 案件状態 95
 ¥¥ 案件タイトル 95
 ¥¥ 改行 94
 ¥¥ 業務文書サーバ名 95
 ¥¥ 業務文書状態 95
 ¥¥ 検索件数 94
 ¥¥ 実行 PATH 94
 ¥¥ 使用中 94
 ¥¥ 入力件数 94
 ¥¥ 年号 94
 ¥¥ ノード名 95
 ¥¥ 明細行数 94
 ¥¥ 優先度 95
 ¥¥ 曜日 94

A

ALL 定数 96
 ASP 注釈の記述を使用した ASP 変換の設定 36
 ASP 伝票 2
 ASP 伝票の格納 41
 ASP 伝票の起動 60
 ASP 伝票のテスト表示 15
 ASP ファイルへの変換 39
 ASP 変換後の項目オブジェクト名を取得する 31
 ASP 変換後の項目名を取得する 31
 ASP 用伝票でのイベント処理の実行 82
 ASP 用伝票での処理の実行 82

C

CDATE 93
 CHKD 93
 CLIENTSIDE ASP 注釈 17

D

DASK 93
 DATE 93
 DBCNT 93
 DCNT 93
 DMA 伝票 2
 DMA 伝票の ASP 変換 33
 DMA 伝票の作成 14
 DMA 伝票の変換方式 15

E

Excel ファイル操作関数 144
 Exchange 環境の設定 54
 Exchange と連携する 22
 Exchange と連携するための環境設定 54

G

GETITEMNAME ASP 注釈 31
 GfExchgOutput 関数 119
 GfExchgSetInf 関数 122
 GfGetSlipName 124
 GfGetSlipTitle 125
 GFormAppendDocFile 関数 109
 GFormCancelDocFile 関数 111
 GFormChangePasswordDmh 関数 118
 GFormGetDocFileCount 関数 112
 GFormGetDocFileName 関数 113
 GFormGetDocFilePath 関数 114
 GFormGetItemInf 関数 115
 GFormGetItemRows 関数 117
 GFormGetItemValue 関数 107
 GFormGroupEnd 関数 135
 GFormRedirect 関数 133
 GFormSetItemValue 関数 108
 GFormWFEndProc 関数 126
 global.asa の編集 44

GORGINF 93

Groupmax Form Client での DMA 伝票の作成 14

Groupmax Workflow - Development Kit for ASP で業務共通部を作成した場合 42

Groupmax Workflow - Development Kit for ASP を使用しないで業務共通部を作成した場合 42

GRP 93

I

IIS 環境の設定 55

INCLUDE ASP 注釈 20, 30

J

JAVAFUNCTION ASP 注釈 29

JAVAONLOAD ASP 注釈 28

JAVAONUNLOAD ASP 注釈 29

JAVASCRIPT ASP 注釈 28

JavaScript で使用できる ASP 注釈 30

JavaScript で使用できる Groupmax Form for ASP の提供関数 32

JavaScript の直接記述 28

N

NDATE 93

Notes 文書に関する処理コマンドの使用 92

O

ODBC アクセス環境 56

ODBC ドライバの設定 56

R

RETURNPROC ASP 注釈 133

ROOT 93

S

Session("_GfcLabel") セッション変数 132

Session("_GfDmServer") セッション変数 131

Session("_GfDmUserDir") セッション変数 130

Session("_GFormCaseOID")セッション変数 128

Session("_GFormREFERER") セッション変数 127

Session("_GfTemplatePath") セッション変数 129

SQL 操作に関する処理コマンドの使用 91

SQL 操作の相違 98

STRCAT 93

STRICPY 93

STRLEN 93

STRSTR 93

STRTOMBC 93

STRTOUPP 93

SUM 93

T

TDATE 93

TIME 93

V

VBFUNCTION ASP 注釈 20

VBONREQUEST ASP 注釈 19

VBONRESPONSE ASP 注釈 19

VBSSCRIPT ASP 注釈 18

VBScript で使用できる Groupmax Form for ASP の提供関数 21

VBScript で使用できるセッション変数 27

VBScript の直接記述 18

W

WWW サーバの設定 45

WWW サーバへのファイルの格納 41

WWW 上での伝票の機能 2

WWW ブラウザでの処理の実行 15, 17

WWW ブラウザに表示される ASP 伝票の例 60

WWW ブラウザの操作 60

WWW ブラウザへの変数の送信を抑止する 36

X

XSL ファイル 36

Y

YCNT 93

あ

アクセス環境 56
 後処理 82
 案件オブジェクト ID を取得する 27
 案件オプション 77
 案件処理に関する処理コマンドの使用 88
 案件処理の相違 98
 案件遷移（差し戻し）62
 案件遷移（遷移）62
 案件遷移（相談）63
 案件遷移（振り替え）62
 案件投入 61
 案件の処理 61
 案件の処理画面 61
 案件の添付ファイルを操作する 22

い

イベント処理の実行について 82
 印刷の実行に関する処理コマンドの使用 87
 印刷前処理 82
 インストール方法 138

え

エラー処理方法 14

お

オブジェクト（OLE 項目）70

か

開始処理 82
 開発環境 7
 囲み罫線 71, 72, 73, 75, 76, 77
 囲み罫線の表示 34
 重ねて作成した項目 79

画像 70
 画面形式の詳細な相違について 78
 画面形式の相違について 70
 画面の変換方式 15
 画面をカスタマイズする 27
 簡易版複数伝票機能を使用する 22
 関数及びセッション変数の一覧 105
 関数及びセッション変数の文法 103
 関数の記述（JavaScript）29
 関数の記述（VBScript）20
 関数の使用 92

き

キー入力処理 82
 強制終了処理 82
 共通処理 82
 業務共通部 11
 業務共通部の作成 11
 業務共通部への ASP 伝票の登録 42
 業務の開始 60
 業務の作成手順 10

く

矩形 70
 クライアント環境 7
 グリッドの設定 78
 グリッド変換方式 35
 グローバル 92

け

罫線 70
 罫線属性 73

こ

項目及び伝票全体の属性について 71
 項目処理の記述（JavaScript）28
 項目処理の記述（VBScript）18
 項目処理の実行直後に実行する処理の記述 19
 項目処理の実行直前に実行する処理の記述 19

項目属性 72, 73, 74, 75, 76, 77
項目属性 (数値 , 桁数) 14
項目値を取得又は設定する 21, 32
項目定義を取得する 21
項目について 70
項目名の変換表 35
コメント 35
コンボボックス 72, 74
コンボボックスの初期表示 35

さ

サーバ環境 7
サーバサイドインクルードファイルの設定
45
再開始処理 82
最終処理 82
作業環境の設定 50
参照情報 72, 74

し

システム宛先テンプレートページの追加 43
システム構成 5
自動捺印を抑止する 38
使用するブラウザ 34
初期属性 77
処理コマンドの使用について 83
処理順一覧 77
処理全般の相違 96
処理定義の詳細な相違について 96
処理定義の相違について 82
処理定義の変換方式 17
処理の実行について 82
処理の流れに関する処理コマンドの使用 83
処理の流れの相違 96
処理の呼び出しに関する処理コマンドの使用
86

す

数値定数 96
スクリプトの直接記述 15
スクリプトファイルのインクルード
(JavaScript) 30

スクリプトファイルのインクルード
(VBScript) 20

せ

生成フォルダ 33

そ

総括項目 70, 83

た

タイマ処理 82

ち

チェックボックス項目 70, 83
チェックボックス項目の項目属性 74

て

定数の使用 96
データ操作に関する処理コマンドの使用 84
データ操作の相違 97
データベース操作に関する処理コマンドの使
用 88
データベースの共用 57
データベース利用時の設定 56
電子印の作成 14
電子印のパスワードを変更する 21
電子印ファイルの格納 41
伝票画面のテスト表示 38
伝票からの戻り先 URL の変更 43
伝票全体に関する属性 77
伝票の終了方法 14
伝票発行 77
伝票変換時の注意事項 39
伝票名 , ファイルタイトルを取得する 22
添付ファイルダウンロード用プログラムの設
定 45
添付ファイルの削除 66
添付ファイルの参照・保存 66
添付ファイルの操作 63
添付ファイルの追加・更新 65
テンプレートページの URL の設定 43

テンプレートページの仮想ディレクトリパス
を設定する 27

な

捺印機能の利用 67
捺印項目 70, 83
捺印項目の項目属性 76
捺印する 67
捺印を取り消す 67

に

入力領域 78

は

背景色 79

ひ

日付 92
日付情報の設定 46
表示・応答に関する処理コマンドの使用 85

ふ

ファイル 92
ファイル削除 85
ファイルタイトル 78
ファイルタイトルの指定 15
ファイルのアップロード 41
フィールド属性 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77
複数の明細部の作成 14
プッシュボタン項目 70, 83
プッシュボタン項目の項目属性 74
ブラウザへの表示完了時の処理の記述 28
文書管理との連携 14
文書管理に関する処理コマンドの使用 91
文書管理の設定 48
文書管理連携の作業ディレクトリ及び登録先
サーバを設定する 27

へ

ページ消去時の処理の記述 29

変換時の環境設定 33
編集 72, 74
変数の使用 92

ま

前処理 82

み

見出し項目 70, 82
見出し項目の項目属性 71

め

明細項目 70, 78, 82
明細項目の項目属性 73
メッセージ表示 72, 74, 76
メモ項目 70, 78, 83
メモ項目の項目属性 76

も

文字属性 71, 73, 74, 75, 76
文字定数 96
文字配置 79
文字列 70
文字列項目のエンコード 35
文字列の項目属性 71
戻り先 URL を設定する 27

ゆ

ユーザ固有引数の追加 43

よ

用紙属性 77
予約語の使用 94

ら

ラジオボタン項目 70, 83
ラジオボタン項目の項目属性 75

り

リッチテキスト項目 70,83

利用形態 2

ろ

ローカル 92

ログ出力の設定 52

わ

ワークフローとの連携 14

ワークフローと連携しない伝票の登録 43

ワークフロー連携用伝票の登録 42

(株) 日和 出版センター 行き

FAX 番号 0120-210-454 (フリーダイヤル)

日立マニュアル注文書

ご注文日	年 月 日
送付先ご住所	〒
お客様名 (団体名, 又は法人名など)	
お名前	
電話番号	()
FAX 番号	()

資料番号	マニュアル名	数量
合計		

マニュアルのご注文について、ご不明な点は
(株) 日和 出版センター (☎03-5281-5054) へお問い合わせください。